マツダ財団支援

# 市民活動報告書

第３８回（２０２２年度）

「マツダ財団支援 市民活動報告書　第38回（2022年度）」発刊について

当財団では、設立趣意書に込めた「人々が共に繁栄を分かち合い心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与する」ことを目的に、「科学技術の振興」と「青少年健全育成」を2本の柱として様々な支援を行っています。

この報告書は、当財団より2022年度に支援を受けられ青少年健全育成に取り組まれた市民団体の活動を紹介するものです。

当該市民活動支援は、次代を担う子どもたちが、いろいろなことに興味を持ち多くの感動を得ることのできる体験機会の提供や地域社会のコミュニティづくり等に尽力されている非営利市民団体による諸々の活動に対して1985年度から実施しているものです。

対象分野　・ボランティア育成
・地域連帯・コミュニティづくり
・若者の居場所づくり
・自然とのふれあい
・国際交流・協力
・科学体験･ものづくり

支援金総額　800万円　（10万円～50万円/団体）

支援件数　30件　（コロナ禍の影響で前年度及び前々年度から延期された12団体を含んだ42団体の内、1団体が来年度に延期、3団体は断念し辞退されましたので、38件の活動報告となります。）

支援期間　2022/4/1～2023/3/31

活動地域　広島県・山口県

なお、報告内容は、各団体から提出されたものです。

# も　く　じ

1．活動報告書


| No. | 対象分野 | 活動名 | 団体名 | 活動拠点 | | 支援金額（万円） | ﾍﾟｰｼﾞ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 地域連帯・コミュニティづくり | 人権紙芝居デジタル版の創作 | おんぷのまちプロジェクト | 広島県 | 安芸郡府中町 | 34 | 1 |
| 2 | 地域連帯・コミュニティづくり | 学育（自ら学んで周りが育む）プロジェクト | あいだす | 広島県 | 呉市 | 35 | 3 |
| 3 | 地域連帯・コミュニティづくり | 道しるべの先へ　～つながる～あなたは独りじゃない | 発達障害親の会　＊ＰＥＡＣＣＨ＊ | 広島県 | 広島市安芸区 | 17 | 5 |
| 4 | 地域連帯・コミュニティづくり | 大学生と小学生の共同平和発信　～ヒロシマの平和を考える絵画コンクールから絵おと芝居～ | Hiroshima Young Peace Builders | 広島県 | 広島市安佐南区 | 45 | 7 |
| 5 | 若者の居場所づくり | オリジナルマスキングテープとボード　～想像と創造のワークショップ～ | HIROMARU PROJECT | 広島県 | 広島市安佐北区 | 38 | 9 |
| 6 | 地域連帯・コミュニティづくり | ふかわ子ども食堂 | ふかわ子ども食堂 | 広島県 | 広島市安佐北区 | 17 | 11 |
| 7 | 科学体験・ものづくり | ペーパークラフトロケット教室 | ひろしまＣａｎＤｏ（かんどう）プロジェクト | 広島県 | 広島市佐伯区 | 26 | 13 |
| 8 | 地域連帯・コミュニティづくり | 昔遊びの伝承と指導 | やはた昔遊びの会 | 広島県 | 広島市佐伯区 | 10 | 15 |
| 9 | 地域連帯・コミュニティづくり | 子どもの放課後学習支援 | 宿題やっつけ隊 | 広島県 | 広島市佐伯区 | 31 | 17 |
| 10 | 地域連帯・コミュニティづくり | 自分たちの手で地域の景色を変えていこう！ | 似島・通学路沿いの竹林を整備する会 | 広島県 | 広島市西区 | 30 | 19 |
| 11 | 地域連帯・コミュニティづくり | ～お寺本堂での小学生の学習支援と居場所づくり～ | 妙聲寺　ほのぼの寺子屋 | 広島県 | 広島市西区 | 10 | 21 |
| 12 | 地域連帯・コミュニティづくり | River Do! for Future　～広島水の都文化の次世代への継承～ | RiverDo!　基町川辺ｺﾝｿｰｼｱﾑ | 広島県 | 広島市西区 | 25 | 23 |
| 13 | 若者の居場所づくり | ワカモノとつくるみんなの居場所 | Cafe地球屋 | 広島県 | 三次市 | 30 | 25 |
| 14 | 地域連帯・コミュニティづくり | 里山・里川の宝リレー | 里山の宝リレークラブ | 広島県 | 三次市 | 24 | 27 |
| 15 | 地域連帯・コミュニティづくり | ドローンで繋ぐ農家と子供たち | 近畿大学工学部　教育情報システム研究室 | 広島県 | 東広島市 | 30 | 29 |
| 16 | 若者の居場所づくり | こども・若者と多世代の体験活動　～空き倉庫リノベーション活動～ | 浦崎地区社会福祉協議会　ＵＭＥプロジェクト | 広島県 | 尾道市 | 36 | 31 |
| 17 | 科学体験・ものづくり | 「福山のバラ」でお香開発 | 子どもが科学に親しむ場を創る会 | 広島県 | 福山市 | 25 | 33 |
| 18 | 科学体験・ものづくり | ものづくりの基礎となる空間力を養う体験学習を地域文化財から学ぶ活動 | FLAMEWORK JAPAN | 広島県 | 福山市 | 27 | 35 |
| 19 | 科学体験・ものづくり | 小中学生の自由な発想力を育む地域に根差した情報番組制作ワークショップの実施 | Project SMILE | 広島県 | 福山市 | 43 | 37 |
| 20 | 地域連帯・コミュニティづくり | 高校生マイプロジェクトアワード広島県Summit | 一般社団法人　まなびのみなと | 広島県 | 豊田郡大崎上島町 | 38 | 39 |
| 21 | 科学体験・ものづくり | 育って！広がれ！未来の地球　ミニソーラーカー工作教室 | 宇部市地球温暖化対策ネットワーク | 山口県 | 宇部市 | 33 | 41 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22 | 地域連帯・コミュニティづくり | 自転車危険マップづくりとルール啓発による交通安全コミュニティの取り組み | うべ交通まちづくり市民会議 | 山口県 | 宇部市 | 13 | 43 |
| 23 | 科学体験・ものづくり | 絶滅危惧Ⅱ類「ヤマグチサンショウウオ」を教材とした自然環境教育の実践 | 小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会 | 山口県 | 下関市 | 17 | 45 |
| 24 | 若者の居場所づくり | みかん山を活用したひきこもり自立支援 | 特定非営利活動法人　Ｎｅｓｔ | 山口県 | 下関市 | 30 | 47 |
| 25 | 自然とのふれあい | 島田川流域と海を結ぶSDGｓアクション | ひかりエコメイト | 山口県 | 光市 | 20 | 49 |
| 26 | 自然とのふれあい | 森の豊かさを知る　～身近な森の木で学習机を作ろう～ | 特定非営利活動法人　もりのこえん | 山口県 | 山口市 | 25 | 51 |
| 27 | 自然とのふれあい | 体験は学びのDIY　～地域資源の中で共に育み合う学び環境作り～ | 一般社団法人 Happy Education | 山口県 | 山口市 | 34 | 53 |
| 28 | 地域連帯・コミュニティづくり | しゅうなん鹿野こどもマルシェ | 未来をつくる鹿野人KANOA | 山口県 | 周南市 | 15 | 55 |
| 29 | 地域連帯・コミュニティづくり | かつまよいち | 勝間コミュニティ推進協議会 | 山口県 | 周南市 | 32 | 57 |
| 30 | 地域連帯・コミュニティづくり | ほうふのれきしを学ぼう！知ろう！なぜ？なに？　～ミュージアムforキッズ～ | 古文書を読む会 | 広島県 | 防府市 | 10 | 59 |
| 31 | 若者の居場所づくり | 坂町　探検！発見！やってみよう！ | めがねピクニック | 広島県 | 安芸郡坂町 | 33.5 | 61 |
| 32 | 科学体験・ものづくり | プログラミングの輪！ | プログラミング大好き | 広島県 | 広島市中区 | 41 | 63 |
| 33 | 若者の居場所づくり | 小学生のための放課後インターナショナルスクール | みんなの家　House for All | 広島県 | 広島市南区 | 41 | 65 |
| 34 | 地域連帯・コミュニティづくり | 自然・学校・家庭を繋ぐ体験活動 | 里山暮らしネット | 広島県 | 三次市 | 24 | 67 |
| 35 | ボランティア育成 | ブッポウソウ保護活動ボランティアの育成 | めんがめ倶楽部 | 広島県 | 三次市 | 24 | 69 |
| 36 | 科学体験・ものづくり | モノづくりとプログラミングを軸とした、異種活動・競技間の結び付け活動 | ﾛﾎﾞｶｯﾌﾟｼﾞｭﾆｱｼﾞｬﾊﾟﾝ広島ﾌﾞﾛｯｸ運営委員会 | 広島県 | 広島市安佐北区 | 20 | 71 |
| 37 | 科学体験・ものづくり | 地域社会と連携した子育て健全育成サポート | 日立のぞみ会 | 山口県 | 柳井市 | 43 | 73 |
| 38 | 青少年の居場所づくり | YAMATOくれびと　令和PROJECT 「踊りの和を拡げてふるさとを元気に！」 | YAMATOくれびと | 広島県 | 呉市 | 30 | 75 |

２．贈呈式 77

３．オンライン交流会 79

４．オンラインサロン 80

５．市民活動支援セミナー 81

６．支援団体News 82

７．終了時交流会 83

８．公募～報告書冊子発行までの流れ 87

９．応募＆採択に関するデータ 88

| 活 動 名 | No.1 | 団 体 名 | おんぶのまちプロジェクト |
|---|---|---|---|
| **人権紙芝居デジタル版の創作** | | 活動拠点 | 安芸郡府中町 |
| | | 代 表 者 | 中村　由利江 |
| | | 支援金額 | 34 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成時期：2021 年 7 月

構成メンバー：中村代表、府中町内人権擁護委員、音楽家、劇団員、学校支援員、
代表の応援者８人

結成の目的：人権啓発紙芝居のデジタル化、音楽制作、読み聞かせ後継者の育成

活動方針：府中町内各学校や町立図書館の読み聞かせグループの方に読み聞かせ後継者となってもらい次世代に人権紙芝居を引き継いでいく。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

６月３０日：打ち合わせ会議（７人参加）　人材育成やデジタル化音楽制作について話し合い
・ヒューマンフェスタ 2022 でお披露目できるか交渉する。
・人材育成は、モデル校として中村代表がなじみのある北小学校を選定、読み聞かせグループと交渉する。
・紙芝居のデジタル化は、障害者支援のため就労支援施設のデジタルバターに依頼。
・音楽制作は、ヒューマンソングループ　ザ・わたしたちに依頼する。
→交渉の結果、ヒューマンフェスタでのお披露目、北小読み聞かせグループ承諾

８月：デジタルバターより、オリジナルキャラクターの納品有　ヒューマンフェスタの周知ポスター、チラシでの起用
８月：イメージソング案をみんなで確認し、決定。（LINE グループで確認）
９月　３０日：ヒューマンフェスタお披露目に向けた打ち合わせ、練習（９人参加）
10 月３日：ヒューマンフェスタお披露目に向けた打ち合わせ、練習（10 人参加）
11 月：北小学校読み聞かせグループとの打ち合わせ、練習（２人参加）
11 月１５日：ヒューマンフェスタお披露目に向けた打ち合わせ、練習（10 人参加）
11 月２７日：ヒューマンフェスタお披露目
12 月５日：北小３年生人権紙芝居の読み聞かせ　練習（9 人参加）
12 月６日：北小３年生人権紙芝居　読み聞かせ
12 月 15 日：次年度に向けた話し合い（8 人参加）

おんぷのまちのものがたりデジタル版

ヒューマンフェスタ 2002 でのお披露目

北小読み聞かせグループとの読み聞かせ練習

北小での読み聞かせ

◆実施に伴う効果

人権紙芝居のデジタル化により、PPTができより広い場所でたくさんの人数での読み聞かせが可能となった。
北小読み聞かせグループのアイデアで北小オリジナルの演出があり、同じ紙芝居でも広がりが加わった。
音楽制作をしてくれたザ・わたしたちがテーマ曲に手話をつけてくれたため、子ども達に歌と手話を一緒に楽しむことが出来た。
会員が紙芝居を音楽つきで動画作成し、ヒューマンフェスタ2022の際、府中町人権推進室の協力のもとYouTube動画として配信することができた。

◆苦労した点

会員がそれぞれ、様々なボランティア活動をしているため全員が集まって参加することが難しかった。
デジタル化について見積もり依頼時の思いが業者と違っていたため当初予定の２話分のデジタル化ができなかった。

◆今後の課題・発展の方向性

第２部のデジタル化を進め１部と同様に音楽制作と共に行い、手話、ボランティア養成マニュアルをパッケージ化して、全国の子ども達の人権啓発の取り組みに活用してもらえるよう配信していく。

◆活動を終えての感想・意見等

「一人一人大切な命」をテーマに代表が制作し 10 年間一人で活動した紙芝居が、マツダ財団様とたくさんの人の力により、次世代に繋ぐ紙芝居に広がりました。人権には様々なテーマがあり２部、作成中の３部まで、全国に配信できるよう継続していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

| 活 動 名 | No. 2 | 団 体 名 | あいだす |
|---|---|---|---|
| **学育（自ら学んで周りが育む）プロジェクト** | | 活動拠点 | 呉市 |
| | | 代 表 者 | 大橋まり |
| | | 支援金額 | 35 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

2019 年に結成し、オープンしたのは昨年の１月、メンバーは 20 代がメインですが、上は 70 代までの人が関わっています。
この場所は、大人から子どもまで、自分が興味のあることができる場をつくり、世代を超えて同じ空間と時間を共有することで、大人は忘れていた感覚を取り戻し、子どもは自分が熱中できることと出会えるきっかけになる場所をみんなで育てていく。
大人が本気で楽しんでいる姿や真剣に取り組んでいる姿を見て子どもも興味をもったり、その場自体が学びになると考え、自らの意志でまずは興味のあることを発見し、周りがその学びを育む環境をつくりたいと考えています。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

この場所は主体的に関われる場を目指しており、私たちがやっていることは関わる余白を残すことです。ルールは決めず、完璧にするのではなく関わる私たち自身も自然体であることを大切にしています。

**・地域の方々とのイベントを実施**

（地域の方々から積極的にこれをやりたい！という声が上がるようになりました。地域の食文化を学べる時間もあり、島外から来た人や久比中の人々が積極的に参加していました。）

**・地域の方々の居場所づくり**

（自分のたちの畑のように毎週来てくれ、私たち以上に畑やあいだすを大切に思ってくれています）

**・呉市子育て支援課の放課後子供教室の受け入れを実施**

（高校生たちが企画したイベントを実施、子供の母数は少ないのですが、ほぼ毎日あいだすに子供たちの声が聞こえるようになりました。子供ではなく１人の人として関わることを大切にしています。）

**・あいだすに興味のある滞在者を全国から募集**

（滞在者を募集し、活動してもらいました。ものを作る人もいれば、持ち込んだ問いを深める人も。）

**・東京の新渡戸文化高校のスタディツアーを６月と 11 月で実施**

（高校生自らが地域の方々に関わり、インタビューなどを行い、気づきを発表してくれました）

**・叡啓大学のインターン生の受け入れを実施**

（興味があることを２週間の滞在期間に実行し発表してくれました）

◆実施に伴う効果

計画通り、外から人を呼ぶことを目的に助成金を使用させていただき、それに伴い、発生する消耗品や食品の買い出しにかかる移動費などにも活用させていただきました。

滞在者を募集できたことによって、自分たちも外に視察に行くことに時間を使えたりと、より有意義に過ごすことができました。また、滞在者と地域の小中学生との交流は、お互いにとって良い刺激となったようです。特に、子供達にとっては、「大人」よりも身近な「大学生」がいることで、進路の相談などもすることができ、島という閉鎖的な場でも様々な気づきがあったと話してくれました。

地域の大人にとってもこの場所はいろんな人がくる場所だと認識してもらえるようになりました。また、ここに滞在してくれた人が次の人を繋いでくれたりと輪が広がっていく感じがしました。

1 年間観察を続けた中で印象的だったことは、ここに来る人が皆、「あいだすはなんかよく分からないけど居心地がよかった」と言ってくださることです。1 年目から慌ただしく運営やお金のことを考えるだけで終わっていたら、そんな場にはなっていなかったかもしれません。自分たちが自然体で、来る人たちと余裕を持って関われる状態であることがとても大切だということも分かりました。

◆苦労した点

・いろんな人がくる場所だからこそ、ものが散らかっていたり、忘れ物が多かったり、収納してもすぐにものがどこかへ行ってしまうことが多かった

→あえて今までルールのようなものは引かずに運営してきたが、みんなの場所であるからこそ、それを保てる仕組みづくりが重要であると感じグランドルールを作成することに。

・あいだすらしい持続的な運営とはなんなのか 1 年間議論をし続けました

→お金をつくることも含めて、どのような状態がベストなのかを改めて話し合いました。学びの場という要素もあるため、自発的にここで何かしたい人から利用料をもらうのではなく、別の形はないのか模索しています。一つは呉市の子育て支援課のような、自治体や県とのコラボレーションだと思い、今年はアプローチしていきたいと考えています。

◆今後の課題・発展の方向性

来年度は、より外に向けて発信していきたいと考えています。また、私たち同様あいだすの運営に関わってくれる人を募集し、いつ来ても人が活動している状態を目指します。現在、イベントや滞在型プログラムを行っていき、全国から人が来るような企画を実行中です。

久比には中高生がいないため、広島県内や他地域からも来れる導線を作りたいと考えており、呉市や今まで関わってくれている方々のコラボレーションを通じて実施していければと思います。

長期で滞在できる人は積極的に受け入れ、それができる環境を整えていきたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度はまずは地域の方々にあいだすが受け入れられることを目的に活動しました。その上であいだすに興味がある人に滞在してもらうことで、運営側にも気づきと、次のアクションのアイデアを考えるきっかけとなりました。本助成金がなければ、積極的に人を受け入れたり、移動することも難しかったと思いますので感謝しております。

また、対面の交流会では研究者や他活動の方々とお話しすることができ、今まで会うことができなかった方々とも繋がることができてよかったです。名刺を交換することもでき、お互いの活動を見にいく計画も進んでいます。

オンラインの交流会では個人的に話しかけたりすることは難しかったため、最後の交流会はとても良い時間でした。また、自分たちの活動にも、行ってみたい！という声をいただくことができ、とても嬉しかったです。

| 活 動 名 | No.3 | 団 体 名 | 発達障害親の会*PEACCH* |
|---|---|---|---|
| **道しるべの先へ**<br>～つながる～あなたは独りじゃない | | 活動拠点 | 広島市安芸区 |
| | | 代 表 者 | 唐内　愛 |
| | | 支援金額 | 17 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

1. 結成時期　2012 年に発足し、2022 年に 10 周年を迎えました
2. 構成メンバー　スタッフ４名、準スタッフ２名、
   会員登録数 154 名、60 世帯、対象児 67 名(2023.1.1 現在)
3. 結成の目的　発達支援センターへ通う子どもを持つ保護者４人が、今後の家庭支援の在り方を模索する過程で保護者の理解の拡充と、全ての子どもたちの健やかな育ちを願い、会を発足しました。
4. 活動方針　保護者の立場から、障害に対する知識を深めること「保護者の私たちでもできることはある」、そのためにも「一緒に学んでいきましょう」というスタンスです。同じ立場の親子・家族の方たちと活動を続けています。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

【子どもの自立活動支援】　（延べ参加人数：大人 32 名、子ども 72 名）

- 呉ポートピアパークでの活動　6/19、10/10〔内容〕体操、室内遊び、カードゲーム、屋外でスポーツ等
- ＺＯＯＭ開催　5/15、 9/19〔内容〕体操、ソーシャルスキルトレーニング、ゲーム等
- 安芸区地域福祉センター会議室　11/3、3/21〔内容〕体操、ソーシャルスキルトレーニング、軽い運動等

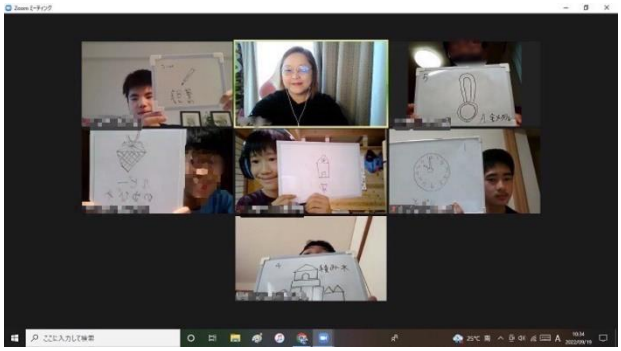
【１０周年記念活動】　（延べ参加人数：大人 22 名、子ども 34 名）

- 「親子でお出かけ～みんなでルールを守って遊ぼう」8/4　場所：US KidsLAND 広島ベイサイド店
  〔内容〕参加者でチームに分かれて卓球、ビリヤード、サッカー、バドミントン等を楽しみました。
  ゲームのルールを守ること、道具の貸し借りのマナー、また公共の場でのコロナ感染対策を各自でどのようにするのか、など友だちと遊ぶ中での社会的なふるまいやコミュニケーションの学びをねらいとしました。
- 「ＺＯＯＭ学習支援勉強会」（全２回）1/29、2/5〔内容〕Ipad のアプリ２種を使用し、文章の読解力をつけるコツを学び、それを日常の学習で活かす方法を講師から学びました。

【保護者交流会】　（延べ参加人数：160 名）　※場所は主に安芸区地域福祉センター会議室

- 「先輩保護者に学ぶ」（計６回）4/22、5/27、7/15、10/28、2/17、3/10
  〔内容〕先輩保護者を講師としてお招きし、家庭での支援方法、工夫されている事などを伺いました。
- 「ＤＶＤ上映会＋勉強会」（計３回）6/24、9/12、1/20
  〔内容〕子どもを家庭で支援する際の考え方やコツ、実例をＤＶＤを視聴して勉強しました。
- 「ＺＯＯＭ納涼会」8/20〔内容〕楽しい話題も困り事も「ＺＯＯＭのみ」で発散して、ストレスの軽減をねらいました。　※秋ランチ会はコロナ感染者数拡大により中止

保護者のＤＶＤ上映会の様子



ZOOM での子供たちの絵しりとりの様子

自立活動でのバトミントンの様子

１０周年記念イベント、「親子でお出かけ」の様子

◆実施に伴う効果

【子ども】

会発足時の、親子一緒の活動から、徐々に子どもたち自身の「自立活動」へとシフトし、子ども本人が主体的に考え、動けるようになることをねらい、内容を変えてきました。スタッフ側が、このコロナ禍なりに出来ることをある程度準備、指導することで、子ども達それぞれのペースの成長が見られました。不安が強いタイプの子どもさんも、一人で電車を利用して活動会場に移動することに挑戦してみたり、ＺＯＯＭでは、人前での発言に不安がある子どもさんが自信をもって自分の意見を言うなど、嬉しい驚きが何度もありました。この数年の活動で、学校の友だちとの過ごす時間とはまた違う、第三の場所と同じ特性を持つ仲間として、これからも活動を楽しみにしてくれている子どもさんもおり、スタッフとしても意義を感じています。

【保護者】

交流会では、先輩保護者の話を聞くことや勉強会を通じて、子どもの成長と共に増える新たな課題にどう向き合うか、ともに学ぶことが出来ました。また自立活動に同伴した際には、人と関わる中で子どもに伝えたい課題に気づくきっかけになり、それをまた保護者間で共有することで、互いにより良い支援を考える機会を得ることが出来ました。

◆苦労した点

続いているコロナ感染症対策として、開催をリアル開催にするか、ＺＯＯＭ開催にするか、その都度スタッフ間で相談して決定しました。リアル開催にする場合、通常利用する会場をワクチン接種会場として行政が使用されていた為、確保が難しいことが数度ありました。また自立活動の場合、道具や物を使う頻度が高く、使用の都度の消毒を子どもたちにも意識づけました

◆今後の課題・発展の方向性

今年弊会は１０周年を迎えました。発足当初は小さかった子ども達も、今は中学生、高校生となり、成長に伴う新たな課題が出てきています。私たちも自分自身の健康管理や、親族の介護など平行して担う役割も出てきており、無理なく、息の長い活動を続けていけるよう、より良い継続の形を探していこうと考えております。

また、これまでインターネットやＳＮＳを利用した会の普及活動はしてきましたが、新たに紙パンフレットを作成しました。福祉事務所やデイサービスなどに置かせて頂き、今まで届いていなかった方にも会の存在を知って頂き、相談できる場所として認知して頂くことを期待しています。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度、参加者を増やすべく色々な工夫をしましたが、長引くコロナ禍で参加を躊躇される会員の方が多かったのが残念でした。弊会は、2016～2018 年度と今年度と、計４回マツダ財団様からご支援を賜りました。初年度から常に感じることとして、「外部の方に私たちの活動を評価して頂いた」という喜びと、それに恥ずかしくない活動にしたいという良い意味でのプレッシャーがありました。スタッフ一同、気持ちの上で大きく支え続けて頂いていると感じます。また、様々な思いをもって社会貢献されている他団体様の活動の様子を知る機会を頂いたことも、大変励みになりました。皆様に感謝申し上げます。お世話になりました。ありがとうございました。

| 活 動 名 | No.4 | 団 体 名 | Hiroshima Young Peace Builders |
|---|---|---|---|
| **大学生と小学生の共同平和発信** ～ヒロシマの平和を考える絵画コンクールから絵おと芝居～ | | 活動拠点 | 広島市安佐南区 |
| | | 代 表 者 | 佐藤　優 |
| | | 支援金額 | 45 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

２０２１年１２月に結成した、広島市立大学国際学部の学生 5 人による団体。活動の目的として、①小学生に平和の尊さを学ぶ機会を提供する。②広島の歴史を物語として広く発信するとともに、地域で活用してもらうことで、被爆の実相を後世に残す。の 2 つを掲げている。団体結成のきっかけは、佐伯区民文化センターで開催されたヒロシマ絵おと芝居の上映会を手伝ったことである。メンバーの半数は広島で平和について学ぶため広島の大学を選んだこともあり、入学後も平和記念資料館における資料整理やふくしま絵うた本の制作支援など、ヒロシマに関わる多くの活動に取り組んでいる。

| 活動概要 | ・シナリオ作りのため、切明さんへの聞き取りや被服支廠を視察。そしてシナリオ作り(4-6 月)<br>・YouTube に載せるための朗読動画制作(7 月)<br>・児童館や公民館等での朗読会、作画会(7-8 月)<br>協力してくださった方々は、まち物語制作委員会からの紹介や、私たちからの電話等で繋がることが出来た。<br>・子どもたちからの絵の募集(7-8 月)　全部で 76 点集まった。<br>・審査会(9 月)　5 名の審査員をお呼びし、受賞作品を選んだ。<br>・紙芝居作家による紙芝居の原画制作(11 月)<br>・絵おと芝居の上演(12 月)　森音楽教室の方のご協力を得ての発表。まち物語制作委員会が昨年上演した絵おと芝居でご一緒した森音楽教室の方々に依頼し、ご協力いただけることとなった。<br>・表彰式(12 月)<br>・その他、広島市内の図書館への制作絵本配布、追加上演依頼の対応等 |
|---|---|

坂みみょう保育園での朗読会

YouTube 撮影

番査会

絵おと芝居

◆実施に伴う効果

この度の活動に関わってくれた小学生の声として、「戦争は絶対にしてはいけないと思った。」「被服支廠に行ってみたくなった」などの声をいただくことができ、私たちが届けたかったメッセージを届けることができたと思う。

また、多くのメディアにも取り上げていただいた。

・2022 年 7 月　　YouTube に動画「8 月のウサギ～被服支廠物語～」をアップ。
（https://www.youtube.com/watch?v=vaTetf7l9j8&t=160s）

被服支廠題材に物語
ウサギ主人公 子どもに訴え

被服支廠題材に紙芝居
広島市立大生グループ 生演奏付きで4日披露
小学生の絵アレンジ 幼児から社会人まで共演

・2022 年 7 月 20 日　中国新聞掲載

・2022 年 11 月 3 日 @国際会議場
広島市主催 市民平和文化イベントに参加。
「8 月のウサギ～被服支廠物語～」の上演と、
活動紹介の展示。
（11 月 2 日　読売新聞掲載）

・2022 年 12 月 4 日　@佐伯区民文化センター
森音楽教室（佐伯区）の発表会の第 2 部として「8 月のウサギ～被服支廠物語～」を上演。
（11 月 30 日　中国新聞掲載）

・12 月 29 日　広島ホームテレビにてドキュメンタリー放送。
「紙芝居でつなぐ赤レンガの記憶～旧陸軍被服支廠物語」
**（https://www.youtube.com/watch?v=4Z6a2RZMJxA）**

◆苦労した点

多くの市民を巻き込んでの活動になったため、嬉しい反面、どう一つにまとめていけるかという責任感や悩みが大きくなったことがあった。出会った方一人ひとりと上手にコミュニケーションをとり、混乱を招かないようにと頭では思っていたが、うまくコミュニケーションがとれず、絵おと芝居直前で練習がスムーズに進まないという事態になってしまった。外部との連絡を取る人を 1 人に集中させるのではなく、分担していくべきだったと反省している。さらに、役割分担の点に関しては、仕事をうまく振り分けることができなかったために、チーム内で衝突してしまうことがあった。朗読会や平和イベント、絵おと芝居の発表会と、様々なイベントの中で、メンバーで協力することができず、一人に仕事が偏る場面が出てきてしまった。この点も、もっと話し合いを重ねて仕事をみんなで等しく分担し、協力し合うべきであったと思っている。

◆今後の課題・発展の方向性

来年度は今年度のように活動していく予定はないが、紙芝居としての読み聞かせ会（１回）や、絵おと芝居（２回）の上演を予定している。

◆活動を終えての感想・意見等

活動開始当初に予定していたよりも、多くの人や地域にご協力いただくことができ、とても幸せな一年になった。初めてのことばかりでいろいろな人を混乱させてしまったこともあるが、優しく見守っていただける方々に出会えて、無事最後まで活動することができた。いくつかの活動の節目では、いつも井上さまが来てくださり、一年間、助成金だけでなく活動の面でもサポートしていただいた。心より、この度のご支援に感謝申しあげたい。

| 活 動 名 | No. 5 | 団 体 名 | HIROMARU PROJECT |
|---|---|---|---|
| **オリジナルマスキングテープとボード**<br>～想像と創造のワークショップ～ | | 活動拠点 | 広島市安佐北区 |
| | | 代 表 者 | 藤井　大樹 |
| | | 支援金額 | 38 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

私たち HIROMARU PROJECT は 2021 年の夏に結成した有志団体です。５名という小さな団体ですが、「こういうものがあれば」という青少年に関わる現場から生まれる小さな声を、形にしていくこと。またそうした活動を通して、青少年も活動者も皆が豊かな心で豊かな時間を過ごせるようになることを目的として結成いたしました。

活動方針としては、現場の声と対象となる青少年の目線を大切にするとともに、メンバー自身も関わることが楽しいと感じられるように活動を設計し、長期に渡る継続的な活動を目指しています。

2022 年度の事業としては、①Web サイトの立ち上げと更新（ツール作成に関する記事を更新。今後は完成したツールの紹介や作成に関するノウハウ共有などをするプラットフォームとして活用）。②遊びツールの開発・提案、及び関連するノウハウの発信（この度の助成金を申請させていただいた活動）。③その他、活動を通して得られたつながりを活かしての取り組み等、３点を実施いたしました。また、次年度事業としての「新たな遊びツールの開発・提案、発信」にも、可能な範囲で取り組み始めております。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

１）『おてら na マステ』ワークショップ

①2022 年 6 月 19 日（広島市安佐北区 ひうら日曜学校）

参加者は３歳から小学校５年生までの 17 人。子どもたちに難しいところは保護者がフォローをしてくださいました。子どもたちは思い思いの作品を仕上げてくれていました。綺麗に細かい装飾をする子、大胆にたくさん貼る子、などなど。作品の中には、大きく枠からはみ出してテープを貼ってくれたものもありました。「鳳凰が飛んでいるのを表しました！」と教えてくれました。子どもたちの発想の豊かさに驚かされます。ワークの間も、マスキングテープを交換しあったり、シールを譲り合ったりとコミュニケーションをとっていてくれました。

②2022 年 8 月 31 日（広島市南区 ユニレクルーム）

開催場所は、レクリエーションチーム「unirec」さんの拠点「ユニレクルーム」。新型コロナウィルス感染拡大の状況を鑑みて、A.少人数、B.マスクを着用、C.抗原検査キットを用意というように、対策を施しながらの開催となりました。製作中も作品を見せ合い、「ここはこうした！」など、こだわりがあれば教えてもらいながら進行しました。

２）その他（県外での活動）※いろいろなご縁で県外での繋がりも生じる事業となり併せて報告いたします。

①京都府におけるワークショップ

クラウドファンディングでの繋がりから、京都の大学生を対象にしたワークショップを開催しました。（2022 年 3 月）

②新潟県におけるブース設置

『おてら na マステ』のデザイナーさんの新潟県でのイベントにて『おてら na マステ』の体験ブースを設置していただき、イベント参加者さんに自由に手に取って遊んでいただきました。（2022 年 4 月）

③子どもが集う場への『おてら na マステ』の贈呈

クラウドファンディング後の追加購入希望者さまのお力添えにより、熊本県の児童養護施設、及び、福井県の子ども食堂に『おてら na マステ』をお贈りしました。色々と遊んでいただけるということです。

2022 年 6 月 19 日のひうら日曜学校でのワークショップの写真

2022 年 8 月 31 日のユニレクルームでのワークショップの写真

京都府におけるワークショップの写真

新潟県におけるブース設置の写真

◆実施に伴う効果

マスキングテープとボードを使ったワークショップでは、まず自分の作業に焦点があたります。どんな作品にしようかと思いをめぐらし、想像力をはたらかせながら創造する取り組みは、日常とは違う時間を過ごすことでもあり、自分の心と向き合う時間でもありました。さらに、作業が進むにつれて、共に参加している仲間たちとのコミュニケーションが自然と生まれます。道具の貸し借りや何気ない会話にとどまらず、相手のアイディアに刺激をもらって他者の価値観に触れるような機会ではなかったかと振り返ります。参加者のかたがたはいずれも楽しかったなど肯定的な感想を残してくださいました。そしてきっとそれぞれの内面に、マスキングテープに込められた日本文化・芸術に触れることによって生じた新しい財産を持って帰っていただいていると信じています。

◆苦労した点

当初は現地集合型のワークショップを企画していたことから、コロナ禍という状況での実施が大変でした。手指の消毒、マスク着用、検査キットの配布、規模の縮小、スタッフの移動制限など、様々な対策を考えての実施となり、企画段階のイメージとは異なる部分も多々ありましたが、ひとりでも多くの参加者をという思いで実施いたしました。

◆今後の課題・発展の方向性

今はまだ、『おてら na マステ』を手に取ってくださった方々による作品等のフィードバックが少ない状況です。作成風景や作品のお写真なども Web サイトで継続的に紹介していけたらと思うことから、今後集めていきたいと考えます。

また、クラウドファンディングや Web サイトを通じて面白い取り組みだというお声を多数頂戴することができました。今後も現場の声を聞きながら、「ただ遊ぶ」だけではなく、繰り返し遊んでもらえるように。遊びを通して日本文化に触れられたり、創造力が育まれたり、コミュニケーションが生まれたりする。そうした様々な要素を持ち、新たな物語が一人ひとりの上に自然と生まれてくるような、青少年、特に小中学生を対象とした「遊びツール」を開発していきたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

開発段階において、資金調達のために挑戦したクラウドファンディングが思いの外大変だったことが印象的でした。広報や協力者とのやりとりなど、時間も手間もかかることが多かったです。それは同時に、たくさんの学びをいただけたことだとも受け止めています。

実際に完成したマスキングテープやボードを手に取ったときの感動もさることながら、それらを用いてワークショップを開き実際に遊び学び交流していただいた光景は生涯忘れることができない財産となりました。

これからも、人と人とを繋ぎホッと出来る時間や空間をプロデュースするような「ご縁」づくりに取り組んでいくための、強力な動機をいただきました。

最後に、この度の助成に深く感謝しております。このご縁を頂戴できましたこと、説明会から終了報告会までさまざまにご案内いただき、たくさんの学びを頂戴しましたこと、望外の喜びでした。重ねて感謝申し上げます。

| 活 動 名 | No.6 | 団 体 名 | ふかわ子ども食堂 |
|---|---|---|---|
| **ふかわ子ども食堂** | | 活動拠点 | 広島市安佐北区 |
| | | 代 表 者 | 渡邊　恭子 |
| | | 支援金額 | 17 万 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

活動は 2019.7 月～構成メンバーは 2 月現在２８名大学生 10 名高校生６名も含みます。

結成の目的は、地域の多世代交流の場の提供、高齢者世帯の孤食対策、親子の場所つくり、食事の提供でした。

現在の活動方針は、

① 子育て世帯に対する食事の提供・企業様からの提供食品の無料配布、遊びを提供することによる家族のホッとできる居場所の提供を行う。

② フードロスの削減のため、フードロス食品をあいあいねっとさんや広島こども食堂支援センター様より提供いただきそれを使った食事作り、無料配布を行う。

平日に子どもだけが参加する子ども食堂も開設し、子ども達の居場所つくりも行い、子ども達の自主的で意欲的な活動を支援する。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

① 子ども食堂(日曜開催)

毎月第四日曜日に広島市安佐北区深川の会社の社員食堂プラザ Hot One　にて開催

内容は、フードロス食品を使った食事提供、食品の無料配布、親子や子ども達同士で遊べる遊びの提供(バトミントン、卓球、シャボン玉)、季節の行事(お餅つき、夏祭り)、地域の方によるイベント(けん玉大会)

参加家族は、約 15 世帯、50 個限定

② 子どもの居場所つくりとしての子ども食堂(平日＆土曜日開催)

毎月第 2.4 木曜の放課後と第 2 土曜 10:00～16:00 に広島市安佐北区深川上庄会館にて開催

内容は、木曜は早く下校が出来るときは、子ども達と一緒におやつ作り後は宿題をしたり、製作遊びをしたり運動遊びをして過ごす。土曜日は、子ども達と昼食とおやつを作り、後は木曜と同様製作遊びをしたり運動遊びをしたりして過ごす。子どもたちの意欲的で自主的な活動を支援するという目的であり、子ども達の個性を尊重したい。その為私自身が個性診断を学び、子ども達の個性を知り保護者の方とも共有して相談に乗ったりすることもある。みんながクッキングをしていても製作がしたかったらしても良いし、集団生活のルールを作らず、自分で決めたことをする。ありのままで楽に過ごせるように見守る活動である。

木曜の在籍は 7 名。土曜の在籍は 12 名。

9 月はキーマカレーを作りました。

地域の方の協力でお餅つきをしました。このほかにも地域のけん玉クラブさんの発表や季節のイベントとして秋祭り、ハロウイン写真会、ボランティアサンタさんが来てくれて絵本のプレゼントを一人ひとりにいただきました。

土曜日の子ども食堂。クッキングをしています。学生さんがボランティアで参加しています。

土曜日の子ども食堂で製作遊びをしているところ。土曜日の参加者さんが増えて、学生さんにお手伝いをお願いしました。

◆実施に伴う効果

昨年度に引き続き家族で参加される方が多く、フードロス食品を無料で提供すること、安価での食事提供に対して大変喜んでいただきました。またフードロスを活用するという観点で貢献出来ていると思います。

遊びも引き続き用意していて、子ども同士で、そして家族で遊んでいる様子が大変微笑ましかったです。コロナ禍で遊びの場所や時間が減っている中、そういう時間＆場所の提供に貢献できたと思います。

秋祭りでは、地域の自治会長様、地区社協会長様を招待させていただき、十分に周知が出来たと思います。
地域のけん玉クラブさんを招待してけん玉の体験会をしたり、地域の方のご支援によりこの２月にはお餅つき、凧作り＆凧あげを開催し、参加者さんに喜んでいただけるだけでなく、地域に根付いた活動になってきています。

平日開催の子ども食堂では、子ども達が自分なりのペースで料理をしたり、製作活動をしたり、運動遊びをしたりして過ごすことが出来ました。子ども食堂で料理をしているので家でも自分からキッチンに来て食事作りを手伝ってくれたり、自分で卵焼きを作ったり、ウインナーを切って朝ご飯のおかずにしたりするようになったという保護者の方からの声を聞きます。意欲的で自発的な活動を支援する、という平日子ども食堂のねらい・目標が達成できて来ていると感じます。

◆苦労した点

昨年度よりは会食で出来る回数も増えましたが、コロナウイルス感染症による開催の判断に苦労しました。夏祭りを計画していた時に感染者が拡大したので直前で中止になったりもしました。使える材料は、秋に回して秋祭りという形で開催しました。

◆今後の課題・発展の方向性

子ども食堂の役割として来年度は、子ども食堂の中でフードドライブ＆子どもさんの衣服やおもちゃの無料交換会を行い、資源を有効に使うこと、フードロス削減を参加者自自身が行う、という活動に展開していきます。

大学生ボランティアが、独自で子ども食堂を開催したいという希望を持っているということで、彼女たちの子ども食堂を従来の子ども食堂後に同場所で開催し、その活動を全面的に支援することを行います。

共働き世帯が増え親子で過ごす余裕がなかなかないということを鑑みて、夏休みに子どもだけでも親子でも参加できる自然体験教室を開催します。山の中の一軒家を貸し切って、自然の中で過ごす時間を作ります。

土曜の平日開催の後、夜ご飯の提供も行っていき、子育て世帯の負担の軽減をさらに目指します。

子どもの居場所つくりとしての平日に開催している子ども食堂の活動をさらに展開していきます。現在の木曜開催の月に２回を毎週開催に増やします。そして学生ボランティアを起用し、必要な子どもたちをもっと受け入れられることをを目指します。 共働き世帯が増え、夏休みに孤食になっている子どもたちがいると考えられることから来年度は子どもたちへの夏休みの昼食提供を行います。

◆活動を終えての感想・意見等

沢山の方の支援を得て活動出来たことを感謝したいとともに、家族の居場所、子ども達の居場所がこれからもっと必要になると考えます。参加される方たちの笑顔を見るにつれ、充実感があるし、もっと何かできることはないかという気持ちがとてもあります。

社会の情勢は年々厳しくなっています。特に物価の上昇によって生活に追われている方も多いと思います。そんな中で過ごす子どもたちも知らず知らずの間にストレスを抱えています。私達大人が本来は子どもの未来を明るくしていかないといけないのに、今の世の中の状況で子どもたちは明るい未来を描けるのでしょうか。それでなくても少子化のこの時代、子ども達一人一人を大切に育てていかないといけないのに、子育てをしている大人が疲弊しているように思えます。

まずは疲弊している保護者に安らぎの時間を、そうすることによって子どもたちにも保護者の方の温かい保護を受けられますように。

そして子どもたちが本来の良さを活かして生き生きとのびのびとありのままに過ごせていて欲しいと願います。

| 活 動 名 | No.7 | 団 体 名 | ひろしま CanDo(かんどう)プロジェクト |
|---|---|---|---|
| ペーパークラフトロケット教室 | | 活動拠点 | 広島市佐伯区 |
| | | 代 表 者 | 弓立 ゆき |
| | | 支援金額 | 26 万円 |

団体紹介 （結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

「大きくなったら仮面ライダーになりたい！」「№1 アイドルになる！」小さい頃は素直にそう言えたのに、成長していくに従って口にできなくなった夢はありませんか。「どうせむり」そんな周りの言葉や、自分自身の思い込みで、やってみたいことを諦めたり、自分の夢を「叶えられそうなもの」にすり替えたりしていませんか。私たちはロケットの打ち上げという「日常ではやったことのないこと」への挑戦を通して、子どもたちに自信と達成感を届けます。自分で作ったロケットがものすごいスピードで飛んでいった瞬間の子どもたちの笑顔を、私たちは仲間のロケット教室で見てきました。このロケット教室を広島の子どもたちにも届けたい、私たちはその想いからこの団体を立ち上げました。

この活動は北海道で宇宙開発等をされている植松電機の社長、植松努さんの精神に賛同して行うものです。植松さんご自身も「どうせむり」と思われがちな宇宙開発にトライされ、その精神に共感した仲間が全国各地で活動を展開しています。2022 年、植松電機と同じ思いを持ち、安全にロケット教室を開催するための知識と技術を持つ団体に対する植松電機の公認制度が立ち上がりました。私たちはその UE パートナーです。

活動概要 （実施日、場所、内容、参加人数等）

子どもたち(原則として小学生 3 年生以上)にペーパークラフトロケット教室を通じて、ものづくりの楽しさと挑戦体験を得てもらいます。ロケット工作は屋内作業。子どもたちは 1～2 時間をかけて、1 人 1 機のロケットを作ります。必要に応じ、周りと助け合いながらの工作で、紙製のほとんどが平面のパーツを加工、接着することで、長さ約 50cm、直径約 5cm のえんぴつ型ロケットが完成します。ロケット発射は屋外(縦横 40m 以上の広さで電柱や木などの障害物が無い場所)で開催。エンジンと呼ばれる本物の火薬の筒(通信販売で入手)を自分で作ったロケットに装着。ロケットから離れた位置で子どもたちは発射スイッチを操作しエンジンに点火します。ロケットは一瞬で地上 40m まで上昇した後、パラシュートを展開してゆっくりと降下。子どもたちの手元に戻ります。

○今年度の活動実績

・広島市(久保アグリファーム)でのロケット教室の実施　12 月 14 日　湯来南小学校 6 年生 22 名参加
・広島市(西部埋立第 2 公園)でのロケット教室の実施　2023 年 3 月 25 日予定　15 名程度参加見込み

<以下は支援を受けて購入した備品を用いて開催したロケット教室です>

・広島市(可部運動公園)でのロケット教室の実施　5 月 29 日、8 月 27 日、10 月 22 日　計 3 回
・広島市(西部埋立第 2 公園)でのロケット教室の実施　11 月 19 日

この 2 か所 4 回で計 44 機※のロケットが打ち上がりました

その他、県外からの依頼により計 2 回の教室を開催。　合計 57 機のロケットを制作、打ち上げました。

皆さんには最初に動画を観てもらいます。
「どうせむり…」→「だったらこうしてみたら?」

手先の器用な子も、そうじゃない子も、自分の力で
または周りの助けを借りながら、ロケットが出来ていきます。

スイッチを両手に持ち「安全確認よし! 3、2、1、発射!」
自分で作ったロケットが、アッと言う間に大空へ!

自然とこぼれる笑顔は、皆さんきらきら。
次はどんな挑戦をする人になるのかな。

◆実施に伴う効果

ロケット教室では、この活動を始められた植松努さんの動画を最初に視聴いただきます。夢は口にすると叶う、失敗はダメじゃない、人は足りないから助け合えるなど、これからの人材に必要なメッセージが届いたと思います。参加者一人一人が自分たちで自由にロケット制作に取り組むという経験では、説明書を読みながら自分で考える力、わからなかったら聞く！など既成授業とは違った力が必要です。自分で考えてロケットを作り上げる事で、自分でやり遂げたという達成感が湧き、そこから小さな優しさが生まれます。そしてそれは、自己肯定感へとつながります。今すぐ目に見える成果ではありませんが、自分が作り上げたロケットを打ち上げることで感じる「出来た！」という思いは、次の「やったことないこと」へのチャレンジに繋がると信じています。

◆苦労した点

ロケットを飛ばすために必要なエンジンの価格高騰、入手ができない事態等、資材の確保に苦労しました。新型コロナの状況によって、開催の有無を決定する事にも苦労しました。対策を講じた上で実施を決断した際にも、開催日が近づくにつれてキャンセルする方が増えたり、連絡なく欠席される方もいらっしゃいました。ロケット工作は原則として1人で1機に向き合ってもらいますが、ご兄弟で1機を作りたいご希望、対象年齢外の小さなお子様の参加のご希望では、理解いただく事に気を使いました。屋外で行うロケットの打ち上げは、大雨や強風では実施困難なので、開催当日だけでなく、何日も前から天気予報をチェックしました。幸い、教室を延期せずに済んだので良かったです。

◆今後の課題・発展の方向性

物価高騰の中、可能な限りの低価格で、たくさんの人に参加してもらう為にどうしていくかが課題です。これまでは小学 3 年生以上が対象でしたが、より工作の難易度が低いロケットも選択できるようになったので、参加者の年齢や時間の制約に合わせて 2 種類を使い分けての活動も考えていこうと思います。「楽しかった」で終わってしまわないためにどうすればいいかを常に考えていく必要もあると思います。私達の目標は学校の授業にロケット教室を取り入れてもらう事です。今年度、その目標が 1 度ですが達成できました。今後、学校側からオファーを頂けるように活動の輪を広げていきたいと考えます。そのために、メディアに向けた発信も必要だと考えます。また、メンバー内での役割分担の不均衡をなくすため定期ミーティングの開催、教室をよりよくするための勉強会、安全意識の再確認等にも努めていきます。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度の課題は材料の入手が困難だったことと価格の高騰でした。マツダ財団様からの支援にたくさん助けていただきました。子どもたちが諦めずに頑張る姿、出来上がった個性的なロケット、工作中に話してくれることや打ち上げの前のドキドキ、打ち上がった時の感動、教室後の言葉から、私たちスタッフも学ばせてもらっています。課題や苦労はありますが、子どもたちの満足した顔を見ると、やっていて良かったと毎回思います。今年度は念願だった学校での開催も出来たので、次へ繋いでいきます。「自由に作っていいよ」という場は学校にはあまりないのだと、子どもたちを見ると感じます。自分たちで考えて動く、という機会を作っていきたいです。子どもたちの力は無限です。子どもたちがその力を持ち続けていけるよう、これからも「やってみたら何でもできる！」「自分ってすごい！」と思える機会の提供ができるよう、活動していきます。

| 活 動 名 | No.8 | 団 体 名 | やはた昔あそびの会 |
|---|---|---|---|
| **昔あそびの伝承と指導** | | 活動拠点 | 広島市佐伯区 |
| | | 代 表 者 | 吉野 仁美 |
| | | 支援金額 | 10 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

公民館の呼びかけ（本作り講習会）昔遊びの発掘が目的で集まった
（八幡で集めた昔遊び）の本を完成させた時、昔遊び伝承の必要性を強く感じた
昔遊びの魅力・年齢差を超えた仲間作り、体力作り
・工夫する知恵、粘り強い忍耐力
・判断力、瞬発力、柔軟さ
工作の材料作りや資材を集め、要請を受けて活動しています。
伝承の必要性に加え　町内会、子ども会、地域の組織が弱体化する中、イベントの救世主となっている。と思っている　呼ばれて断ったことがない。
昔遊びの発掘、先生や地域の（放課後見守り等の）ボランティアさんにも遊び方の伝授をする活動、草木の栽培も始めて自然遊びの分野も広げている。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

・7/27：八幡公民館、夏休み工作 20 名　ﾊｰﾊﾞﾘｳﾑ、ホログラム万華鏡、糸巻き車　他
五日市埠頭（中止）　八幡児童館（中止）　子ども夏祭りでの昔遊び（中止）
・10/30、11/3：植物公園 700 名、等では、保護者も参加 3 世代交流昔遊び
リーム回し、竹ぽっくり,ﾌﾗﾌｰﾌﾟ、ぶんぶんごま、折り紙、けん玉、糸巻き車　他
・12/4：八幡公民館、冬の工作 20 名　飾り凧作り、ｸﾘｽﾏｽﾘｰｽ作り
・12/9：小学校地域交流昔遊び（中止）代わりに小 1 へのプレゼント作り 130 袋：糸電話、風車他全 8 品
・1/8：城山中学校　やはたとんど祭り　200 名　3 世代交流昔遊び
竹馬、リーム回し、竹ぽっくり、はねつき、竹とんぼ、ﾌﾗﾌｰﾌﾟ、コマ回し、けん玉、風車
・1/24：認定こども園薬師が丘ｻﾑｴﾙ子どもの園 150 名　先生と園児に昔遊びのやり方指導
あやとり、おてだま、おはじき、ぱっちん、コマ回し、竹とんぼ、風車作り　先生に本を配布
・2/23：八幡小学校体育館（薬師が丘風の子子ども会）100 名　かぜのこフェスで昔遊び
はねつき、風車、フラフープ、輪投げ、玉入れ、的うち、けん玉、パズル　地域のボランティアに昔遊び方法指導
・地域の行事がウイズコロナで縮小の傾向にあるためか（イベント参加者急増）
・昔遊びの実践講習要請があり、他地域の公民館や小学校、子ども会のボランティアさんへ遊び方指導　（グループで作成した昔遊びの本を配布）

飾り凧作り

ｸﾘｽﾏｽﾘｰｽ作り

植物公園でぶんぶんごま他

とんど祭りで外遊び

◆実施に伴う効果

・コロナ前とコロナ後、或いは団塊世代の高齢化でボランティアの若返りが出来ない理由の一因となっている、子育て世代の参加はしたいが事業の企画、運営には関わりたくないといった状況の中子どもたちにたくさん【昔遊び体験】をしてもらい根っこを育てたいと思っている。

・幼稚園や小学校の先生たちに昔遊びの体験が無い中道具はそろえて我流で遊んでいる、体全体を使って、遊ぶ楽しさを伝えている。

・その場でルールを決めたりする（コミュニティー）が必要なので思いを話せる努力をしているようだ。

◆苦労した点

・子どものほとんどが、はじく、蹴飛ばすなど細かい動作所作が上手に出来ない（積み重ね）に参加できない。練習してねで終わる。

・印刷製本予算が大きく違っていて、材料費などに回せなかった。（知り合いの印刷所に印刷を安く受けていただけた）

・かなりの余談だが、いつもの先生たちとは違う地域の人と交流することで、誰に言っても伝わらない悩みを、話しかけてくる子もいて、切ないのと同時に、たびたび顔を合わせられる、（塾）的なものになると良いのかと思うが（重い）

◆今後の課題・発展の方向性

・自然とのふれあいのため草花の栽培も始める。（草も珍しいこの頃です。）

・常時 1，2 人で準備を行い当日応援的に会員が集まっている、しかしコロナを体験し、皆が内容を知っていることの、必要性を強く感じ会員の若返りと企画・準備・運営を交代で担当することを今後の課題としたい。

・昔遊びの伝承相手は、子どもと考えがちだが、大人（保護者）こそ大勢での企画・準備・運営を昔遊びから学んで欲しい。

◆活動を終えての感想・意見等

・コロナ禍でふれあいが少なくなり、手取り足取りが難しかったが、そろそろ平常に戻りつつあるので、『昔遊びを通して』子どもたちと元気に遊び、親たちには、日常を忘れ体中を使って子どもと戯れて欲しい、先生たちには子どもとのコミュニケーションをとるきっかけにして欲しい。と願っています。

| 活 動 名 | No.9 | 団 体 名 | 宿題やっつけ隊 |
|---|---|---|---|
| **子どもの放課後学習支援** | | 活動拠点 | 広島市佐伯区 |
| | | 代 表 者 | 松岡　和貴 |
| | | 支援金額 | 31 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成時期：２０１７年６月

構成メンバー：子ども１００人、ボランティア２１人

結成の目的：教育の機会の平等を図るために子どもの放課後学習支援事業を行う。本会に登録している子どもの多くは学習塾に通っていない。中には経済的理由により、通塾が困難な子どもも存在している。そのような子どもたちを支援するために実施している。

また、地域コミュニティを創出する側面もある。勉強を通して、子どもと地域住民との交流の場として機能する。参加している地域住民の多くは仕事を退職されたご年配の方であり、新しい繋がりを求めたり、子どもを孫のように接しながら活動を楽しまれている。また子どもの観点から、両親や学校の先生以外に身近な大人があまりいないため、知り合いの地域の大人が増えて、安心して過ごしやすくなる。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

実施日時と場所、対象学区

（教室学習支援）

・月曜日　１５時～１８時　皆賀公民館　五日市東学区

・木曜日　１４時～１７時　五日市公民館　五日市学区

・金曜日　１５時～１８時　五日市中央公民館　五日市中央学区

・土曜日　１０時～１１時　佐伯区福祉センター　五日市南学区

（自宅学習支援）

・曜日、時間、場所は指定なし　五日市観音学区

内容

（教室学習支援）

・学習塾に通塾していない小学生を中心に、無料学習支援を実施

・講師はすべてボランティアで、地域住民から構成

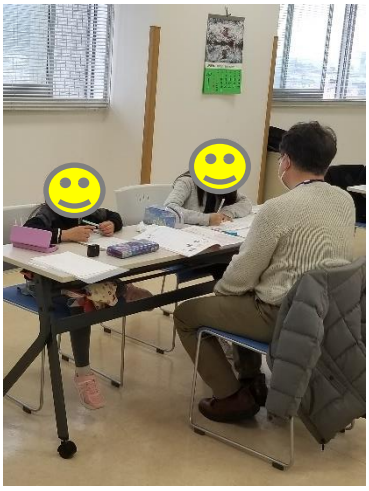
（自宅学習支援）

・算数が苦手な小学生を中心に、当会で作成した計算プリントを提供

・子どもは各々の自宅で計算プリントをこなして、計算力アップを図る

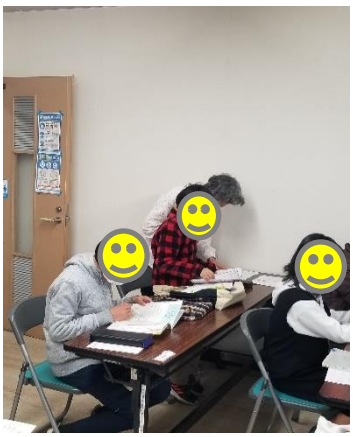
参加人数

子ども（小学生）１００名　講師（ボランティア）２１名



教室学習支援の様子

教室学習支援の様子



教室学習支援の様子

教室学習支援の様子

◆実施に伴う効果

教室学習支援の他に、今年度より自宅学習支援を取り入れたことで、新たな学習支援のスタイルを提供できた。
今後は教室学習支援と自宅学習支援の２本柱として、活動を継続していく。
また、子どもと保護者向けに2022年度のアンケート調査を実施　※集計数100

・本会の満足度　88%
・子どもが勉強を好きになった　73%
・テストの点数が上がった　63%
・自宅で学習する時間が増えた　53%
・学校の授業が分かるようになった　63%

◆苦労した点

自宅学習支援はもう少し早い時期から実施する予定だったが、初めての取り組み故、慎重に進めてしまい計画が遅れてしまったことに焦りを感じつつ苦労した。また、自宅学習支援は保護者の協力が必要不可欠なため、定期的に連絡して情報共有と子どもの進捗管理の把握に慣れるまで大変であった。

◆今後の課題・発展の方向性

・自宅学習支援で提供している計算プリントは現在１～３年生までの範囲のみだが、今後は４年生以降の問題も作成して子どもと保護者のニーズに応えていきたい。
・教育格差の解決、かつ活動を継続させていくために、個人の寄付やスポンサーを得られるよう、広くPRしていく。

◆活動を終えての感想・意見等

・コロナによる制限が落ち着き、今年度は例年通りに実施することができた。新しく始めた自宅学習支援では思った以上に参加希望者が多く、驚きと共により広く展開していく必要があると感じた。次年度も規模を拡大して取り組んで参りたい。

| 活 動 名 | No.10 | 団 体 名 | 似島通学路沿いの竹林を整備する会 |
|---|---|---|---|
| **自分達の手で地域の景色を変えていこう！** | | 活動拠点 | 広島市南区 |
| | | 代 表 者 | 渡邉　由紀子 |
| | | 支援金額 | 30 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

新型コロナウィルスが猛威をふるい、特に子どもたちにとっては様々な制約が増える中で
「コロナだからあれもできない、これもできない、と諦めてしまうのではなく
何が出来るのか少しづつでも探して、小さくてもいいから挑戦する姿。
大人として、その姿を生徒たちに見せてあげたい」
という思いで、2021 年 3 月に会を発足し、同年 10 月から活動をスタートしました。

中学校・公民館・区役所などにご協力頂きながら活動を行なっています。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

2022.4.2　竹林整備　／似島中学校通学路沿い竹林／参加２２名参加
2022.5.7　竹林整備／似島中学校通学路沿い竹林／参加２２名参加
2022.6.25　雨天のため中止
2022.8.11　夏季交流会／似島 OutdoorPar 広島カヤック／参加１２名参加
2022.9.10　竹林整備／似島中学校通学路沿い竹林／参加２２名参加
2022.10.15　竹林整備／似島中学校通学路沿い竹林／参加１７名参加
2022.11.5　竹林整備／似島中学校通学路沿い竹林／参加２０名参加
2022 年２月　冬季交流会（餅つき）／似島公民館／参加１５名
2022.年 3.4 竹林整備（予定）
2022.3.18　みなとフェスタ出展（予定）

里山整備士さんに安全な鋸の使い方を指導いただいています。
皆、ものすごく上手になりました！！

難しい位置にある竹はロープを使って角度を調整することで安全確保を行いながら伐採していきます。

始める前は鬱蒼とした竹藪だった場所に、光と風が通りました。
風通しが良くなることでヘドロのようだった足元も乾燥し、虫や匂いも激減。今では「通学路一の憧憬地」との評判です。

交流会では餅つきをしました。杵と臼を使った餅つきはほとんどの生徒が初めての体験！公民館を会場にお借りしたので、道ゆく近所のベテランさんが突然餅の丸め方をレクチャーしてくださったり、地域交流の機会になりました。

◆実施に伴う効果

助成金をいただくことで、今まで広島市に借用していた備品を購入することができ
借用のための稼働が激減し、活動の継続がしやすくなりました。
当初は指導者の言われるままに鋸を構えていた生徒たちも、どの部分を刈り込むことで
どのような景観の変化が生まれるかを考え、積極的に活動をしてくれるようになってきました。
何よりも、鬱蒼として薄気味悪かった竹林が光と風の通る気持ちの良い空間に生まれ変わりつつあり
それは、毎月活動を重ねている生徒たちの自信にもつながっているようです。
また、活動を重ねることで地域の方の認知も広がってきているように感じます。

◆苦労した点

天候や夏の虫対策など、屋外作業に予想していた問題は発生しましたが想定内の範囲であり、
特に苦労もなく、地域の皆様に支えられて、ただただ楽しく活動した一年でした。

◆今後の課題・発展の方向性

○スタートアップの備品購入では助成金に助けていただきましたが、今後継続的に自走できる組織にしていくための資金運用の仕組みづくりがこれからの課題と考えています
○地域の方をどのように巻き込んでいくか、またキーマンになる学生が卒業した後でどのように生徒たちを巻き込んでいくかも今後の大きな課題です。

◆活動を終えての感想・意見等

最初は竹林整備のための組織のつもりが、地域交流が不登校児童の居場所づくりなど、
集まってくれるメンバーの求めに応じて少しづつできることを考えながら取り組んだ１年間でした。

メンバーの学生から「竹林コンサートを開催したい」という声も上がっていますので、子供たちの「やりたい」を
形にすることを応援できる組織でありたいと思っています。

| 活 動 名 | No.11 | 団 体 名 | 妙聲寺ほのぼの寺子屋 |
|---|---|---|---|
| **～お寺本堂での小学生の学習支援と居場所づくり～** | | 活動拠点 | 広島市西区 |
| | | 代 表 者 | 宮迫　孝子 |
| | | 支援金額 | 10 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

２０２１年７月に結成。ボランティア７名、子ども１４名。

昨今、貧困問題が大きくクローズアップされており、経済格差が教育格差となっているのは周知の事実である。また、コロナ禍で行動が制限され、大人も子どもも「生きづらさ」を感じている。南観音地区は商業地域であり、地域の人々の関わりが極めて少ない。このような現状の中で何かできることはないかと考えた。そこで自身の個人塾の経験と、このお寺に関わる方々の人間力を生かして寺子屋を立ち上げた。寺子屋の活動で子ども達の学習面でのお手伝いをし、基礎学力の定着だけでなく「ほめる」ことに重点を置き、認められる喜びと自己肯定感を持たせたいと考えている。

また、広島市の推奨する「百歳体操」の参加者と子ども達との触れ合いにより、世代間の交流の輪を広げ、礼節を守りながら「生きて働く寺」を目指していく。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

実施日：　毎週金曜日

場所　：　妙聲寺本堂

参加人数：　ボランティア７名、子ども１４名

・１対１または１対２の対応で一人一人のつまずきを丁寧に解決させながら宿題に取り組ませる。
・問題プリントに挑戦させ、自信を持って学習に取り組めるようにする。
・「分かる」「できる」という経験を重ね、学ぶ喜びを知り、興味の対象を広げ、積極的に物事に向かうことができるようにする。
・出席シールや頑張りシール、頑張ったで賞などで達成感を持たせる。
・その日の様子を保護者に LINE で知らせ、子ども達のがんばりを共有し、子育ての際の孤独感を軽減する。
・寺子屋での場所を必要とする子ども達がいつでも来られるようように門戸を広げる。
・寺子屋と並行して、１３時から百歳体操を始める。お年寄りだけでなく子どもが参加する場合もある。

◆実施に伴う効果

・寺子屋での学びが楽しい。その結果、家での笑顔が増えケンカがなくなった。
・自分に自信が持てるようになり発表回数が増え、成績も上がった。
・計算が苦手だったが百マス計算や計算ドリルのおかげで計算が得意となった。
・宿題にかかる時間が短くなった。
・宿題を後回しにせず積極的に取り組むようになった。
・金曜日実施のおかげで宿題が金曜日に終わるため、親子共々、週末の生活活動にゆとりが持てるようになった。
・挨拶ができるようになった。

◆苦労した点

・殆どの子どもが高学年になり下校時間が遅くなったため、寺子屋へ来る時間が遅くなる。結果、学習時間が短く、ボランティアの負担が増えた。（時間は短くなったが勉強量は変わらない）
・季節に応じて帰宅時間が暗くなる、雪や雨の日など天候の影響によるケガ（階段で滑る、濡れてしまうなど）の心配がある。（ボランティア、子ども達共）
・行き帰りの道中での事故、事件への心配がある。

◆今後の課題・発展の方向性

・低学年と高学年の入れ替えができるようにしたい。
・コロナ禍という状況を考慮して募集を中止していたため、新規の子どもが入りにくい環境になっている。（妹弟は入ってくるが新規の子どもが入ってこない→世帯数が増えない）
・貧困家庭の子ども達を呼びたいが、声が届かない。来ても他の子ども達と馴染めない場合があるので今後の課題となっている。
・表面的には様々な支援を必要とする子どもは少ない様に思われる。しかし、個々には手助けを待つ子どもは少なくない。統計によると小学生では１０人に１人位の割合で何らかの発達障害があるとされているとおり、それらの子ども達をしっかり受けとめていく対応に苦慮している。

◆活動を終えての感想・意見等

担当者が高齢のため、パソコンによる資料作りに苦労しました。手書き・郵送による対応も考慮していただけると幸いです。
このようなボランティアが必要とされなくても、一人ひとりに支援が届く社会の仕組みであってほしい。

| 活 動 名 | No.12 | 団 体 名 | RiverDo!基町川辺コンソーシアム |
|---|---|---|---|
| **RiverDo! for Future**<br>～広島水の都文化の次世代への継承～ | | 活動拠点 | 広島市中区 |
| | | 代 表 者 | 西川 隆治 |
| | | 支援金額 | 25 万円 |

団体紹介

広島市内の河川空間の価値向上を目的に2020年に設立されました。

河岸等の公的エリアの魅力を民間主導で高めていく私たちの取組みは、国内でも初の先駆的な取り組みになります。基町環境護岸で社会実験として実施されたパブリックスペースのオープン化に参加した民間事業者やNPOが中心となって結成され、このエリアを活用したい人たちが「川辺の町内会」を結成し活動する拠点としながら、自由と責任のもと自分たちの場所を自分たちの手で維持管理します。

広島の歴史や文化をふまえながら、豊かな水をたたえる太田川沿いに広がる空間で広島の新しい町の風景を作り、新しい体験やシーン、コミュニティの創出を目指しています。

活動概要

**イベント運営・ボランティア体験** 日時：7/10　7/24　9/25　11/6

場所：基町環境護岸他　参加者：中広中学、崇徳高校、広島市立大学　人数：のべ 28 人

7/24 日は太田川河川事務所が主催する「クリーン太田川」に参加。太田川流域全体で３万人余りが一斉に河岸清掃する一大イベントです。これほど多くの人たちが太田川を大切にしているという事を目の当たりにすることで広島人と太田川の関わりの深さが体感できたのではないかと思います。また SUP に乗って川の中の葦原に引っかかったペットボトルなどのゴミを回収しました。RCC の取材もありました。

**水の都文化体験：SUP 体験**　日時：6/18　9/16 場所：太田川　参加者：崇徳高校インターアクト部、広島市立大学　人数：22 人 10 人

SUP に乗り川の上から街を見ることで陸上とは違った視線から捉えた美しさや平和を実感し、広島の魅力を再確認する体験。学生からは今まで使ってなかったことが勿体無い！川から見た街はきれいだった！自由だった！とか、広島は川の街なんだ！と思ったなど、当たり前の事を改めて感じなおすきっかけとなったようです。

**水の都ひろしまの歴史・文化学習ボランティア**　日時：5/15　7/10　9/25　11/6 全４回開催

場所：広島青少年センターほか　参加者：崇徳高校インターアクト部　人数：のべ 16 人

RiverDo!基町川辺コンソーシアムが開催する「川を眺めることで見えてくるものとは」全 4 回の講座の運営を手伝っていただきました。専門家による歴史、産業、アート、自然といったそれぞれの視点から見た太田川について学

びを深めてもらい、講座の後で小中学生たちがRiverDo!チェアを作成する時にサポートをしていただきました。

**活動内容発表**　日時：11/12　場所：RiverDo!フィールド　参加者：崇徳高校インターアクト部　人数：代表３人

ひろしま川祭り”RiverDo!2022”のイベントの中で彼らが今年取り組んだ環境活動や、SUP 体験や RiverDo!チェア作りに関しての体験を発表する場(ステージ、ブース)を設けました。壇上には RiverDo!チェアのデザイナーの米田氏と市立大学講師の藤江氏にも登壇していただいて学生たちとのトークセッションも行いました。イベントや活動を大人や企業と行ったり地域の特徴を知ることは地域活動を自分ごとに考えるいい機会となりました。

◆実施に伴う効果

残念ながら広島の歴史・文化また主要産業の多くが太田川によって誕生してきた事実はあまり知られていない。子供たちに広島への愛着を持ってもらうには、誇りに思える歴史への知識や理解が必要だと考える。加えて地域貢献やイベントを自分ごとにできるような活動を大人や企業と行うことは、青少年にとって豊かな経験となり、ひいては郷土愛につながっていく。

大学や、就職で広島を離れてしまう前に、一つでも多くこういった体験をして広島の記憶を残す、ユニークな広島を知り、郷土の魅力を体感することが大卒転出率全国ワーストの汚名を返上し人材の流出を減らしていくことにもつながっていくと思われます。

◆苦労した点

体験発表のさいにMAZDAのEV車を利用して会場の電気を賄い環境問題にも取組む姿勢を作りたかったのですが予算の制約とともにEV車の利用だけでは工夫が足りないと思い断念しました。また専門家を招いて行う予定だった講演会は、予算の都合から別事業として行いました。

◆今後の課題・発展の方向性

もっと広島の街を感じるために、市内全体の川を利用してSUPで一周回ってみるようなスケールの大きな体験をしてもらいたいと思います。川のつながりから街の成り立ちが見えて、地形や地名の由来などにも興味が湧いて学びに繋がる。徒歩や自転車では味わうことができない特別な感覚。また街中にも関わらず味わうことができるアドベンチャー感が広島の町を面白く感じさせてくれます。今回の事業をきっかけに崇徳高校インターアクト部さんといい関係を築くことができたので、今後も太田川を通じた学びの場を広げていきたいと思っています。

今後は太田川の上流から下流、そして瀬戸内海へのつながりを歴史や文化、環境といった目線で考える唯一無二な学びの場を作り、郷土愛を育んでいきたいと思います。

◆活動を終えての感想・意見等

この新しい広島の魅力創出活動を一過性のものにせず、次世代の広島を担う子供たちに継承していく活動として継続して実施していきたい。

子供たちに広島への愛着を持ってもらうには、郷土の誇りに思える文化や歴史への知識や理解が必要だと考えます。SUP で川の上から街を眺める体験は、その学びに興味を持つきっかけを作る有効な手段となりました。加えて地域貢献、イベントを自分ごとにできるような活動を、大人や企業と行うことは、青少年にとって豊かな経験となり、ひいては郷土愛につながり、地元企業や学校への就職や進学にもつながっていくものと考えます。

| 活 動 名 | No.13 | 団 体 名 | Cafe 地球屋 |
|---|---|---|---|
| **ワカモノとつくるみんなの居場所** | | 活動拠点 | 三次市 |
| | | 代 表 者 | 佐々木 洋子 |
| | | 支援金額 | 30 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

2020 年 8 月の Cafe 地球屋 OPEN へむけて準備する中で、前「不登校登校拒否を考える親の会ひまわり」が中心になり、協力者 5 人が集まり作業しながら結成。

人と人の関係が薄れた現在、コロナ禍でもあり、若者にとっても高齢者にとっても日常生活での様々な悩みや苦しみを語り合ったり相談したりする場の必要性を感じた者が集まり、「本音でなんでも語り合い楽になれるみんなの居場所をつくろう」と結成。

「Cafe 地球屋」のネーミングは、現在子育て中のママがつけてくれた。ジブリ映画「耳をすませば」の地球屋は、高齢者が音楽を楽しみ豊かに生きており、ワカモノを温かく見守る。映画のように石畳の三次町本通り商店街の雰囲気にマッチした温かい居場所、赤ちゃんから高齢者までの異年齢の人が繋がるみんなが楽しいアンティークなお店、居場所をつくろうと活動を展開。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

Cafe 運営　毎週 4 日水木金土　 Cafe 地球屋店舗と裏の子どもの居場所と裏庭　月平均 68 人
子育てカフェ　毎月第 2 水　子育て相談、子育て学習会　年間のべ 56 人
フリースクール　不登校の子どもの居場所　遊びと学習　毎週 4　水木金土
　　6～7 月小学生 3 人　9～12 月 2 人　1 月～3 月 1 人
うたごえ喫茶　毎月第 4 土曜日　月平均 12 人（コロナと雪で開催できない月が多かった）
哲学カフェ　偶数月第 2 日
4 月 24 日　14：00～17：00　6 人
6 月 26 日　14：00～17：00　 7 人
8 月 21 日　14：00～17：00　 6 人
10 月 16 日 14：00～17：00　 8 人
12 月 11 日 13：00～17：00　 5 人
2 月 12 日 13：00～17：00　 10 人

トーク＆ライブ　 Toki トーク＆音楽ライブ「これからの新しい教育の形」
　12 月 18 日 10：30～12：30　Cafe 地球屋　29 人

みんなで DIY！！ウッドデッキ・ベンチづくり
　2 月 5 日カフェ横田屋　6 人　 2 月 11 日カフェ横田屋　6 人　 2 月 21 日カフェ横田屋 1 人
　3 月 20～28 日予定　 2 人

2022. 12.18　TOKIトーク＆ライブ「新しい教育の形」

23.2. 12　哲学カフェ

みんなで DIY！ボルダリング三角塔所」

Cafe 地球屋ウラの「こどもの居場

みんなで DIY！！作成したベンチが　大活躍

◆実施に伴う効果

Cafe地球屋：幼児と高齢者が世間話を楽しむ姿が見られるようになった。
核家族の子どもたちにとっても高齢者にとっても、温かい時間の流れる異年齢の居場所となった。

フリースクール：家庭でも学校でもない第3の居場所であり、小学生がCafeのお客様の高齢者と会話を楽しんでいる。

哲学カフェ：異年齢の参加者での語り合いは、感じ方の違いに参加者一同驚き感動し、リスペクトにつながる。
参加者は60代以上が多いが、本音で真剣に語り合う内容を聞いているうちに、30代40代の参加者も徐々に話したくなり盛り上がる。「思ったことを率直に話す体験がなかった」「こういう場があるということを知って良かった」などの声も。自己表現、コミュニケーションがとりやすく出来るようになる。

◆苦労した点

10月に実施予定だった「石窯づくり」について、Cafe地球屋の隣家に住む、大家の御兄弟から「やめてくれ」との異議が上がり中止にした。内容を「屋外用のウッドデッキ・ベンチづくり」に変更。大家の御兄弟を刺激しないために作業会場をカフェ横田屋（世羅町）に変えた。

ボランテイアスタッフのモチベーションを再度あげ、作業を12月実施予定したが、木材の調達に時間がかかったことと、大雪と雨に何度も阻まれたので2月まで作業が出来なかった。

完成には3月いっぱいかかりそうだ。

日程が合わず、この作業にワカモノの参加が得られなかったことが残念だ。

◆今後の課題・発展の方向性

Cafe 地球屋をつくったことで、多方面によい繋がりができた。

まちづくりに貢献してこられ地域に影響のある方々の協力を得て「みんなの地球屋」として、公的機関の力を得られるように提案してゆく。

◆活動を終えての感想・意見等

「この居場所があったから、今の自分がある」自分の希望に向かって旅立っていくワカモノから嬉しい電話があった。

少しの期間のかかわりだったが、励まされたとの事。私たちの励みとなった。

子どももワカモノも高齢者もイキイキと生きあえる居場所でありたいと思う。

| 活 動 名 | No.14 | 団 体 名 | 里山の宝リレークラブ |
|---|---|---|---|
| **里山・里川の宝リレー** | | 活動拠点 | 三次市 |
| | | 代 表 者 | 黒田　明憲 |
| | | 支援金額 | 24 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

①2021 年 6 月に結成。高齢者が中心となり、「地域の発展のために生涯を捧げた先人」や「大型商店やスーパー化に負けず個人で生産販売を頑張っておられる商店」を、子どもたちと一緒にカメラ・ビデオで取材し、「おもてなしの心」を「宝」として受け継ぐ活動を行う。

②子どもたちの成長の場が、学校ークラブ活動ー塾（学習・稽古）に限られ、地域や自然の中で遊び・育つことが少なくなっている。「子どもは地域で育つ」「野山や川で遊び育つ」ことを「宝」としてとらえ、地域に出かけ、探する活動を通して「里山・里川の宝」をリレーさせる。

③里山・里川の伝統的文化「神楽」「鵜飼」「川漁」等の受け継いでいる人たちを子どもたちと一緒に取材し、伝統文化や伝統技術を里山の「宝」としてとらえさせ、ふるさとに育つ誇りを育てる。（今年度できなかった）

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

今年度の活動概要

①全盲となりながら、県北の農山村の生活向上に貢献した故小谷傅一翁のビデオ制作し上映活動。

・5 月 21 日（土）午後 13 時～三良坂老人会で上映

・8 月 7 日～13 日　、三次ケーブル 「投稿ビデオコーナー」で 1 日に 4 回放映

・8 月 17 日～23 日、三次ケーブル 「投稿ビデオコーナー」で 1 日に 4 回放映

・9 月 19 日（敬老の日）・仁賀集会所で上映

②三良坂町に小谷傅一顕彰碑建立（江の川漁協）クラブより 8 名が招待参加。川上晶子さんが碑文朗読

③夏休みを利用して、三次市内の生産・販売をされる小売店を訪ね、「おもてなしの心」「おもてなし名人」をカメラでインタビュー。

・8 月 22 日（月）午後 1 時～十日市町の日本茶の生産販売「備前屋」商店主のインタビュー。

・8 月 23 日（火）午前 9 時～十日市町の沖田ベーカリの「オキタのお婆ちゃん」のインタビュー。

・8 月 23 日（火）午後 1 時～畠敷町の小田豆腐店商店主のインタビュー。

・9 月 12 日（日）午前 9 時～三良坂町　みらさか竹工房「はなかご」経営者のインタビュー。

県北地域の発展に生涯をかけた全盲の広島県会議長小谷傅一翁ビデオ（22 分 23 秒）

上映会（三良坂福祉センター会場）

1,少年時代　2,助役・村長・県会議員時

3,似島学園・光清学園・水明園等の設立

4,江の川漁協組合長 5,傅一さんありがとう

語り　大山律子・高本友枝・三良幸雄・

撮影　加笠一宇　撮影協力　坂井正幸

2022年（令和4年）6月6日

江の川漁協初代組合長で元県議会議長

小谷氏の業績 石碑に

三良坂の記念公園で除幕式

小谷氏の銅像の横に新設した顕彰碑を除幕する関係者

江の川漁協初代組合長。浜原ダム補償交渉に当たり、英知で江の川漁業発展の基礎を築いた傅一翁

地域探究。お店訪問「おもてなしの心」訪ねて。
野田七緒レポーターが記事を書きました。

十日市「お茶の備前屋」で。『お客を大切に』『商品の丁寧な説明』をモットーに。

◆実施に伴う効果

①ビデオ小谷傅一物語のビデオ製作で市内の多くの方に小谷傅一翁の業績を伝えることができた。

②小谷傅一物語の影響で江の川漁協が顕彰碑を建立。三良坂町民の関心も高まった。来年度から 8 月第 2 日曜日を「傅一祭り」の日と決め、周辺の清掃・イベントを行うことが話し合われた。

③大型店やスーパーにまけず自家生産・小売店で頑張られるお店を訪問して、「おもてなしの心」を学ぶ。お店屋さんから大変喜ばれ、消費者の気持ちを大切にすることの大切さを学んだ。

◆計画通り実施できなかった理由。

①地域探訪は子どもによるビデオ撮影・カメラ撮影を計画していたが、学校と連携がうまくいかず、小中高生の参加者が 5 名しかいなかった。また、ビデオによる撮影については、三次ケーブルテレビの指導を受けることができず断念。

②今後の課題として学校・子ども会との連携を確実にすること。ビデオ撮影・カメラ撮影については地元の同好会との連携が大切である。

③子どもの参加者が少なかったのを、「コロナ禍の影響」として逃げるのでなく、対策を確実にして危険を除去する努力に欠けていたことを最大の反省としたい。

◆今後の課題・発展の方向性

①三良坂学園に学校教材「小谷傅一物語」50 冊、ビデオ「小谷傅一物語」2 本を寄贈した。来年度より十分な連携を図り、学校と一体となった取り組みをすすめたい。

②今年度取組めなかった里山・里川の伝統文化「三次鵜飼」「神楽」についても地域探訪をおこないたい。

③大型店・スーパーに押されがちな小売店・三次の伝統的食品店等の訪問を継続したい。

◆活動を終えての感想・意見等

私（黒田明憲）が透析・循環器手術で三次の地を離れ、土日を利用しての活動となったため、メンバーのみさんをはじめ、関係者との連携がうまくいかず申し訳なかったと思います。子どもの育つ場が、家庭ー学校ー塾だけでなく、地域・自然を大切にし、里山の伝統をしっかり身に着けることによって大きく羽ばたいてほしいと思っています。
そうした視点で「地域探究」「宝リレー」を今後も続けていただくよう、メンバーのみなさんにお願いしています。ありがとうございました。

| 活 動 名 | No.15 | 団 体 名 | 近畿大学工学部<br>教育情報システム研究室 |
|---|---|---|---|
| **ドローンで繋ぐ農家と子供たち** | | 活動拠点 | 東広島市 |
| | | 代 表 者 | 米本 渚生 |
| | | 支援金額 | 30 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

令和 4 年度に近畿大学工学部にて教育情報システム研究室に配属された学生 3 人で結成。

大学 4 年間で学んだ経験を身近な人、地域の人に還元させることを目的として取り組みを行なっています。

近年新型コロナウイルスの蔓延に伴い、需要が増し市場の拡大が進んだメタバース空間を使用し、私たちが得意とするプログラミングを地域の子供達に伝えます。本来予定していたドローンでのプログラミング教室は、実施する日の天候面やそれに伴う安全面の問題があることから、計画を大幅に変更しました。私たちは、体験学習の機会が減少している現状を、メタバース空間の中での疑似体験を通して解決します。また、子供たちが自らの体験を他の人に伝達する手段として、プログラミングや最新技術を用い、私たちが作成したメタバース空間内でのコンテンツを一緒に作り上げる機会と、他の誰かの役に立つ感動・達成感を与えたいと考えます。

マインド：自らの体験を言語化し、「伝える」を経験する。

スタンス：一緒になって作り上げる

コンテンツ：メタバース空間を一緒に充実させ、「参加者が作るメタバース空間」に挑戦する。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

第 1 回

日時：8 月 3 日(土)　10 時 00 分から 11 時 30 分

場所：志和公民館　　参加人数：10 人

実施内容：AR 体験

第 2 回

日時：10 月 15 日(土)　9 時 00 分から 12 時 00 分

場所：近畿大学広島キャンパス　　参加人数：3 人

実施内容：メタバースに関する学習、第 2 回に向けた準備

第 3 回

日時：10 月 22 日(土)　10 時 00 分から 11 時 30 分

場所：東広島北部学校給食センター　　参加人数：3 人

実施内容：学校給食センターでの見学

第 4 回

日時：11 月 26 日(土)　9 時 00 分から 11 時 00 分

場所：近畿大学広島キャンパス　　参加人数：3 人

実施内容：メタバース内に配置するコンテンツの作成

第 5 回

日時：11 月 26 日(土)　11 時 00 分から 12 時 00 分

場所：近畿大学広島キャンパス　　参加人数：18 人

実施内容：第 3 回までに学習・作成した内容の発表会

第 2 回の様子（メタバースに関する学習）

第 3 回の様子（学校給食センターでの見学）

第４回の様子（メタバース内に置くコンテンツの作成）

第５回の様子（メタバース空間の発表・体験会）

◆実施に伴う効果

コロナ禍で体験学習が減少している子供たちが、メタバース空間を通じて体験学習に近しい仮想体験を行うことができました。第4回目まで参加した小学生は、第3回目で見学した東広島北部給食センターで学んだ知識や体験を第5回目の発表会でメタバース空間を通して伝達する中で、伝える側は誰もが楽しくわかりやすいコンテンツづくりを、伝えられる側はメタバース空間を巡り、舞台とした東広島市を探索する能動的な学習を行うことができました。対面ではマスクでの会話やパーテーションを介しての会話などさまざまな規制を振り払い、メタバース空間内で顔を合わせて会話をし、交流する機会にもなったと思います。イベントを通して、自分以外の他の小学生にも伝えたいという思いが主体的な行動につながり、成長していく様子も伺うこともできたと思います。

◆苦労した点

本来予定していたドローンでのプログラミング教室は、実施する日の天候面やそれに伴う安全面を考慮し、内容の大幅な計画変更があり試行錯誤での実施となりました。コロナの影響で学習の場が減少している小学生に、メタバースを通して体験してほしいという思いから、計8回のイベントを当初予定していましたが、参加者を募ることができず、縮小し計5回の実施となりました。

より忠実な空間を作成するために、メタバース空間として再現する場所は実際に足を運び、見学を行いました。

東広島北部給食センターでの見学時には、北部給食センターの方の協力のもと、衛生面や安全面に配慮を行い実施することができました。

◆今後の課題・発展の方向性

今後は、よりメタバースの認知を広げ、子供たちが作るメタバース空間の拡充を行なっていければ、地域の小学生にとってより満足度の高い仮想体験の空間になると考えます。また、メタバース空間内で学習できる環境を整えることができれば、能動的な学習環境の提案につながることができると思います。

◆活動を終えての感想・意見等

１年間の活動を終えて、体験学習に近い仮想体験の活用は、規制を受け伸び伸びと活動できない小学生にとって大きな意味があると感じました。また、対面ではなかなか会うことの難しい人との関わりや、普段行けない場所への訪問など非日常を経験できる良い機会になったと思います。人との関わりを持ちながら、自分が作り上げていく達成感を今後も多くの小学生に体験してもらいたいと思います。

| 活 動 名 | No.16 | 団 体 名 | 浦崎地区社会福祉協議会<br>UME プロジェクト |
|---|---|---|---|
| **こども･若者と多世代の体験活動**<br>～空き倉庫リノベーション活動～ | | 活動拠点 | 尾道市 |
| | | 代 表 者 | 髙橋　真理子 |
| | | 支援金額 | 36 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

次世代を担う地元の大学生と地域の住民参画によって、この地域のこれからを担っていくこどもたちのため、空き家を利活用した、学校や地域公認の「居間」のような居場所を運営し、青少年やこどもたちが、いろいろなことに興味を持って、体験を通して多くの感動を得られるよう取り組んでいくことを目的として任意の団体を２０１９年１１月に発足。

2020 年度、地区社会福祉協議会の取り組みとして、新たに「UME プロジェクト」を結成し、2021 年５月より空き家を利活用した居場所「UME　House」を開設。

平日月曜日から土曜日まで毎日開放し、小学生を中心とした多世代の「居場所」を運営。

「居場所」で様々な学びを支援する「学習支援」や温かい食事を提供する「こども食堂」を運営していく。「居場所」の提供により、多世代交流の「場」を若者（地元大学生や市内の高校生などの若者また関係人口となる外部人財などの若者）や地域住民・各種団体行政など、横の繋がりを密にして取り組んでいく。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

５月１日　UME　house オープン１周年イベント　　参加人数 70 名
同時開催「デスクリメイク」 ワークショップ 20 名）

６月 25 日 11 月３日「海」をテーマに「ZINE」制作ワークショップ開催
瀬戸内海海洋環境教育プログラムの一環としてみなとラボとの協働
参加　小学生・中・高・大学生 15 名参加

７月 30 日「こども夏祭り」参加人数 50 名「キャンプ体験」参加人数 10 名

７月 31 日 振り返り・清掃活動

１０月～2023 年１月/週１回～2 回のペースで「空き倉庫」リノベーションの一環として、
尾道市立大学美術学部学生ボランティアによる、こどもたちとのアートプロジェクトを実施

2022 年２月 19 日アートプロジェクトお披露目会実施

2022 年 5 月 1 日　美大生によるデスクリメイクワークショップの様子

2022 年 6 月 25 日　瀬戸内海海洋環境教育プログラム
みなとラボとの協働による「海」をテーマに ZINE 制作
ワークショップ 「自分たちの好きな海」をテーマにチェキ撮影

2022 年 6 月 25 日　こども X 大学生による ZINE 制作の様子

2022 年 12 月　尾道市立大学美術学科学生ボランティアと
こどもたちとの「空き倉庫」リノベーション
手作りの扉へのアートプロジェクトの様子

実施に伴う効果

未来あるこどもたちにとって、体験活動は、大変重要なものとなっています。2020年度から3年間に渡り、当団体は、空き家利活用の「こども・若者・高齢者の居場所」としての空間の提供をし、多世代交流を地域の多様な人財及び、関係者を巻き込み活動する事が出来ました。更なる、ブラッシュアップとして、2022年度は、空き家敷地内の空き倉庫再生リノベーションを実施し、こどもたち・地元の学生ボランティア・地域の様々な大人と多様な関係者を巻き込みながら、片付けから、扉制作アートプロジェクト・デスクリメイクワークショップの開催など、こどもたちのコミュニケーション能力や自立心・主体性・協調性・チャレンジ精神・責任感・想像力・異なる他者と協働する力を図る事に寄与出来ました。合わせて地域の特性を活かした瀬戸内海の「海洋環境」をテーマに「海」に関するZINE制作や、地元漁協の方のお話しを聞くなど、地域の「質の高い社会教育」も実施する事が出来ました。

◆苦労した点

コロナ第８波で感染拡大も影響し、こどもから大人まで、かなりの感染が出る時期もあり、スケジュールを若干変更するなどもありましたが、当団体は、さほどの計画変更もなく、計画通りの実施が出来た事は、良かったです。
しかしながら、冬場に突入すると、今度は、、インフルエンザも流行ったりと、感染対策を含め、今まで以上に、充分な配慮の徹底をしましたが、心配は尽きませんでした。

◆今後の課題・発展の方向性

マツダ財団様のご支援も、今年度で終了となりますので、来年度からの団体として自主運営に向けて、今年度は、団体の法人化も行いました。また、地域の特産物である「いちじく」などの商品化を地元農家さんとコラボレーションし、マルシェなどで販売を行ったり、カフェ運営など、こどもたちも一緒になって楽しみながら、すすめることが出来ました。今後の自主財源確保に向け、ファン作りをより一層高め、ファンドレイジングをすすめていきたいと考えております。地元企業様からの協賛も、今年度は増えてきており、更なる、地域・行政を巻き込んで、活動を推進していく所存です。

◆活動を終えての感想・意見等

こどもから高齢者まで、地域みんなが「楽しく・ごきげん」に暮らし続けることのできる「Well・Being（ウエルビーング）な地域を目指して、団体設立時より、活動をすすめてまいりました。マツダ財団様のご支援えを承り、活動の源となって、団体が目指す「地域の未来を切り拓くこどもたち」を地域みんなで育む仕組みの構築を一歩一歩、積み重ねて行う事が出来ました。ありがとうございました。ご支援を承るのは、今年度で終了となりますが、今後も、団体として、マツダ財団様と共に、一緒に活動をさせていただきたい気持ちでおります。ご恩にお返しが出来る事を引き続き協力させて頂きたいです。

| 活 動 名 | No.17 | 団 体 名 | 子どもが科学に親しむ場を創る会 |
|---|---|---|---|
| 「福山のばら」でお香開発 | | 活動拠点 | 福山市 |
| | | 代 表 者 | 三谷 干城 |
| | | 支援金額 | 25 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成の時期(西暦)　　2021 年　11 月

構成メンバー　（人数）総勢（27）名　内訳 10 代（ 0）20 代（ 0）30 代（2）40 代（2）
50 代（8）60代（ 8）７０以上（7）　内訳　女性（ ４ ）男性（ 23 ）

結成の目的、活動方針

本会は、福山市と広島県が進めている「（仮称）子ども未来館」整備の活動を支援し、館完成後市民がソフトランディングできる環境を福山の地に醸成する活動を、市民中心に行うことを目的とする。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

福山市立光小学校６年生（約６５人）による「光小ばらプロジェクト」と地元有志（子どもが科学に親しむ場を創る会会員）は力を合わせ、まだ世の中で解が見いだせていないテーマ（福山のばらでお香を作ろう）に光小学校のばら園や理科教室で 2022 年に取り組んだ。

市販のばらのお香キットは、パウダー（タブ粉）に水とばらオイルを混ぜて粘土状にして、型にはめて作り乾燥させる。

３月８日（火）　「光小ばらプロジェクト」キックオフ＜ばら植栽及びお香作り＞（写真１）
取材；中国新聞、ビジネス情報（BJ）

５月９日（月）　新６年生お香作り体験（写真２）　取材；BJ　2022 年５月 20 日号（記事１）

７月２７日（水）「０.０２%の壁を乗り越えよう」 動画で水蒸気蒸留の実験を説明　取材；BJ

１０月２０日（木）水蒸気蒸留とお香作り体験（写真 3）　蒸留と沸騰の違いの確認
取材；ＮＨＫ（写真４）　読売新聞、中国新聞、山陽新聞

１２月２日（金）プロジェクトの振り返り　蒸留と沸騰の違いを動画（実験）で説明など

光小6年「ばらプロジェクト」
福山での国際会議に向け
バラの商品開発に着手

特許

（記事１）ビジネス情報

（写真1）「光小ばらプロジェクト」キックオフ（3 月 8 日）

（写真2）新6年生お香作り体験（5 月 9 日）

（写真3）水蒸気蒸留とお香作り体験（10 月 20 日）

（写真4）NHK 放映（10 月 20 日　お好みワイド）

◆実施に伴う効果

・市販のタブ粉に水蒸気蒸留法で採取した福山のばら水を混ぜて、お香ができないかテストしたが、香りの強いばら（ニコライバーグマン、ミスターリンカーン、ダブルデライト）でも、お香に福山のばらの香りは残らなかった。そこでばらの花から0.02%しか取れないばらオイルを化学的にまねた疑似ばらオイルを使うことにした。すなわち、お香作りの市販キットの手順＜パウダー＋水＋疑似ばらオイル＞を＜パウダー＋福山のバラ水＋疑似バばらオイル＞に変えることにより、福山のばらの香りを生かした独特のお香ができた（特許出願済）。

この実施プロセスを通して、光小ばらプロジェクトのメンバーは多くのことを学んだ。①失敗は人を育てる（水蒸気蒸留で蒸留水の代わりに沸騰水が出てきた！）②解のない問題に取り組む勇気（授業は常に解がある）　③課題は可視化すれば、早く解決する（理科の実験器具にガラスを使うわけ）　④人にわかりやすく伝えるコミュニケーション力の大事さ（彼らの失敗を来年度の６年生にいかに伝えるか）など。

◆苦労した点と対応

・技術的難易度の高い試作への取組：10Ｋｇのばらから僅か2ｇのばらオイルしか取れない。このばらオイルを使うお香を作りに「0.0２%の壁を乗り越えよう」を**あい言葉**とし取り組んだ。

・香りの強いばらの花の入手の難しさ　：試作する花の選別や採取時期、その入手ルートなどの情報の得ることが難しかったが、行政担当課、関係機関との密接な関係性の中で対応した。

・小学校との日程調整　：総合的学習の時間に組み込んでもらったが、学校行事や他の授業との調整とコロナやインフルエンザの影響を受けた中で、学校に協力してもらった。

◆今後の課題・発展の方向性

疑似ばらオイルを使うことにより、当初の目的である福山のばらのお香作りは成功した。しかし、市販の疑似ばらオイルを使わない福山のばらだけでのお香作りはできないか。この視点で 50 種類以上のお香サンプルに挑戦した。その中で、偶然、オールドローズ（ばらの原種）を使うとパウダーだけで（疑似ばらオイルを使わず）香りのよいお香ができることが見つかった。しかし、これは偶然見つかり、それ以降同じ製法でお香を作っても、うまくいかない（再現性がない）。この課題に、来年度の６年生と取り組む。そのため、オールドローズを光小のバラ園などに植えて育てる。この花が咲くのは 2024 年となるので、来年度はオールドローズの花びらを購入し試作を進める。

◆活動を終えての感想・意見等

・大人の常識であきらめ実現できない 0.02%の壁を小学生の柔軟な思考で乗り越えられないかと小学校の全面的な協力をもらい挑戦した。児童から「芦田川の河原にバラをいっぱい植えよう」とか「ばらのポプリや石鹸」などの提案があったが、最終的に「ばら水」を作ることになった。ばら水に市販のお香用のパウダーを混ぜたが、お香は木の匂が強かった。そこで市販の疑似ばらオイルを少量混ぜて、福山のばらを使ったお香を作った。ただこれは、疑似ばらオイルを使っているので、来年度は、福山のばらだけでできるお香作りに挑戦する。

| 活 動 名 | No.18 | 団 体 名 | FRAMEWORK JAPAN |
|---|---|---|---|
| **ものづくりの基礎となる空間認識能力を養う体験学習を地域文化財から学ぶ活動** | | 活動拠点 | 福山市 |
| | | 代 表 者 | 田村　晃宏 |
| | | 支援金額 | 27 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

私たちは、２０２１年に結成し、メインメンバー３名とメインボランティアスタッフ約１０名にて、文化財、美術品、教育を中心に、デジタルを介しての地域貢献活動を行うことを目的としています。

備後圏域を中心に児童から高齢者（特に障害を持つ方）に対してデジタルコンテンツを通じて地域の文化財や美術品、学校教育の体験学習ができる場づくりを行う。

若手芸術家を積極的に支援し、アートと物・コト・情報発信を結び付け、新しいフレームワークを構築する。

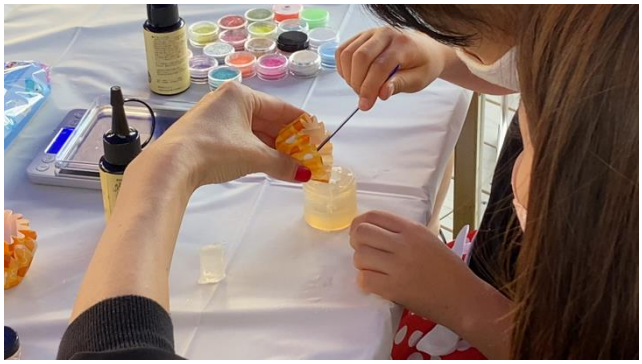
ものづくり、歴史文化、アートを育てる風土づくりを行う人材を育てる。 生活上の困難、権利の侵害など、何らかの生きづらさを抱えている人々の支援活動を行います。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

１０月２３日（日）に福山駅前アイネス Fukuyama 前（フクヤマニメ内）で、子どもたちが手で触って感じることができるものづくりのワークショップを開催いたしました。目の不自由なお子さんもご参加いただけるように、家族と一緒に楽しみながら空間認識能力を育んでいただける内容となっておりました。 参加者は一般のファミリーが中心でしたが、障害をお持ちの方にも安心してご参加いただけるように、サポーターが一組一組丁寧にサポートをさせていただきました。 ハロウィンをテーマにしたカボチャや幽霊などのレジン（樹脂）で作るアクセサリーや、手作りキーホルダーなどを制作していただきました。 このイベントを通じて約１００組のファミリーにご参加いただき、大変盛況のうちに終了することができました。

これもマツダ財団様からのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

また、地域の美術品を手のひらサイズに再現した造形品も制作しておりますが、版権などの問題がありまして、現在調整中です。解決次第、次回を開催したいと思っております。



親と一緒に子供が制作している様子

ワークショップの様子

親と一緒に子供が制作している様子2

親と一緒に子供が制作している様子3

◆実施に伴う効果

フクヤマニメとの共催により、福山市を中心とした全国各地から多くの方々にご参加いただきましたこと、心より感謝申し上げます。 約１００組のご家族にお越しいただき、大変盛況なイベントとなりましたこと、嬉しく思います。 手作りのものづくりを体験していただくことで、ものづくりの魅力をお伝えできたかと存じます。 今回は地域に関する美術品などはワークショップで制作することができませんでしたが、地域で開催される恒例の行事を通じて、人との交流や地域の雰囲気を感じていただけたかと思います。 また、ご協力いただいたボランティアスタッフの皆様にも、子供達にものづくりの楽しさを伝えるだけでなく、自らもものづくりを楽しんでいただき、地域貢献に対する意識が高まっていただけたこと、大変ありがたく思います。 今後も地域を感じる体験を通じて、子供達に空間認識能力を高めてもらうことで、笑顔とものづくりの好きな子供たちが沢山増えるように努めてまいります。

◆苦労した点

美術品や文化遺産を扱う活動は、管理者の許可が必要であり、その手続きはとても大変です。

ワークショップなどで金銭が発生する場合は、許可が下りるまでに時間がかかったり、場合によっては不許可となったりすることもあります。材料費やボランティアスタッフの昼食代や駐車場代など、最低限の経費を賄うためにも、低料金で開催したいと考えていますが、なかなか承諾を得ることが難しいです。

また、ボランティアスタッフ集めも容易ではありません。特にワークショップでは事前に練習する必要があり、練習場所や練習材料費などの調達も大変です。

アクセサリーはシリコンで型を作り硬化させる工程がありますので、お時間を頂くことになります。また、多くのお客様に同時にご対応することが難しい状況のため人手が多くかかります。型は一度使うと再利用できませんので、毎回新しく作らなければならず、費用が高くなってしまいます。ですから、もっと効率的な方法を探しております。

◆今後の課題・発展の方向性

関係人口が少しずつ増えてきており、ワークショップをとても楽しんでくださっている子どもたちが多かったです。

次回はより充実した内容をお届けできるように準備しております。

版権問題を解決するために、無料化する方向でも検討しておりますが、費用の捻出の問題で進行が遅くなっております。コロナや版権問題にて開催できず延期になっているイベントがありますので、今回開催したイベントの良かった点、反省点を次回に繋げたいと存じます。

何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

◆活動を終えての感想・意見等

この度は、マツダ財団様のご厚意により、多くの方々と笑顔で交流することができましたこと、心より感謝申し上げます。

コロナ禍も徐々に収束に向かい、今後はさらなる活動の発展が期待されます。

貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。

| 活 動 名 | No.19 | 団 体 名 | Project SMILE |
|---|---|---|---|
| **小中学生の自由な発想力を育む地域に根差した情報番組制作ワークショップの実施** | | 活動拠点 | 福山市 |
| | | 代 表 者 | 宇佐美　薫 |
| | | 支援金額 | 43 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

2020 年に福山市協働のまちづくり課によって開催された「福山未来共創塾 2020」を契機に団体を結成しました。**地域の魅力を市内外の人々に伝える**ことにより、福山への在住意欲やワーケーション、観光需要を高め、福山市及びその周辺地域の活性化を目指しています。

活動方針として以下に示す 3 点の内容に関して取り組み、仕組みづくりや働きかけを行っています。

(1) 各地での**魅力の発見及び創出**

(2) **地域の産業や取り組みと関わりあうことで生まれる教育活動**

(3) この地域の誇る**魅力の発信**

2022 年には、子ども達と実施したものづくりワークショップの他に、福山に伝わる「思いやり、優しさ、助け合いの心」を表す「ローズマインド」をテーマにした**地元旅行の工程表を考えるワークショップやその紹介動画の製作**を行いました。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

実施日：10/1、2、29　場所：福山市内各所　参加人数：13 人

ワークショップ名：**きみもキッズクリエイター!!　vol. 2　みんなでつくるシネマイベント！**

野外映画イベント「ねそべりんぐシアター」の**ポスターや入場タグ、シンボルツリーに飾る行灯、イベントグッズ**をキッズクリエイターとして製作するワークショップを行いました。ワークショップには参加した子ども達が自ら考える場面や、学校ではできない体験を多く盛り込み、**自由な発想力を養える場**を生み出すことができました。

一例としてポスター製作の様子を基に、ワークショップの内容をお伝えします。

初めに映画の開催場所である芦田川かわまち広場を実際に訪れました。ポスター製作チームの 4 人は全員初対面であるため、少し距離感を感じましたが、協力企業の運営する映画館の見学やプロのデザイナーを交えたミーティングを通してチームとしてまとまり始めることができました。ポスターの記載内容や大まかなデザインは、子ども達が事前に準備してあった他のポスターを参考にして、講師として参加した**デザイナーからアドバイスを受けながら考えました**。ポスターはパーツごとに作成し、最後にパソコン上で組み合わせて作り上げました。まずは背景を 2 メートルほどある大きな布に描き、タイトルの文字や会場で見かけたベンチやスクリーンを作り上げました。これらのパーツの製作では、学校の授業ではなかなか扱うことのない**大きな布へのペイント**や、福山の企業の**廃材を用いる**ことで、**学校に通っているだけではできない体験を提供**することができました。

野外映画イベントの「ねそべりんぐシアター」（こちらは 11/19 に実施）では、「えんとつ町のプペル」を上映しました。映画を上映する前にワークショップのドキュメンタリー映像を流すことで、子ども達の活躍を知ってもらうことができました。

「ねそべりんぐシアター」会場の様子。
手前のシンボルツリーに飾られている行灯は、子ども達が製作。

一日目集合写真。テーマは好きな決めポーズ。
笑い声に溢れ、全員とても楽しそうでした。

ポスター製作の様子。左は映画館でネガを貼り付ける体験中で、右はポスターの背景作り。真剣に取り組む様子がみれました。

左は完成した「ねそべりんぐシアター」のポスター。
右の QR コードからはワークショップの開催映像がご覧になれます。

◆実施に伴う効果

ワークショップ実施に伴い、アンケートを取りました。その結果、**大変高い満足度**でワークショップを開催できたことが分かりました。また、保護者の方からは応募者が増えると困るという理由で、**人に教えたくないワークショップ**というお言葉も頂けました（開催団体としては多くの方に知ってほしいのですが…）。

映画イベントではワークショップ参加者と映画鑑賞者で別個にアンケートを実施しました。その結果、イベントの満足度やワークショップへの興味は特に今回のワークショップに参加した人達の間で高いことが分かりました。このことから、団体の事業に深く関わってくださった方々は、活動への理解が深まり、団体の**ファンになってくれた**のだと分かりました。また、映画イベントではワークショップのドキュメンタリー映像を上映し、多くの方に**ワークショップのことや福山市の魅力的な場所や産業を知ってもらう**ことができました。

◆苦労した点

ワークショップ企画段階から多くのクリエイターの方が協力してくれましたが、その方々の意見を大切にするあまり、内容の決定までに長い時間を要しました。協力者の大切な時間を無駄にしないためや、告知から実施までに余裕を持たせるためにも、**もう少し早いタイミングで団体側の内容決定**を行うべきでした。また、休日に習い事をしている子ども達が多く、特に今回の募集対象であった中学生の参加者を集めることができませんでした。

ワークショップから野外映画イベントの実施までの間隔が短かったり、映画の開催時期が秋の終わりになったりしたことで、シアターイベントは告知を十分に行うことができず、せっかくのワークショップでの子ども達の活躍を最大限の方に知ってもらうということはできませんでした。そのため、**実施時期に関しては再考**する必要があると感じました。

◆今後の課題・発展の方向性

ワークショップの日程を集中して製作に打ち込めるように 2 日連続で実施したが、習い事の都合で参加できなかったという声を複数頂きました。**より参加しやすい日程の設定**を行う必要があると感じました。

実際に野外映画を行ったことで、ワークショップの中身として会場に飾るようなものだけでなく、スクリーンに映し出す映像の製作や会場で流す音楽といった**イベント特有の製作物をワークショップに組み合わせる**ことで、内容を発展させられる可能性を感じました。

◆活動を終えての感想・意見等

ワークショップに参加した子ども達から大変好評だっただけではなく、スタッフとして参加した**大人達からも楽しみながら活動できた**という声が多く聞こえてきた点が、今回のワークショップの充実感を物語っていると感じました。また、開催に際して、たくさんの企業等の団体と**共創、協力関係を築けた**ことが大変励みになりました。ワークショップから野外映画の開催までの期間や時期等の改善点はいくつもありますが、次回以降も子ども達が自主的に考えて、貴重な体験を得ることができるワークショップの開催に向けて頑張りたいと思います。

| 活 動 名 | No.20 | 団 体 名 | 一般社団法人 まなびのみなと |
|---|---|---|---|
| **高校生マイプロジェクトアワード<br>広島県 Summit** | | 活動拠点 | 豊田郡大崎上島町 |
| | | 代 表 者 | 取釜 宏行 |
| | | 支援金額 | 38 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

2019 年 5 月に結成。大崎上島町の地元出身者と地域おこし協力隊、加えて大崎上島町唯一の普通科公立高校・大崎海星高校の卒業生が構成メンバーの団体です。

学校と地域を横断し、垣根を超えて地域全体で学びを作り出すことを目的に活動しています。学校だけでなく仕事や趣味、家庭などあらゆる日常の中に存在する学びの機会に、誰もが出会い、一人ひとりがその学びを深めていくような社会の実現を目指します。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

【高校生向けプログラム】

・7 月　スタートアッププログラム実施

「プロジェクトの始め方」に焦点をあてたプログラムを叡啓大学にて開催。（高校生 7 名・大学生 7 名が参加）

・9 月　アクションブラッシュアップ会

アクションを起こした高校生を対象にブラッシュアップ会を開催。（高校生 3 名・大学生 1 名・社会人サポーター1 名が参加）

・10 月　マイプロジェクトアワードプレ発表会

大崎上島町で行われた教育シンポジウム「SCH 西日本シンポジウム」に集まった大人 60 名を前に、高校生がこれまでのプロジェクト成果を発表し、様々な視点からフィードバックを受ける機会を創出。（高校生 3 名が参加）

・1 月マイプロジェクトアワード広島県 Summit

プロジェクト実践を通して得た自分自身への気づきや学びをシェア。普段出会うことのない社会人、そして様々な背景を持つ同年代の高校生との対話を通し、共に学び合い新しい気付きを得る機会を創出。（県内 9 校から 16 プロジェクト・23 の高校生が参加、社会人サポーターが 10 名参加）

～2022 年度の広島県 Summit 出場プロジェクト～

わたしたちの「朝」を届けようプロジェクト/～安全でスマートなまちづくりへ～/酒粕チーズ樽斗プロジェクト/君も妖怪好きにならない？/捕食者がいない日本ーシカ食害と植生の変化ー/食料危機の救世主、昆虫。～昆虫食とその未来～/お年寄りとの交流プロジェクト/三次発信 girls/島ラジオプロジェクト/絵からつながるプロジェクト/女の子トイレプロジェクト/空飛ぶ家は作れるのか/畑でコミュニティ作り/命を繋ぐ/普及しよう！方言の魅力/クマとコミュニケーションをとるにはどうしたらよいのか

【学校教員向け勉強会プログラム】

5 月　ひろしま探究ラーニングコミュニティ 2022 キックオフ交流会（6 名参加）

6 月「上海から見た日本のみらいの教育とは」帝京ロンドン学園・山﨑友亮様（9 名参加）

7 月「問いの作り方」京都産業大学/NPO 法人ハテナソン共創ラボ代表理事・佐藤賢一様（9 名参加）

9 月「マイプロ全国出場者に学ぶ」福山大学大学生/2021 年度マイプロ全国 Summit 出場者・芳形和紀様（6 名参加）

11 月「高校生を支える土壌づくり」新潟南高校教諭/NIIGATA マイプロジェクト☆LABO 実行委員長・宮崎芳史様（6 名参加）

総勢 70 名超が参加したマイプロジェクトアワード 2022 広島県 Summit

会場となった叡啓大学で活動と学びを発表する高校生

7 月スタートアッププログラムでは
広島大学・叡啓大学・福山大学の大学生が高校に伴走

10 月プレ発表会では
60 名超の大人が高校生にフィードバック

◆実施に伴う効果

マイプロジェクトアワード広島県Summit参加高校生を対象とした満足度アンケートにて、4段階中3.9と全国で最も高い満足度となりました。

「熱意を持って行動している人がたくさんいて、そんな人達と話すことで自分もやる気がふえたり、新しいやり方などを学んだりして良い刺激になった」「学校などではやる気を持って探究をする人があまりいないけど、広島という地域でみたらそれぞれ何か課題意識をもって実行している人がたくさんいることに気づいてなぜか安心しました。また、これやっていて何になるのかなと時々分からなくなるけど、“小さな欠片でもいい”という言葉が凄く胸に刺さって、小さなことを少しずつでも進めていくことの大切さみたいなものを学びました」

そんな感想が見られ、地域・立場を超えた出会いが、今後の高校生の活動の出会いになることが改めて認識できました。また、高い満足度の一因には、オンラインではなく対面にて開催したことも寄与していると考えられ、ご支援いただいた助成金にて高校生の交通費などを負担し、経済的な参加ハードルをなくせたことが大きかったと思います。参加16プロジェクトのうち半数の8プロジェクトは、スタートアッププログラムやプレ発表会に参加した高校生たちであり、年間を通して伴走支援をすることの必要性もまた実感しました。

◆苦労した点

マイプロジェクトアワードへの参加高校生が想定より少なかったことは今後への課題です。全国では1万6000人が参加する本取組ですが、県内知名度はまだまだ低く、高校生に機会を届けるためには学校の先生を経由してご紹介いただく必要があります。年度当初は40プロジェクトの参加を想定していたため、想定を大きく下回る参加者数となりました。学校の先生方にも、校外での発表機会・交流機会に対して積極的になっていただけるよう対話の機会を更に増やしていきたいと考えています。

◆今後の課題・発展の方向性

これまで 2 年間は、高校生同士のコミュニティづくり、そして学校の先生同士のコミュニティづくりに取り組んできました。今後もこの 2 つは継続しつつ、今後は高校生と地域をつなぐコミュニティづくりに注力をしていきたいと思います。高校生の活動の舞台となるのは、学校が立地するそれぞれの地域であることがほとんどです。各地域に高校生の活動を応援する大人を増やし、学校と地域が協働して教育を実践する土壌をつくっていきたいと思っています。

『高校生が変わり、学校が変わり、地域が変わる』
この活動を始める際に描いたそんな未来を、広島県内に拡げていきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

「広島のオトナってかっこいい！」
マイプロジェクトアワードの閉会式で、ひとりの高校生が発した振り返りの言葉でした。
「広島の高校生ってすごい！」
同じく閉会式で、ある社会人の方が発した振り返りの言葉でした。
子どもも大人も一緒に学び、一緒にアクションを考える。広島の未来を作るのは、高校生でもあり私たち大人でもある。そんな当たり前のことを再認識する時間となりました。この機会を更に多くの高校生に届けられるよう、今後も活動を続けていきます。

| 活 動 名 | No.21 | 団 体 名 | 宇部市地球温暖化対策ネットワーク |
|---|---|---|---|
| **育って！拡がれ！未来の地球！<br>ミニソーラーカー工作教室** | | 活動拠点 | 宇部市 |
| | | 代 表 者 | 渡邊　裕志 |
| | | 支援金額 | 33 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成時期：2002 年 10 月（略称 UNCCA）

構成メンバー：代表 1 人、副代表 1 人、幹事 11 人、パートナー4 人、監査 2 人、顧問 2 人、事務局 6 人
団体会員１０５団体　個人会員 87 人

結成の目的：省エネルギー及び低炭素社会の形成を目指し温室効果ガス削減に向け、産・官・学・民の相互理解と協力のもと、地域における地球温暖対策を協議、実践し、環境共生都市の実現に寄与する。宇部市に於ける、地球温暖化対策地域協議会としての役割を担う。

目的達成のため、下記の事項を協議・検討・実施する。

(１)温室効果ガス削減のための生活行動様式改善の促進　(２)温室効果ガス削減に関する普及啓発の促進
(３)温室効果ガス削減に向けた仕組みづくり　(４)その他地球温暖化対策に関すること

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

１．小学生を対象にミニソーラーカー工作教室を 8 教室開催した。(①③⑥⑧全市内対象・②④⑤⑦地域対象)

２．夏休み工作教室(③⑥)は広報うべに広告を掲載、地域の子ども教室・保育クラブ(②④⑤⑥)は市を通じて募集し、イベント(①⑧)では来場者が参加した。

３．夏休み工作教室 1 と地域の子ども教室・保育クラブ工作教室では外部講師により省エネ・環境教育(タイトル：エネルギー？どんなもの？太陽電池のしくみ)を実施し、夏休み工作教室 2 ではごみ処理施設の見学を行った。

４．イベントでは省エネの啓発パネルを展示したのほか、①では液晶パネルを使用して環境クイズをおこなった。又、⑧のイベントでは別に低学年児童・幼児を対象にプロペラカーとグライダーの工作(23 人)を行った。

５．４月(3 回)、７月（２回）ボランティア(８人)と事務局員(3 人)が協働し工作キット 150 台を製作した。

６．工作指導はボランティア、事務局員及び地域のサポーターが行った。

７．反省会：1 月 31 日ヒストリア宇部に於いて講師、ボランティア(5 人)、事務局員(4 人)が意見交換。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ①5 月　5 日　(木) | 新天町アーケード | 新天町子どもまつり工作教室 | 29 人（30 人） |
| ②7 月 27 日　(水) | 二俣瀬ふれあいセンター | 二俣瀬放課後子ども教室工作教室 | 16 人(10 人) |
| ③7 月 31 日　(日) | 多世代ふれあいセンター | 夏休み工作教室 1 (3 回) | 18 人(48 人) |
| ④8 月　2 日　(火) | 小羽山ふれあいセンター | 小羽山放課後子ども教室 | 18 人(20 人) |
| ⑤8 月 18 日　(木) | 神原ふれあいセンター | 神原子ども委員会 | 13 人(30 人) |
| ⑥8 月 23 日　(火) | 宇部市リサイクルプラザ | 夏休み工作教室 2 | 7 人(12 人) |
| ⑦11 月 14 日(月) | 恩田小学校図工室 | 恩田学童保育クラブ | 40 人(0 人) |
| ⑧12 月 18 日(日) | 宇部市立図書館 | まるごと COOLCHOICE 工作教室 | 4　人(30 人) |

写真1：3年振りの「新天町子どもまつり」の教室、街中大賑わい

写真2：初めて山間部で工作教室「二俣瀬放課後子ども教室」

写真3:「夏休み工作教室2」初めてリサイクルプラザで開催

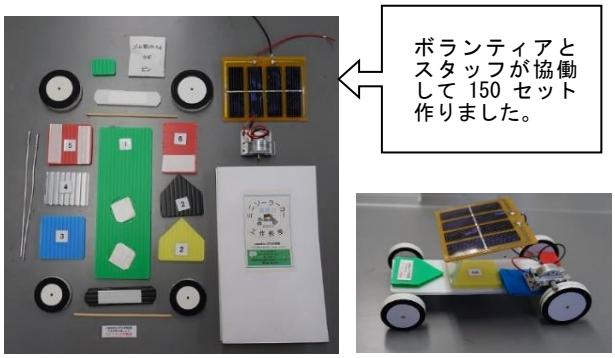



写真4:工作キットと完成車

◆実施に伴う効果

①参加者全員、工作を楽しんだ。(アンケート結果：楽しかった79%、まあまあ楽しかった21%)

②省エネ・環境教育により、「宇宙が物とエネルギーでできている」こと、「太陽電池の仕組み」を学んだ。

③ごみ処理施設の見学で、ごみの分別やリサイクルのことを学んだ。

④太陽電池が、光エネルギーを電気エネルギーに変えることを自分で工作したソーラーカーで体験した。

⑤工作教室が放課後子ども教室に展開することで山間地域にも活動が広がった。

⑥イベントでのパネル展示や環境クイズは市民への環境問題・省エネ行動の啓発となった。

◆苦労した点

①コロナウィルス感染拡大と他の工作教室が同時開催された影響で「夏休み工作教室」の参加者が大幅に減少した。(計画60人に対して25人) 対応策として恩田小学校に工作教室開催を依頼し、学童保育クラブで40人の工作教室をおこない、なんとか目標を達成することできた。

②ボランティアの増員がままならず(キット製作に新人1人参加のみ)、キット製作や指導員不足時に、他のボランティアと事務局員の負担が増した。

◆今後の課題・発展の方向性

①工作の方法：「キットを組立てる工作」から「自分で材料を加工してモノづくりする工作」をめざす。材料や道具の使い方などの基本を教えて、手仕事の面白さや工夫する楽しさをもっと体験させたい。

②市内全域への展開：市内の子どもが誰でも参加できるよう、「放課後子ども教室」や「学童保育クラブ」への展開を引き続き行う。又、実施に当たっては地域のサポーターが指導員として子ども達とふれあえるよう、サポーター教育 (工作・環境)を実施する。

③ボランティアの若返り：ボランティアの高齢化が進み、活動の継続には若返りが不可欠である。定年退職者の就労年齢が上がり現状はで獲得が難しい。ボランティアの募集を図ると共に②に述べた地域サポーターの力を我々の活動に取り込むことで活動を展開する。

③参加者増加時のキット製作の負担：①によりキット点数削減と②によるキット製作者の増員。

◆活動を終えての感想・意見等

・この活動のピークである 8 月に、予想だにしなかった参加者の落ち込み(苦労した点①)があり、我々のこの教室が子ども達にとっては”最高！“のもので無いことを痛感させられた。次年度から、子どもに達とって“最高に楽しく、最高に面白く、最高にためになる” 「ミニソーラーカー工作教室」を目指して頑張ります。

| 活 動 名 | No.22 | 団 体 名 | うべ交通まちづくり市民会議 |
|---|---|---|---|
| **自転車危険マップづくりとルール啓発による交通安全コミュニティの取り組み** | | 活動拠点 | 宇部市 |
| | | 代 表 者 | 村上　ひとみ |
| | | 支援金額 | 13 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

本団体は、2010 年に設立し、宇部地域の交通環境の改善に向け、市民の立場で自らの行動変革を促す活動を実行することにより、人にやさしく車に頼りすぎない持続可能な地域社会の実現を目的としている。近年は主にエコな自転車交通の環境改善をめざして、当事者の高校生などの意見を集め、行政にはたらきかけ道路の改善・ルール啓発の両面から取り組んでいる。主な活動を以下に挙げる。

１）自転車交通ルールの啓発と事故防止の啓発：自転車ブックレットをオリジナルで作成し、毎年卒業時期に宇部市内の中学 3 年生全生徒に配布。２）高校生と自転車通学路点検ワークショップを開催し、自転車ナビマークなど整備の意義と、自転車通行方法を啓発、自転車走行空間整備を要望。3)宇部地域の自転車交通に関わる当事者意見交換会の開催（道路管理者の市や県、交通管理者の警察、教育委員会、市役所交通安全担当などが情報共有）。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

宇部市が整備する自転車ネットワークが校区付近に立地している藤山中学校の学校運営協議会に協力を求め、中学生ボランティアを募り、自転車危険マップ作成のワークショップを開催した。

・第１回目（座学）2022 年 7 月 19 日：　1 学期末の全校集会にてうべこまち会長（村上）が 20 分の講義、自転車ネットワークの先進事例、自転車事故の原因、交通ルールを解説。生徒には自転車危険個所をマップに記載する課題に取り組んだ。うべこまちメンバー5 名、地域住民 1 名参加。

・第２回目（フィールドワーク）2022 年 7 月 27 日：生徒 8 名と住民 3 名・市職員 1 名、うべこまちスタッフ 3 名が、3 班に分かれ、文京台・上条・岩鼻の各ルートを歩いて交差点や街路の自転車危険個所をチェック、地図で確認、タブレットで撮影。教室に戻り、グループで調査個所を確認、写真整理・プレゼン案作成の役割分担。

・第３回目（ワークショップ）：2022 年 8 月 4 日：生徒 10 名と住民 1 名・市職員 3 名、うべこまちスタッフ 5 名、大学生 1 名が 3 つの班に分かれ、地図を囲んで、フィールドワークの成果を書き込む。プレゼンの流れ確認、修正。紙面の大きい都市計画図（縮尺 1/2500）で調査ルートのほか、気づきを共有。写真を Google mymap に地図とリンク（大学生が地図パソコン操作）。各班の発表、参加者から気づきと励まし、生徒指導の教諭から講評。

・関連して、自転車危険マップ作りＷＳの活動を、第９回自転車利用環境向上会議 in さいたまにて村上会長がポスター発表した。また、北九州市交通安全センター・交通公園をうべこまちメンバーで視察・交流し、自転車ルール啓発の理解を深めた。

7月 27 日:宇部市立藤山中学校で自転車通学路ワークショップ、スタッフ集合

7 月 27 日:自転車通学路、宇部線踏切の注意箇所、写真にとって観察

8 月 4 日：自転車危険マップづくり室内ワークショップ、地図を囲む

8 月 4 日：グループの調査結果発表

◆実施に伴う効果

・自転車通学路点検ワークショップに、中学生がボランティアで、また生徒会からも参加し、地域住民や宇部市役所道路整備課職員、うべこまちスタッフと、自転車通行方法について、現場で道路や交通を観察し、課題を話し合うことができた。プレゼン作成により、自分ごととして問題を考え、伝える力を発揮できた。

・中学校教員や地域のふれあいセンター、学校地域運営協議会において、このワークショップの意義と参加呼びかけがされて、自転車交通についての関心が高まった。

・藤山中学校での自転車ワークショップを契機に、隣接する私立の香川高校交通委員会から、自転車マップづくりの提案が寄せられ、うべこまちとして応援できた。

◆苦労した点

中学校で自転車ワークショップの参加希望生徒を募ったが、WS当日の参加は2/3と少なくなった。夏休みで部活や高校オープンスクールなどが重なったためである。また、野外調査の結果を地図にまとめる作業は、生徒主体では時間がとれず、また、中学校の文化祭に参加生徒が成果発表の予定だったが、コロナ禍で時間短縮となり、発表の機会がもてていない。

宇部市の自転車ネットワークは道半ばで、対象中学校の通学路もその整備は十分でない。自転車が交通ルールに従って、車道左側通行をしたくても、道路や自動車の運転が危険な状況もあり、対処に苦慮するところもある。

◆今後の課題・発展の方向性

・コミュニティスクールでの自転車交通 WS 取り組みを、地域学校協議会に丁寧に説明し、参加をよびかける。

・生徒の自転車ワークショップでの地図作成・写真や動画リンクをデジタルマップへと発展させる。

・成果の発表について、地域の文化祭やＷｅｂ発信など、機会を広げる。

・自転車通学マップの作製方法、生徒と地域参加で、そのひな形マニュアルを作成し、他の学校でも適用できるよう、発展させたい。

◆活動を終えての感想・意見等

これまで高校生と自転車通学路を自転車で試走して、車道の安全な走行方法を体験するワークショップを実施してきたが、今回、中学生との路上点検ワークショップを実施して、考えが柔軟で自転車の通行安全な通行方法や道路の課題について理解が深まると感じた。地域の住民との意見交換も大切で、事前の講習など、工夫が必要と思われる。こうした活動を報道などでも伝えてもらい、自治体での自転車ネットワークと安全な生活道路整備を後押ししたい。

| 活 動 名 | No.23 | 団 体 名 | 小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会 |
|---|---|---|---|
| **絶滅危惧Ⅱ類「ヤマグチサンショウウオ」を教材とした自然環境教育の実践** | | 活動拠点 | 下関市 |
| | | 代 表 者 | 新村　義昭 |
| | | 支援金額 | 17 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

2016 年 2 月に，下関市豊浦町小串の堂道川上流で「見慣れない卵塊」を確認し調べた結果、環境省・山口県指定絶滅危惧Ⅱ類である「ヤマグチサンショウウオ」の卵塊であることを確認した。事の重大性に気づき、棲息地の保護・保全することを活動方針として有志を募り「小串ヤマグチサンショウウオ保護・保存会」を結成し、活動を開始した。

棲息地の保護・保全活動を行う一方、2018 年 2 月から、郷土の希少種としての「ヤマグチサンショウウオ」の飼育・観察を実行することで児童の自然環境教育とする取り組みを、下関市立小串小学校の了解を得て、推進している。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

2022 年度の活動

**採卵**

実施日：2022 年 2 月 7 日

採卵場所：下関市豊田町西市**(写真-1)**

**給餌・飼育観察**

場所：下関市立小串小学校

対象：3･4 年生　8 人

内容：

1）　孵化過程の観察：卵嚢からの脱出を孵化とし、目視で観察。**(写真-2)**

2）　餌・飼育観察：孵化後、水槽内の幼生に解凍した「アカムシ」を与える。**(写真-3)**

3）　変態して上陸開始。**(写真-4)**

4）　個別飼育・観察開始のための説明会。**(写真-5)**

5）　夏季の対策：幼体の死亡の第一因であるとされる 25℃以上の環境を回避するため、冷凍庫及び冷蔵庫を設置し、生育環境の改善に努め、成果を上げることができた。**(写真-6～9)**

6）　放遂：12 月 20 日に、無事に夏季を過ごした当歳幼体を、児童が放遂した。**(写真-10)**

**写真-1　採卵直後**

**写真-2　孵化（卵嚢脱出）直後**

**写真-3　給餌（冷凍アカムシ）**

**写真-4 変態して脱出開始**

**写真-5　個別飼育・観察説明会**

**写真－6　導入の冷蔵庫・冷凍庫**

写真-7 保冷剤を天井に載せ冷却

写真－8 個体ごとにケースに入れる

写真－9　ケースは別荘・冷蔵庫は避暑地

写真－10　放遂式、放遂個体はケースに

実施に伴う効果

2017年以来、孵化個体の夏季、特に夏季休暇中の死亡率を低下させることに苦心してきた。2022年には冷房装置を設置し、低下に努めて一定の効果は上がったが、児童各自が飼育する個体の死亡を防ぐことができなかった。

2023年、冷蔵庫・冷凍庫を導入し、個別に温度管理を行うことが可能となり、死亡例は1例のみであった。このことは、資料として添付した児童の**「ヤマサン観察日記」**を読めば明白である。

このような死亡率の低下の試みは、児童への自然環境教育の中で「命の大切さを学ぶ」学習におおいに効果があったと考えることができよう。

また、放遂に当たっては、児童各自が**「別れの言葉」**を述べた後に、各自が放遂した。

◆苦労した点

児童たちは日々、ヤマサンへの給餌に努めているが、個体によってはすぐにエサの冷凍アカムシに食いつくことがなく、昼休みを使い切っても食いついてくれない場合もあった。

このように、児童が直接かかわる場面で、苦労が垣間見られた。もちろん、すぐに食いつく個体もあり、それどころか、人影を感じると頭を持ち上げる個体もいた。

◆今後の課題・発展の方向性

活動期間終了間際の、2023年1月に、飼育環境の悪化、特に、屎尿処理に関すると思われる問題が発生した。この件に関しては、これまで特に問題にしてはいなかった。

しかしながら、この件は重要であると判断し、ただちに「エサの食べ残しや屎尿処理も可能なバクテリア入り」の土を購入し、対処することができた。これからも、不測の事態に対処できる体制を整えておかねばなるまい。

現時点では、小学校卒業時点で飼育観察は終了となる。ただ、中学生になっても行ってもらいたいが、中学校での勉強が大変だということで、終わってしまっている。

発展の方向としては、中学での飼育観察の可能性を探る事であろう。

◆活動を終えての感想・意見等

2018 年から、ヤマグチサンショウウオの飼育観察を実施している。当初、4 年生からであったが、2021 年から 3 年生・4 年生を対象とすることとしたが、飼育観察は、前述のように、個体が生きている限り卒業時点まで継続している。そして、卒業時点で、残念ながら個体が死亡してしまった下級生に、飼育観察を託すということができている。

また、3・4 年生が上級生を見て、飼育観察の技を体得することが可能なことは、論を待たない。

| 活 動 名 | No.24 | 団 体 名 | 特定非営利活動法人 Nest |
|---|---|---|---|
| **みかん山を活用したひきこもり自立支援** | | 活動拠点 | 下関市 |
| | | 代 表 者 | 石川 章 |
| | | 支援金額 | 30 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

１９９５年に任意団体「フリースクール下関」として、不登校やひきこもり状態の青少年に対して、自己肯定感を回復させるためのサポートをすることで、それぞれが主体的な生き方をし、自立へ向かうことを目的としてスタートし、２００７年に法人化して「NPO 法人Ｎｅｓｔ」として活動を続けている。

教育委員会と連携している小・中学生を対象としたフリースクールと、下関市福祉部や保健所とも連携をしている高校生年齢以上の居場所としてのフリースペースを運営している。

また、不登校・ひきこもりに関する相談や、訪問支援、自立支援活動も行っている。

本事業に関わる構成メンバーは、Ｎｅｓｔのひきこもり支援相談員と、定年退職を迎えた企業や公官庁出身者、看護師等で、コミュニケーション作り等に尽力してきた経験を持っている。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

＜実施日＞ 4/8，4/22，5/6，5/20，6/3，6/17，7/1，7/15，7/28，8/12，8/26，9/9，9/30，10/14，10/28，11/4，11/18，12/2，12/27，1/20，2/3，2/17、3/3，3/17，3/31

**計 25 日**

＜場所＞ 下関市黒井（みかん山）

＜参加人数＞ スタッフ９名 **延べ 159 名** 、 若者７名 **延べ 74 名**

＜内容＞

ひきこもり状態の青年たちが、年間を通してみかん山の管理をし、作業中や休憩時等にスタッフや仲間と交流する、屋外の居場所として過ごす。

作業としては、枝の剪定、草刈り、肥料やり（4～10 月）、摘果作業、防虫対策（７～９月）、みかんの収穫（11～2 月）等を行った。

4/8，作業下見、作業予定を話し合う。
（脚立、2輪車、草刈り機、剪定ばさみ等の備品、肥料を購入）

4～8月は草刈り、肥料やり、摘果作業を行った。

1/20，デコポンの収穫作業。

2/10，NPO 法人さくらんぼデイサービスに
収穫したデコポンを届けた。

◆実施に伴う効果

ひきこもり状態にある青年たち（18～41歳までの男性7名）が、高齢化により使われなくなったみかん山を管理して作業をする中で、安心できるスタッフや仲間と交流しながら、開放感を味わうとともに、収穫の喜びや、みかん山を守る充実感を得て、自己肯定感を高めることができた。

具体的には、役に立っていることを実感（自己の存在確認）する声や、笑顔も多く見られるようになり、就労に向けた情報を収集し始めた者や、就労の準備段階として自らボランティア活動に参加する者も出て来た。

また、家族の送迎に頼らず、バスや電車に乗って来る挑戦をする者も現われた。

◆苦労した点

・作業に参加したいという青年たちの中には、家族の送迎を必要とする者もあり、家族の都合で参加できないケースもあった。

・青年によっては、当日の体調等により急に欠席することもあり、それが作業直前までわからないため、作業の担当等の割り当ては決めずに臨機応変に対応した。

・無農薬のため、見た目は良くないが味はとても美味しいみかんであるが、今年は裏年だったため、11～12 月に収穫するみかんの出来も悪く、収穫量は少なかった。ただ、２月に収穫期を迎えるデコポンは、積雪に何とか耐えて大量に実り、1/20，2/3 と早目の収穫作業をし、半分は残しておいたのだが、2/17 にはカラスに全て（３月に収穫予定だったせとみも含め）食べ尽くされてしまっていた。

・収穫したみかんは、福祉事業所等に寄贈する予定だったが、前記の通り、収穫量が少なくコロナ禍のためもあり、老人施設１カ所のみにスタッフが届ける結果となり、交流は出来なかった。

◆今後の課題・発展の方向性

＜課題＞・肥料等の資金確保　・カラス対策

＜発展の方向性＞・福祉施設等に収穫したみかんを寄付する等による社会との繋がりの拡大、青年たちの自己有用性実感の機会作りを進めて行く。

◆活動を終えての感想・意見等

・助成金を受けられたことで、作業道具を揃えることができ、作業が効率よく捗った。

・青年たちにも社会との繋がりの第一歩として、みかん山を活用できたことは、とても意義深いものとなった。

・スタッフとして定年退職後のボランティア活動として関わった方からは、「初めはひきこもりの青年たちに、人生の先輩として自立に向けた助言等もできたらと考えていたが、青年たちと一緒に作業する中で、彼らに助けられることも多く、共に協力して活動する楽しさを感じることができた。」との感想もあった。

| 活 動 名 | No.25 | 団 体 名 | ひかりエコメイト |
|---|---|---|---|
| **島田川流域と海を結ぶ SDGs アクション** | | 活動拠点 | 光市 |
| | | 代 表 者 | 藪 博昭 |
| | | 支援金額 | 20 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成時期　2003 年 4 月

構成メンバー　11 名　（ 60 代　3 名　70 代以上　8 名、 女性　4 名　男性　7 名）

結成の目的　2001 年度 光市主催 「エコリーダ養成講座」受講修了者のうち 環境関連ボランティア活動に興味と関心を持つ有志が集まり結成。その後 退会者や会の活動に賛同する市民が加わり 現在に至る。

活動方針　自然環境の保護、再生及び環境関連の事業を行い、その活動の場を通じて地域社会への貢献と子供の健全育成を図ることを目的とする。
島田川流域の森・川・里・海を結び流域づくりの推進事業を行う

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

１：海・川のプラスチックごみ削減環境学習会の開催

１）７月７日・14 日　光市立浅江小学校４年　130 名　（学校だより掲載）
体育館　海の SDGｓ講話　（海洋プラごみ削減の講話と紙芝居）
虹ケ浜海岸　（マイクロプラスチック採取と調べ体験学習）

２）７月 19 日　光市立光井小学校６年　55 名　（学校だより掲載）
体育館　（海洋プラごみ削減の講話と紙芝居）
校庭　（室積海岸の砂を運びマイクロプラスチック採取と分析）

３）９月 21 日　岩国市立そお小学校４・５年生　15 名（学校だより掲載）
10 月４日　岩国市立高森小学校４年　53 名（学校だより掲載）
守ろうよ　豊かな海といきものを　～島田川と瀬戸内海はつながっている～
体育館　（紙芝居・講話）
校庭　（虹ケ浜海岸の砂を持参しマイクロプラスチック採取と調べ体験学習）

４）９月 30 日　光市立浅江中学校１年　25 名（部活）　生徒＋保護者（文化祭）
教室（「海の SDGｓin あさなえ」講話と　海岸漂着プラスチックごみの分析と削減活動討議）　漂着物実物と写真の展示
10 月 29 日　文化祭　（プラごみ削減について　体育館で寸劇・壁新聞）

５）11 月８日（火）　光市立室積小学校４年生　50 名　（学校だより掲載）
体育館　海の SDGｓ体育館での紙芝居と講話　と　実物と写真展示
室積海岸　マクロプラスチック採取と調べ体験学習
新聞掲載・TV 放映・スポット CM 登場

２：海・川で自然と触れ合う　（観察・清掃）

１）　６月 13 日　光市立浅江小学校３年　110 名　コミュニティスクール支援
虹ケ浜・黒磯海岸探検（生き物観察）

２）　６月 30 日　光市立浅江小学校２年　120 名　コミュニティスクール支援
島田川河口　「島田川探検」　（生き物観察）

３）10 月 23 日（日）　「島田川の河口の自然を楽しもう」　市民親子 40 組
島田川河口　清掃活動と干潟の生き物に触れる

３：３月実施予定　①クズの撤去作業　３月 11 日　虹ケ浜海岸　60 名参加予定
②講演会　３月 22 日　光市地域づくり支援センター50 名参加予定

**環 境 学 習**

TV　スポット CM で放映

**自 然 と 触 れ 合 う**

◆実施に伴う効果

1. 地域の老人会、コミュニティ協議会、自治会などと連携して　子どもたちの育成に貢献できたと思っています。
2. 子供たちの感想文や学習体験を家庭で話し合う機会ができ、プラごみ削減に寄与したと思います。
3. 学校では　学習内容を「学校だより」などにして　発行していますので　全校で関心を持っていただきました。
4. 中学校では　学習したことを　文化祭で寸劇にして　全校生徒と保護者に観覧してもらった。
5. イベントは　地域情報紙やTV放映されましたので　地域への啓発に役立ったと思います。

◆苦労した点

1. 島田川上流のイベント「丸太村里山文化祭」は　コロナ感染拡大のため中止となりました。
   島田川の「ヨシ（葦）」を用いて入場門に「地域の神楽面」アートオブジェを制作して飾る予定でしたが残念だった。指導をお願いし、参考資料を提供していただきました神楽保存会とオブジェ制作を引き受けていただく大学生には申し訳ありませんでした。
2. 環境学習会は学校間のスケジュール調整に苦労しました。
3. 海中のプラごみの様子を知りたいとの希望があり　急遽　海底に漂着したプラごみの資料を準備しました。

◆今後の課題・発展の方向性

1. 海岸の管理と２級河川の管理は県ですが、ゴミを回収する市との連携を深めなければなりません。
2. 瀬戸内海で発生するごみの７０％は　陸や川からの流入との研究報告がありますので、上流地域との交流を深化したい。（上流地域の小学校での環境学習会を追加します。）
3. 地元と連携した活動とメディアへのアプローチを継続します。
4. 「学校だより」の掲載は効果があると期待をしています。
5. 来年度は　生物多様国家戦略（３０ｂｙ３０）に沿って海浜植物の多様性を保守したい。

◆活動を終えての感想・意見等

1. マツダ財団様の助成のお陰で多数校に啓発や体験学習ができました。ありがとうございました。
   来年度もよろしくお願い申し上げます。

| 活 動 名 | No.26 | 団 体 名 | 特定非営利活動法人<br>もりのこえん |
|---|---|---|---|
| **森の豊かさを知る**<br>～身近な森の木で学習机を作ろう～ | | 活動拠点 | 山口市 |
| | | 代 表 者 | 井出崎　小百合 |
| | | 支援金額 | 25 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

【団体設立】　（西暦）　2014　年　11　月

【法人化】　（西暦）　2017　年　10　月

【目的】子どもとその育ちに関わる全ての人に対して、自然体験活動を主とした子育て支援に関する事業を行い、子育てを支え合い、誰もが尊重され生きる喜びを感じられる社会を目指すことを目的とする。

【理念】（１）子どもたちが自然の中で人間本来の力を発揮できるように導きます。

・どれだけたくさん与えるかではなく、本当に必要なことだけを子どもに与えます。

・子どもたちへの手助けを最小限にし、大人が見守る中でのびのびと遊ぶ空間を作ります。

・子どもたちの模倣の対象であることを意識して生活します。

（２）日本の四季を感じながら知恵や工夫を生かした丁寧な暮らしを実践します。

・足りないものを買うのではなく、手間を惜しまず、自らの手で生み出す暮らしを楽しみます。

・溢れる情報やめまぐるしく発売される商品に振り回されず、日本古来からあるものを大切にします。

・年長者から生活の知恵や工夫、子どもとの関わり方を学びます。

（３）誰もが尊重され、生きる喜びを感じられる将来になるよう、全力で挑みます。

・ここで働く人たちが幸せであるように努力します。

・自分の気持ちを素直に伝え、人の意見を否定せず受け入れ、他者と繋がるために努力します。

・手が足りている人と足りていない人を繋ぎ、互いに助け合えるようにします。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

目　的；身近な森の木を自分の手で形にすることで、森や山の役割、循環、価値を知る。

内　容；1 年を通して森の木が「学習机」になっていくことを体験する。

| | |
|---|---|
| 6 月 | 播種 |
| 11 月 | 木の伐採 |
| 2 月 | 植樹 |
| 2 月 | 親子で写真立てづくり（道具の使い方を学ぶ） |
| 3 月 | 製材　親子で机づくり |

実施場所；山口市上天花町 8－13（特定非営利活動法人もりのこえん　敷地内）

参加予定人数；6 名

播種

植樹

チェーンソー製材見学

机づくり WS　1 日目

◆実施に伴う効果

毎日遊んでいる山に生えている木。種を植え、木を植え、その木たちが何十年も経って、家や机になる。よく見ると、生活のあちこちに、木が使われていることを知り、森林の可能性について知る。

また、ひとつの製品を作るのに、様々な人が関わり作っていることを知る。

家族で、ひとつのものを作り上げる幸せを実感する。

物を大切にする気持ちを育む。

自然の豊かさ、貴重さに気づく。

◆苦労した点

自然相手のこと、作業をされる方の経験に基づく判断で、計画通りに進めることができなかった。自然相手のことなので、そういうことが起こる事を視野に入れて、関わるすべての人にとってベストな形になるよう、事業をすすめて行かなくてはいけない。

◆今後の課題・発展の方向性

今年度は初回なので、当団体の園児のみの参加ですが、次年度には実施回数を増やし、一般募集を行い、より多くの親子に参加していただける事業にしていき、自然環境保護、生物多様性の重要性を知る子どもたちを育てていきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

森林について学ぶことが目的なのですが、家族が力を合わせてひとつのものを作り上げる過程が、現代ではなかなか持てない時間なので、親も子も、それぞれ普段見ることがない姿を見ることができ、机という「物」と共に、忘れられない家族の宝のような時間になったのではないかと思います。

| 活 動 名 | No.27 | 団 体 名 | 一般社団法人<br>Happy Education |
|---|---|---|---|
| **体験は学びの DIY**<br>～地域資源の中で共に育み合う学び環境作り～ | | 活動拠点 | 山口市 |
| | | 代 表 者 | 村上 忍 |
| | | 支援金額 | 34 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

我が子が小学一年生で、「学校辞めたい、僕死にたい、学校に行けなくてごめんなさい。」と不登校になったことをきっかけに、2018 年 1 月に、同じように、学校が辛くて苦しんでいる子どもを持つ保護者に呼びかけ、当事者が中心となり活動を始めました。

学校が辛いだけで、子も親も居場所がなくなり、社会から孤立し罪悪感に悩まされ、生きる希望さえ失ってしまう。教育機会確保法の設立や見直し等、徐々に不登校に対する理解やサポートは広がってはきていますが、地方においてはまだまだ孤立し苦しむ子どもたちが取り残されています。

当事者が主体となり、本当に必要な支援、様々な子どもたちが安心して過ごせ、それぞれに合った環境・方法で自分らしく学び、生きる力を育んでいける環境を地域資源を活かして作っていくことを方針としています。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

**体験は学びの DIY プロジェクト**

自然環境の中、自ら体験することで、生きる力を育むきっかけを楽しみながら見つけていく。
地域の方や専門知識を持つ大人と交流することで、双方が共に学び合い育ちあう機会を作る。

**・里山春の収穫体験（参加者：18 名）**

2022 年 4 月～5 月半ばに、拠点地域の山や河川敷にて、タケノコ掘り・山菜摘みを地域の方に指導して頂きながら実施した。

**・「ニョロ先生に聞いてみよう！爬虫類・両生類の魅力と不思議」講演会及び自然観察調査会(参加者：40 名)**

2022 年 6 月 19 日　徳地青少年自然の家にて、ニョロ先生こと、橋元浩一先生に爬虫類・両性類についての講話会をして頂き、野外活動の機会が増える時期前に、毒蛇等危険生物についても教えて頂いた。また、先生の飼育されている様々な蛇と触れ合う機会を頂いた。その後、佐波川河川敷に移動し、地域の方々が見守る中で、水量減少で本流から三日月湖に残されていた生き物のレスキューを行った。

**・マリン体験学習会（参加者：16 名）**

長門市西長門リゾートホテルプライベートビーチにて、海耕舎(株)のマリンセーバーさんにご指導いただきながら、マリンスポーツ体験を実施。また、砂浜のゴミ拾い、マイクロプラスチック回収を実施し、環境保全・SDG s について体験学習を行った。

**・里山秋の収穫体験（参加者：10 名）**

拠点地域の空き家の栗の木、管理者さんのご協力で栗拾いを実施し、地域の方に栗の選別方法を教えて頂き、実施した。

地域の方とタケノコ掘り体験

一級河川佐波川にて自然観察調査会

ライフセーバーの指導で SUP 体験

栗拾いの後に虫食い探し

**◆実施に伴う効果**

**子ども** ： 日頃引きこもりがちな子どもたちが、野外で体験活動を行うことで、自発的な交流や探求的な学びのきっかけ作りになった。笑顔が見られた。

**保護者：** 子どもたちの笑顔が見れたこと、自発的に行動する姿が見れたことを、とても喜ばれた。また、当事者同士で交流できたことで、孤立が解消され保護者の安心につながった。

**全体：** 自然環境の中での体験学習は、不登校の子どもたちに限らず、現代の子ども達にとって初めての経験が多く、子どもたちの発見や、気付きを促すことができ、自信につなげることが出来た。また、関わってくださった大人に対しても、不登校の子ども達について、正しく知ってもらう機会になった。

**◆苦労した点**

新型コロナウィルス感染症の感染拡大の影響で、イベント実施の判断や、ボランティア募集や参加者募集のタイミングが難しかった。また、申し込み後のキャンセルも相次いだ。

事前打ち合わせにおいては、オンラインでのミーティングを主に行ったが、地域の方々は、高齢もありオンラインでの対応が難しく、個別で対応した為、時間と手間がかかった。

自然環境あっての事業だったので、気候や天候に左右されるため、当日のパターンを複数用意して対応した。

子どもたちの様々な特性に考慮し、参加者が困り感なく楽しめる工夫。（見通しをはっきりと視覚と聴覚両方で伝える・急な予定変更を抑える等）

**◆今後の課題・発展の方向性**

増え続けている不登校の子ども達のニーズ(困り感)を的確に捉え、地域や学校、医療、福祉と包括的にサポートしていける環境作りの必要性を感じた。文科省からの通達にあるように、学校復帰のみに留まらず、地域全体で子どもたちの学びをサポートしていける環境作りを引き続き行って行く。

今年度の活動で、繋がりの大切さを改めて実感した。今後は、その繋がりを、進学や将来の見通しに繋がるような方向にも広げ、子どもたちの可能性や選択肢を増やして行く。

◆活動を終えての感想・意見等

子ども達がキラキラした目や笑顔が一番の成果だと感じた。保護者からは、久しぶりに子どもがやってみたいといいました、久しぶりに子どもの笑顔を見ました、自分が楽しめました等、嬉しい感想を頂くことができた。

不登校や学校が辛い子どもたちは、大人数が苦手な子が多いため、集団での活動実施は、難しいかと不安もあったが、丁寧な声掛けや個別の配慮、その場の雰囲気で全く問題なく実施することができ、環境の大切さを実感した。

# NO.28 しゅうなん鹿野こどもマルシェ

団体名　未来をつくる鹿野人KANOA
活動拠点　山口県周南市
代表者　大田昌代
支援金　１５万円

## ①団体紹介

2022年4月　大田、藤井、宮本の子育て世代3人で活動開始
鹿野に生まれてよかった！鹿野で子育てをしたい！
と思ってもらえるような魅力的な地域づくり、人づくりを目指しています
こども達が鹿野の自然をはじめとする地域の魅力を感じ
のびのび生き生きと成長していけるように
自発的に行動でき問題解決できる将来の鹿野のリーダー育成を目標に
様々な活動のお手伝いや地域とこども達をつなぐ役割を担っていければと
楽しみながら活動しています

## ②活動概要

お店の準備、販売、接客まで全てこどもたちが行うイベントです
こどもマルシェを通して働くことやお金についてを考えたり
モノづくりの面白さ、人と人とのつながりを大切に感じたり
普段できない経験がこども達の成長につながればと考えています

第1回こどもマルシェ　R4.8.7　　せせらぎパークにて　　参加者　6組　高校生ボランティア15名
第2回こどもマルシェ　R4.12.11　コアプラザかのにて　　参加者　1組　高校生ボランティア2名

高校生もワークショップのお店でこども達と触れ合いました

自分で考えたことをカタチにしてます
子どもの可能性は無限大ですね！！

## ③実施に伴う効果　～アンケートより～

小学生
・お客さんが買ってくれて嬉しかった
・お店の人の心がよく分かった
高校生
・物を売るという貴重な経験ができてよかった

働くということを感じてくれたようです✨

小学生
・楽しかった
・人間関係をよく築けた
高校生
・普段小さな子供と触れ合うことがないのでたくさん話せて楽しかった

人と人の繋がりを心地よく感じてくれたようです

小学生
・自分が作った作品が売れるところがうまくいったと思った

モノづくりの面白さを感じてくれたようです✨

高校生
・鹿野は自然が豊かで素敵なところだなと思いました

鹿野の自然の魅力を感じてくれたようです☺

記念撮影

手作りの看板でお客さんをお出迎え

地域の方と繋がることができた２回目のこどもマルシェ

地元の高校生も手伝ってくれてとても頼もしく嬉しかったです

どんな商品をどう配置するかきっとたくさん考えてくれたことでしょう

反省会の様子

全部自分たちで作ったそうです
手先が器用＆根気がありますね

## 保護者の声

・家では普段私を頼っているのに私が居なくても一緒にお店をやっているお友達や高校生と力を合わせて運営していて成長しているんだなと感じた
・初めは戸惑っている様子だったけど準備などを通して高校生とすぐに仲良くなっていた
・お客さんとも話せておりお釣りも渡せてすごいと思いました
・こどもが頑張っている姿を見れて嬉しかった
・子どもにいろいろな経験をしてほしい
・良い思い出になった

カブト虫を自分で捕まえてきている子も！！

## メンバーのコメント

・こども達に任せてここまでできるんだという思った以上の効果に驚きました
・保護者もそれに気づいている方もいらっしゃった事がこどもの今後の成長に大きく関わってくると思い嬉しかったです
・鹿野までボランティアに来てくれる高校生がありがたかったです

## ④今後の課題

・収支決算の計算をきちんとやるべきだった
一見収入は多く見えても支出を引いたら純利益はあまりないことを経験してもらえたらよかった
・年齢枠を取っ払ってもよい　こどもだけでやる人、高校生と一緒にやる人自分で選んでもらったらより参加しやすいかもしれない
・お客さんも店員さん体験できるコーナーを作る

## ⑤発展の方向性

・もっとたくさんのこどもに参加してもらい本物のお金を扱う経験をしたり人と人がつながる喜びを感じてほしいです
・こどもや保護者が参加しやすいように年齢枠など調整していきたいです
・地域スタッフとこども達がもっと関われるように工夫して大人も子どもも同じ地域の一員として日頃から関りが持てる関係になれるようにしたいです
・こども達の意見を取り入れられるところは取り入れ、一緒にこどもマルシェを作りたいです
・こども達が大きくなった時に地域側に回ってくれて、次の世代に積極的に関われる大人になってほしいです
・鹿野地域外のこども達も受け入れ、鹿野のこども達に良い刺激を受けてほしいです

## ⑥活動を終えての感想・意見など

・最初は何から始めていいかわからず、とりあえずやれることをやった１年でした
・スピード感をもって様々な行事に取り組みました
・段々問題点が見えてきたり準備不足も都度感じました
・しかし周囲の方々の助けもあり、イベントは一つずつ無事に終えることができました
・来年度は前回の反省を活かしつつ、ただスピード感は落とさないように一つずつのイベントにスケジュール・TODOリストを設け、問題点を書き出すなど誰もが見て行動できる仕組みを作っていきたいと思います
・続けていくことでさらにこども達の可能性や成長を引き出すことができ楽しかった経験や地域との繋がりが郷土愛につながると考えます
・地域スタッフの助けを借りながら頑張って続けていきこども達の成長を後押しする形で地域の問題解決に取り組み続けたいです

１年間ありがとうございました

| 活 動 名 | No.29 | 団 体 名 | 勝間コミュニティ推進協議会 |
|---|---|---|---|
| **かつまよいち** | | 活動拠点 | 周南市 |
| | | 代 表 者 | 有田　司 |
| | | 支援金額 | 32 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

目的；勝間地区の連携を深める

活動方針；勝間地区の住民の自主性と創造性をもって、地域の連携を深め協力と協調を図り、一人ひとりが豊かで、安全安心にして暮らせ、住んで良かったと思える地域社会を創り出すことを目的とし、従来から引き継がれて実施してきた諸行事を更に創意と工夫を加え活動する。

その中でも今年度「かつまよいち」をきっかけに PTA 世代 10 名が中心となり、かつまっ子育成部を発足。かつまよいちだけでなく勝間小学校夏休み作品展やふれあい祭りでの表彰式などを企画運営、小学校、中学校、高校とも連携し「ふるさと大好きかつまっ子」をスローガンに活動をしている。

活動の概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

●令和４年７月 22 日　かつまよいちを勝間市民センターにて 16 時～18 時まで開催
- ・午前中は有志による朝市を開きよいちのアピール
- ・中学生は会場全体を使用したスタンプラリー、高校生はフロアカールなど３種のゲーム体験を生徒が企画運営
- ・小学生はマリーゴールドの苗を育て来場者へプレゼント
- ・勝間地区社会福祉協議会の協力によるヨーヨー釣り
- ・缶バッジ製作体験、浴衣着付け体験、空き缶回収、ジュース販売、スーパーボールすくい、朝市の品販売
- ・参加人数　のべ３００名　うち地域・小中高生ボランティア８０名

●令和４年 12 月 23 日　かつまのクリスマスを勝間市民センターにて 15 時～17 時まで開催
- ・かつまの学校紹介をテーマとし小中高それぞれがイベントを企画運営
- ・オープニングにて熊毛北高校生徒が熊毛中学校芸術部製作の作品前で歌唱し中高コラボが実現
- ・しめ縄つくり体験にて地域の方、小中高生の交流
- ・暴風雪警報が発令されていたため当日は受付時間を 30 分早め終了も２０分程度早めた
- ・参加人数　のべ２００名　うち地域・小中高生ボランティア 55 名

浴衣の着付け体験には３０人以上の応募があり、地域のかたにご協力をお願いしステキに着付けていただきました！

◆実施に伴う効果

夏のよいち終了後、地域の方から「お祭りができてよかったね」「楽しかった」などの反応あり。

浴衣を着て参加しよう！の効果が大きく、腰ひもや浴衣の寄付などをいただく。

PTAの方々がこのイベント後の勝間小作品展、ふれあい祭り、クリスマスにも積極的に活動に参加。

小学生より「私たちもボランティア参加したい！」との声が上がり、ふれあい祭りやクリスマスにて活動開始、小学校よりボランティア参加することにより「未来のリーダー育成」をしていきたいと言われる。

夏のよいちでは、主催側のおぜん立て部分が大きかったが、クリスマスのイベント時には小中高生それぞれが、運営を行うことができていた。

◆苦労した点

コロナ禍により、イベントの開催可否や食べ物の提供について考えることが多かった。

クリスマスは大雪警報が出ていたので、こちらも開催可否や行き帰りの安全について悩んだ。

◆今後の課題・発展の方向性

夏は「出会い」と「楽しむ」冬は「学ぶ」ことをテーマに、夏は祭り形態で開催しその収益を資金として冬に使えるように計画を立てゆくゆくはイベントの内容全体を小中高生の実行委員をたてて考えていく仕組みつくりをしたい。

新しいことだけでなく、勝間地区の伝統についても学び継承していきたい。

大人になった時、地域活動へ積極的に参加できるような子どもを育んでいきたい。

PTA 世代がまだまだ地域活動に消極的なので子どもたちの活動を通じて交流を深めたい。

◆活動を終えての感想・意見等

大きな資金をいただきおっかなびっくり活動を始めましたが、２つのイベントをやり遂げることができ感謝いたします。

熊毛中学校の美術室や三丘地区でも以前マツダ財団様の支援をいただいていたことが分かり、交流も始まりました。来年度には小学校１５０周年事業も予定されているので今回の活動のノウハウを生かしていきたいと思います。

ありがとうございました。

| 活 動 名 | No.30 | 団 体 名 | 古文書を読む会 |
|---|---|---|---|
| **ほうふのれきしを学ぼう！知ろう！なぜ？なに？** | | 活動拠点 | 防府市 |
| | | 代 表 者 | 西郷　正則 |
| ～ミュージアム for キッズ～ | | 支援金額 | 10 万円 |

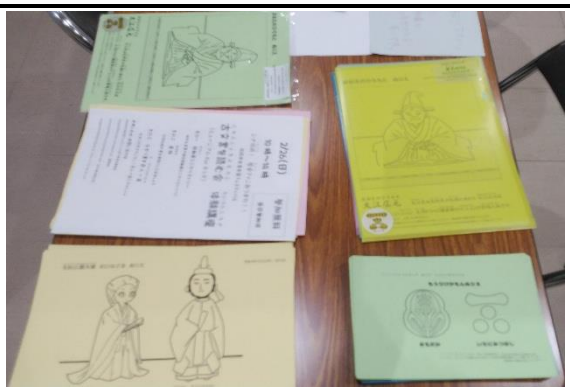
団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

古文書を読む会は、防府図書館研修室で、毛利博物館所蔵の古文書の解読とその時代背景を学ぶ生涯学習講座として活動している団体です。当会の講座はは昭和 58 年(1983 年)に開講しました。平成 15 年 1 月 11 日からは毛利博物館学芸員（現館長）の柴原直樹先生が講師です。毎月第 2 土曜日に月 1 回の古文書講座を行っています。会員は毛利博物館所蔵文書をテキストに、古文書を解読、学習し、毛利氏の活躍した中世（室町・戦国・織豊期）から近世（江戸時代～幕末期）を当時の軍事・政治・経済背景を知り、毛利家当主とその家臣・領民らの置かれた立場を通じて歴史を学んでいます。令和 2 年から当会のボランティア活動は、「ミュージアム for キッズ」をテーマに活動を始めました。令和 3 年度、4 年度はマツダ財団市民活動支援金のサポートをいただき、コロナの状況下においても活動を前進させることが出来ました。少子高齢化の時代、人口減少傾向にある地方都市の活性化のために、地域社会の歴史を学び、次の世代に地域の歴史を正確に伝えていくためにこの活動を行う意義があると考えます。「ミュージアム for キッズ」の目指すものは、楽しく面白く身近にある地域の歴史を、次世代を担うこどもたちに伝えていくことです。歴史を堅苦しくなく、遠い昔の話ではなく、その人物や事柄について、親しみやすく生き生きと感じ取ることのできるように、その手がかりに塗り絵を作成し配布しました。また和をテーマにしたミニ掛軸ふうタペストリーを作る工作教室を開催しました。塗り絵から発展させ、山口県防府市にゆかりのある、菅原道真、清少納言、毛利氏の先祖、大江氏にゆかりのある在原業平や大江千里の百人一首の和歌のなぞり書きを新たに作製しました。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

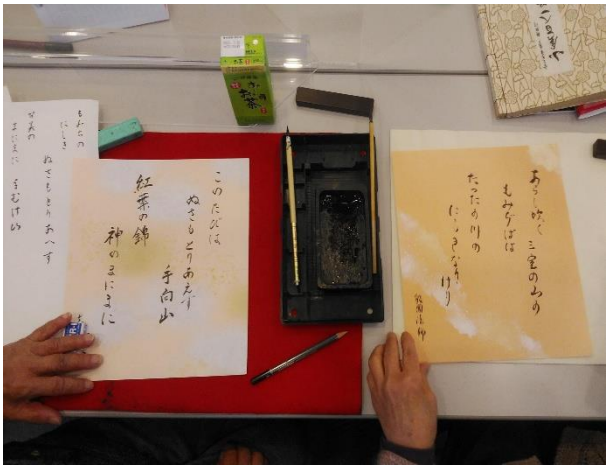
令和 4 年 3 月 1 日ひなまつり塗り絵のセットを毛利博物館第 2 展示室に 30 セット、ルルサス防府 2 階市民活動支援センター10 セット、防府図書館に 10 セット配架を依頼した。4 月 14 日木曜日 13 時から 15 時 30 分オンライン(Microsoft Teams 使用)にて 2022 年度マツダ財団市民活動支援贈呈式参加。会員 1 名、大学生ボランティア 1 名参加。5 月 1 日の大江広元の塗り絵、毛利元就の兜の塗り絵セットを毛利博物館第 2 展示室に 30 セット、ルルサス防府 2 階市民活動支援センターに 10 セット、防府図書館に 10 セット配架を依頼、会員 1 名、大学生ボランティア 1 名、高校生ボランティア 1 名参加。7 月 24 日(日)夏休み楽しく体験学びがいっぱいにてミニ掛軸ふうタペストリー工作教室を予定していたが、コロナ感染状況などを考慮し開催中止した。8 月 11 日(木・祝)2022 年度マツダ財団市民活動支援交流会オンライン(Microsoft Teams 使用)にて、会員 1 名、大学生ボランティア 1 名参加。11 月 23 日(水・祝)毛利博物館所蔵の高野切古今和歌集巻八離別巻頭の和歌なぞり書き、雪舟の絵クイズなんにんいるかな(絵の中に何人人物がいるか数えるクイズ)を試作、(配布はしなかった)。塗り絵セット毛利博物館第 2 展示室に 30 セット、ルルサス防府 2 階市民活動支援センターに 10 セット、防府図書館に 10 セット配架を依頼、会員 1 名、大学生ボランティア 1 名で行った。令和 5 年 2 月 18 日(土)まなぼうや防府市生涯学習フェスティバル(2/26 開催)準備、チラシ配布、子供用家紋柄マスク、家紋柄ベビースタイ希望者に配布しチラシを添え、活動 PR と参加呼びかけを会員 1 名、大学生ボランティア 1 名で行った。ひなまつり塗り絵を防府図書館、地域交流センターアスピラートにも各 10 セット配架を依頼した。2 月 23 日(木・祝)マツダ財団 2022 年度「青少年健全育成関係　研究＆市民活動　終了時交流会」に会員 1 名、大学生ボランティア 1 名参加。2 月 26 日(日)10 時から 14 時、ルルサス防府 2 階市民活動支援センターロビー前にて古文書を読む会「ミュージアム for キッズ」体験講座　その壱ミニ掛軸ふうタペストリーをつくろう　その弐巻物を作ろう　その三なぞり書きでカンタン！百人一首を実施。体験講座参加者 14 名、会員 3 名、大学生ボランティア 1 名参加。

ルルサス防府 2 階市民活動支援センター前の子育てコーナーにも塗り絵とイベントチラシを置きました



今までに作った塗り絵、イベントチラシです

掛け軸風ミニタペストリーは和紙のはがきに絵を描きます



菅原道真の和歌、参加者様の力作です

◆実行に伴う効果

家紋柄マスクの作製と配布は、マスク着用への協力、周知などに一定の効果があったのではないかと考える。塗り絵をこども向けだけでなく幅広い世代の方に手にしていただけるように、塗り絵に加えて「なぞり書き」を作成した。

◆苦労した点

チラシの配布だけでは、知名度のない団体にとっては、活動を周知するには限界があった。ワークショップや工作教室の企画などでは、コロナの感染状況を見ながら、どこか及び腰で積極的になれなかったというところもある。今後は若い子育て世代の方々に興味や関心を持っていただくために SNS を活用して発信し、お子さまの参加者を増やしていきたい。

◆今後の課題・発展の方向性

コロナ対策としては、今後の感染症などの落ち着きを見極めながら,段階的に対応していきたい。今しばらくは任意でマスク、パーティションなどを活用し手指消毒も続ける。会員や参加者からコロナ感染が出ないよう、基本的対策を続ける。配布する塗り絵、マスクは清潔に留意し、透明フィルム袋やクリアファイルに入れ個包装する。

活動としては、まず塗り絵配布を継続したい。毛利博物館第２展示室、防府図書館、ルルサス防府２階子育て支援施設遊び場前、地域交流センターアスピラート１階に、定期的に個包装した塗り絵のセットを置かせていただき、要望があれば、他の市の関連施設の英雲荘、三田尻塩田記念産業公園、文化財郷土資料館にも配布したい。このまま感染状況が収まり、マスクが全く不要になり、コロナ以前の状況に戻っていくことが望ましい。今後は家紋柄のベビースタイを不定期で作成し、イベントなどで、ワークショップ参加のご家族の希望者に配布するなど、活用していきたい。バザー販売、希望者の配布なども可能な範囲で行う。工作教室やワークショップでは、防府市市民活動支援センターの協力や助言を仰ぎ、参加費を押さえ、なるべく無料で開催し、難しいのではないか、と敬遠されないように、分かりやすく周知し、歴史や和をテーマにした工作やワークショップへの参加者を増やしたい。今までメールアドレスのみであったが、ミュージアム for キッズとしてツイッターなどの SNS の導入も検討している。他団体との連携については、広島平和記念公園に供えられた折り鶴を再利用した再生紙を、塗り絵の印刷用紙として活用したいと考える。ボランティア受け入れについては、コロナ感染状況が収束した状況になれば検討したいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

防府市民にとってマツダ株式会社様はとても身近な企業です。工場見学や自動車船への船積み見学会など市民が参加できる行事をこれまでも様々に開催されました。令和３、４年度と古文書を読む会「ミュージアム for キッズ」の活動にご支援をいただけたことは活動の大きな励みになり、歩みを進めることが出来ました。支援金でパーティション、二酸化炭素濃度センサーを購入し、感染防止対策に活用し、感染やクラスターなどを起こすこと無く活動を継続できました。心よりお礼申し上げます。コロナは収束に向かう状況下にありますが、ウクライナでの戦争が世界経済に暗い影を落とし、こどもたちの困難な状況が続きます。経済状況により習い事などの学外での学びの機会が少なくなっている小中生の格差の問題も報じられ、こどもたちの将来が案じられます。心の豊かさを持ち、自分の身近な環境から、良質な学びをすすめ、未来に繋がる学究的な興味を持つことの一助となる活動を、ミュージアム for キッズはこれからも試行錯誤の上、続けたいと考えております。

| 活 動 名 | No.31 | 団 体 名 | めがねピクニック |
|---|---|---|---|
| **坂町　探検！発見！やってみよう！** | | 活動拠点 | 安芸郡坂町 |
| | | 代 表 者 | 花房　育美 |
| | | 支援金額 | 33.5 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

■結成時期：2016 年

■構成メンバー：坂町の自然を楽しみたい人が集まっている。自然遊びの達人ではなく、これから自然遊びを始めたいという人も多い。通年活動する「お米つくり隊（11 家族）」、「やってみ隊（小学生 19 人）」がいる。田んぼの指導をしたり、運営や子ども達の見守りをしてくれる地域の方もいる。

■結成の目的：坂町は、広島市の中心部から車でも JR でも約 20 分の立地にあり、さらに海、山、川、田んぼがある便利で自然の残る場所だ。しかし、普段から坂町の自然を楽しむことができない人も多く、「自然遊びのきっかけや遊び方を知りたい」という親子からの声を受け、本団体を立ち上げた。

■活動方針：①ピクニックのように気軽な気持ちで自然遊びを体験し、遊びのきっかけや方法を知ってもらう。　②多年齢、地域の人と一緒に活動する。　③坂町をもっと好きになるきっかけづくりをする。④自分で考え、行動できるようにする。　⑤みんなで子どもたちを見守る。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

①やってみ隊

【実施日】毎月第 3 日曜 13:00-15:00　【活動場所】坂町の古民家、広島文化学園大学広島坂キャンパス、町内企業の裏山、公民館など。　【内容】坂町の小学生を対象に、子ども達それぞれの「やってみたい」ことを、形にする活動。町内を探検して、やってみたい事のヒントを探し、アイディアを出し合って、実現させた。友達と一緒に活動をすることもあるが、一人で、とことんチャレンジすることもあった。子ども達のアイディアは、縄跳び大会、ラジコン大会、ツリーハウス作り、逃走中、お菓子作り、段ボールの鎧づくり、カードゲーム大会、クッションづくり、おにごっこ、わらじ作りなど、多岐にわたるものだった。【参加人数】2021 年 15 人。2022 年 19 人

②自然体験イベント

春はレンゲピクニック（田んぼに咲くレンゲを楽しみながらみんなでピクニック）、夏はネーチャーゲーム、冬は小さな春を見つけるおさんぽ会（雨天中止）を実施した。草のたたき染をして植物の形や色を楽しんだり、フィールドビンゴで普段とは違う視点で自然を観察した。

③お米つくり隊（無農薬無肥料のお米作りとコンポストトイレ）

年間を通して、お米作り（白米ともち米）をしながら、自然を楽しむ活動をした。白米（ヒノヒカリ）は種まきから羽釜ご飯を食べるまで、全ての工程を 10 家族で楽しんだ。お米作りをきっかけに、しめ縄づくりや餅つきなども実施した。田んぼにトイレがないため、コンポストトイレ作りもした。電気や水道がない環境なので、コンポストトイレを採用した。小屋作りは、地元の NPO SYK 協働センターさん等の協力を得て、作ることができた。

【やってみ隊】 念願のツリーハウスが完成して、みんなで大喜び！

【お米つくり隊】1 年かけておいしいお米が収穫できました！

【田んぼにコンポストトイレ】トイレを設置する小屋を協力して作りました

【レンゲピクニック】摘んできた草花が布に染まって、ワクワク！

◆実施に伴う効果

①やってみ隊―子ども達の日々やってみたいと思っていることを、本当に形にできる喜びがあったのだと思う。自分のやってみたい事に大人の人たちが興味を持ってくれること、全力で応援してくれることが、こどもたちの充実した表情につながることがわかった。保護者やおとなのスタッフにとっても、やってみ隊の大人のルールを守ることで、子ども達の違う一面を見ることができた。

②自然体験イベントー自然と親しみたいが、どうしたらいいのかわからない親子にとって、自然と関わるヒントになる活動をすることができた。

③お米つくり隊―コンポストトイレができたことで、来年度以降の田んぼの活動が2時間以上できるようになった。

◆苦労した点

①やってみ隊の初年度は、コロナの影響で中止せざる終えず、オンラインで話し合いを試みたこともありましたが、子どもも大人もまだ慣れておらず難しかった。子ども達が、年間通して1つの「やってみたいこと」に取り組むのは難しいことが途中で分かり、2，3ヵ月でやってみたい事が実現する取り組みに変更した。その方が、スモールステップになり、子ども達もアイディアを出しやすく、実現させやすいようだった。地域の人に助けてもらいながらの活動が難しかったので、子ども達だけの小さな活動が多くなった。

②自然体験イベントは、企画内で、あれこれと体験できるようにしたくなるが、盛り込みすぎないようにしながら実施することに苦労した。

③コンポストトイレ作りは、他の活動と並行してするには、難しかった。お米つくり隊とは別で、チームを作って取り組むほうがよかったと反省するが、やってみ隊やお米つくり隊、自然体験イベントなどをボランティアスタッフでしているので、新たに別団体を作って活動するのは難しかった。

◆今後の課題・発展の方向性

①やってみ隊―子ども達がワクワクできる年間計画が試行錯誤しているので、スタッフや子ども達、保護者と話し合いながら、やってみ隊らしい年間計画を作り上げる。来年度は、ピアニストの方とのコラボレーションや、くむんだー（今年度やってみたいと提案があった）など、活動の幅がさらに広がっていく予定。

②お米つくり隊は、トイレができたことで、長時間の活動が可能になり、朝の作業の後、ゆっくりとお昼ご飯を食べて遊ぶ活動を実験的に増やしていく。キャンプなどお泊り企画も考えていきたい。

③全体としては、参加者の幅を広げ、一人でも多く、自然遊びが楽しいな、坂町で遊ぶの楽しいなと思ってもらえるよう、企画をして行く。スタッフがボランティアさん頼みなので、スタッフのやりがい等が継続しやすい取り組みについて検討していく。

◆活動を終えての感想・意見等

めがねピクニックとしてチャレンジしたいことが、形になり、充実した 2 年間でした。来年度から更にバージョンアップして、継続していける活動にしていきたいです。また、参加された方には満足していただけており、ほとんどが来年も継続して活動したいと言ってもらえました。ありがとうございました。

| 活 動 名 | No.32 | 団 体 名 | プログラミング大好き |
|---|---|---|---|
| **プログラミングの輪！** | | 活動拠点 | 広島市中区 |
| | | 代 表 者 | 丸田 稔 |
| | | 支援金額 | 41 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成日時:2019 年 7 月

結成の目的: プログラミングで自分たちがゲームを作り、完成したゲームを発表して、自分が作ったものを周囲の人に使ってもらい、使っている姿を見ること、感想を聞くことなどから、人のために働く喜びを体験する。単なるプログラミングイベントではなく、このイベント自体が職業体験となっている。子どもたちが家庭や学校以外の、いつもは会わない多様な人から学びをサポートしてもらうことで、周りから支えてもらっていることに気づく。仕事をして、仕事をする、世の中の人たちへ還元する、対価をもらうことを実体験してもらうことに重点をおく。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

実施日: 2023 年 1 月 15 日（日）10:00～16:00
場所: 〒739-1731 広島県広島市安佐北区落合 1 丁目 4 4 –44 番 7 号 河原 K-3 ビル 202 号
内容: 野々内あんざん・そろばんスクール
参加人数:大人:6 人　子供:12 人

コロナでの大人数授業が困難になった為、少し規模を縮小しての開催と致しました。
集まったのは、小中学生 14 人、将来プログラマーになりたい生徒から募集し
講師（現役プログラマー）1 名　補助スタッフ: 3 名が集まりました。
実際現場でも使っている、「**UnityHub**」を使い、実際の職場ではどのような開発が行われているのかを、生徒達に体感してもらう事によって、より、職場体験に近い授業になったと思います。
■挨拶
■授業 1 時間目　UnityHub インストール（インストールのやり方・PC の基礎知識をつけてもらう）
ソフトを起動し、PC に配置してある、使う箇所ボタンの説明、どのような構造でゲームが出来ているのか？どのようにパーツなどを配置していくのかの把握してもらう。
■授業 2 時間目　インストールしてきた素材を配置、2 時間目での説明を実際の PC を使って配置してもらう。
■授業 3-4 時間目　配置してもらった素材にプログラムを記述し実装書いたプログラムが実際に動作するのかの検証
生徒が作ったプログラムが実際動くところを発表し合い、動かない生徒などがいたら、習った事をもう一度おさらい、一つずつ意見を出し合いながら、成功に結びつける。

◆実施に伴う効果

プログラミング教室では初めての子がほとんどでしたが、まずはプログラミングへの興味を持ってもらい、実際に体験することでその面白さに触れることが出来たと感じています。 プログラムを作り発表するプロセスの中で教えあい、自分で考え抜くことを通して実際に社会人になった時、必ず必要になる能力を養うことが出来たと感じています。

◆苦労した点

プログラミングをする上での知識として、どうやって出来ているのか、構造はどうなっているのかを小中学生にどのように伝えるのが一番伝わりやすいか、考えることに対して苦労をしました。 実際の説明の時間の中で、理解して聞いていた生徒の数はごく少数だったように感じており、改めて伝えることの難しさを実感しました。

当日のスタッフの人数と小中学生の人数との間に差があったことから、生徒たちの質問に対してスタッフの対応がすぐ出来ていないタイミングがいくつかあり、満遍なく対応することに対して苦労しました。

◆今後の課題・発展の方向性

今回のプログラミング教室の実施を通して、スタッフの人数が不十分だったことで質問をしても待つという状況が生まれていました。 生徒に、わかりやすく退屈させない時間を提供できるようにするため、今後プログラミングの理解があるスタッフを増やすことが課題の一つとしてあげられます。

今後の活動の方向性として、プログラミングを通して仕事は楽しいという実感をより感じることができるものにしたいと考えています。 職業体験のようなプログラミング教室というテーマに沿うよう、一つの課題に対してチームでそれぞれ挑戦し、完成を目指す。というような方法で学びを提供できるようにしたいと考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

プログラミングが小中学生にとっても特別珍しいものではなくなった昨今、どんどん新しい技術が開発されエンジニアの需要が増えていく中で、小さい頃からプログラミングに親しみを持つことは非常に重要なことだと感じています。 今回の教室を通しても少しの説明だけで、自身から出る発想でどんどん進んで完成させている生徒が１人いました。 生徒が自分の才能に気づき、楽しみながら追求することは、将来的に大きな社会貢献につながるのではと感じ、プログラミング教室開催に対して意義を感じることが出来ました。

| 活 動 名 | No.33 | 団 体 名 | みんなの家 House For All |
|---|---|---|---|
| **小学生のための放課後インターナショナルスクール** | | 活動拠点 | 広島市東区 |
| | | 代 表 者 | 三宅 ストーナー 展子 |
| | | 支援金額 | 41 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

2019 年 7 月結成。会員・ボランティア 13 名　毎週月曜日、小学生を対象に多岐多様な体験学習を行う放課後児童クラブ。 英語が飛び交う環境の中で直接，海外の人たちと交流する機会を頻繁にもち、日本並びに外国の伝統や文化を学び、グローバル社会で生きてゆくための土台作りをする。また子どもたちが主体的に選択する遊びを通して、自らのアイデンティティを伸ばし，考える力を育みながら，知的，社会的能力や感性を養っていく。

<活動目標>

1.自己肯定感を養う　2.主体性思考力と自己表現力を養う　3.英語によるコミュニケーション能力を養う
4.多様性を受け入れる力を養う　5.生命の大切さと平和を尊ぶ力を養う

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

・毎週月曜日 15:00～18:30　・実施場所　東区中山　みんなの家（みんなの家以外の課外活動は下に表記あり）
・参加人数：下に表記のない通常行事は大人 3 人、子ども 4 人

**2021 年度活動**

1　通常の放課後体験学習 長期海外逗留経験を持つ日本人講師及び外国人講師、なお各分野に長けた講師と直接交流により、英語に親しみつつ、海外および日本の文化や伝統に触れ、体験から学ぶ。

**①　常任講師、日本人講師（主に海外逗留経験者）による体験学習**

・英会話ゲーム、おやつ作り、ジャガイモ等の野菜栽培、笛作成、自然工作遊び、絵画、ハロウィン装飾作り、餅つき、Zoom による英語レッスン（コロナで集合不可の場合）など
・**日本伝統文化継承学習**：月見・秋分の日の習慣を学ぶ Zoom 学習（9 月/13 日)。茶の湯体験（11/15）
・1 泊 2 日お泊り会(3/27,28)（炊事、遊びを子ども達が企画実行。）

**②外国人講師（海外研修生・短期広島滞在の外国人、広島在住外国人）との直接交流**

自分と異なる視点や価値観の人達との出会いを通し、自分の独自性に気付き自分らしさを創造する。
**ア）西洋の文化継承活動：イースター**(4/5)、**ハロウィン仮装し近隣を回る**(11/1)、**感謝祭**(11/22)、**クリスマス**(12/20)**の由来やお祝いの仕方を学習、体験。**
**イ）アメリカの文化と生活紹介**。伝統や特徴、遊びを体験。アメリカ人講師によるハロウィン・ランタン作り（11/1）
**ウ）紙人形スタンレープロジェクト**：自分の代わりに紙人形が旅をして友達を作る想定。フランス・タイ・アメリカ・シンガポール、ジャマイカ、オーストラリアの小学生と交換し交流した。（2021 年 10 月～2022 年 3 月）

2　特別野外学習 学校が休みの時など、機会をとらえて野外活動など様々な具体的体験を通した学習を行なう。
・ほしはら山の学校（三次市）にて**一泊キャンプ**を行った。7/31－8/1 (参加者大人 9 名、子ども 8 名)
・**広島インターナショナルスクール訪問とキャンプファイヤー体験**。11/5（参加者大人 4 人、子ども 3 人）
・佐伯区フランス人講師による家庭菜園にて**野菜の収穫体験** 12/12 (参加者大人 7 名、子ども 5 名)

**2022 年度活動**

1　通常の放課後体験学習（下線は新行事）

**①　常任講師、日本人講師（主に海外逗留経験者）による体験学習**

・英会話ゲーム、おやつ作り、野菜栽培、ハンドベル演奏、自然工作遊び、粘土工作・動画作成、絵本朗読会等
・**日本伝統文化継承学習**：月見(9/12)、秋分の日の習慣学習。団子汁作り。(9/12)、味噌玉（昔の戦陣食）作り（7/22）、書道(1/9)、発達支援 NPO 法人の会員と子ども達の訪問と交流(10/17)
・1 泊 2 日お泊り会(1/8,9)（炊事、遊びを子ども達が企画実行。）

**②外国人講師（海外研修生・短期広島滞在の外国人、広島在住外国人）との直接交流**

**ア）西洋の文化継承活動：イースター**(4/18)、**ハロウィン仮装**（10/31)、**クリスマス**(12/19)
**・感謝祭ディナー**：南山集会所にて開催。参加者 40 名。家族、友人、近所の人々、ベトナム、アメリカ、イラン、ニュージーランド人が参加。広報ともなった。（11/28）
**イ）アメリカハロウィン**（10/24)・**フランスパワーP 講座**(1/16)・**イランの文化と生活紹介**(2/20)
**ウ）紙人形スタンレープロジェクト**：（2022 年 4 月～5 月）

**③海外の子ども達とオンラインで交流**：ハワイの子供達の自然の遊びを知る。日本の書道を書いて見せる。(1/9)

2　特別野外学習・3/27 広島平和公園にて外国人に**英語でインタビュー**を予定。(大人 4 名、子ども 4 名)
・三滝少年自然の家にて**一泊キャンプ**を行った。7/31－8/1 (参加者大人 8 名、子ども 9 名)
・中区「オステリーア桂」にて**テーブルマナー練習とシェフの職場見学**。8/22 (参加者大人 4 名、子ども 7 名)
・佐伯区フランス人講師による家庭菜園にて**収穫体験、有機栽培見学** 10/23 (大人 3 名、子ども 2 名)

火熾しからのキャンプファイヤー！子供達の企画したゲームが盛況！

レストランで職業見学とテーブルマナー講習。シェフに質問する生徒

外国の友人、近所の方々、友達や家族と北米の感謝祭を行った。

ハワイとオンラインで繋ぎ、書道のストロークを披露した。

**◆実施に伴う効果**

熱心で真摯な海外の人達との体験を通して、子供たちは言語や文化が違っても、人間同士としてつながり合えることを体験している。互いが異なることは嫌なことでもなく、大切なことや新しいことを発見する、よき機会となり得る。外国が身近なものとなり、グローバル時代に生きていくことを自分なりに模索し始めているようだ。

多岐多様にわたる探求的な遊びの機会を与えることで、子供たちは興味、関心を見出し、率先して参加するようになった。自己肯定感や自信構築に繋がるようになっているように思う。

**◆苦労した点**

**1**・普段、否定や命令を子供たちにしないように心がけ、問題が起きた際、一緒に打開策を考えるよう努めている。だが一斉一律的な教育システムの中にいる子供たちは、追従か反発かの2極的反応となってしまいがちである。家庭、学校、地域と協力しながら自己意識を高め、自ら考え、多様性を持つ視点を養う教育システムが必須である。

**2.**通常の児童館や英語塾ではない「みんなの家」は、一般の人たちにとってなじみが薄い。どう紹介すれば、もっと親しみやすいイメージとして捉えられ、生徒数も増えていくのか。チラシを持っての近所を訪問し、自治会への挨拶、感謝祭ディナーへの招待もしているが、地域との関係作りに苦労している。

**◆今後の課題・発展の方向性**

**1.**子供達の全人的成長を目指す米国の学校のカリキュラムを導入。多文化教育プログラムの体験学習を計画。その支援として広島女学院大学の国際英語学科等と交渉中。高齢者施設で子供たちが奉仕活動が出来るか、公民館で放課後キッズイングリッシュクラブができるか模索中。また感謝祭ディナーに地域の方を招待し引き続き関係作りをしていく。

**2.**協賛団体である特別認定非営利団体ハワイの「House for All」からの経済的支援を確保できるか検討していく。

**3.**広報活動(ウェブサイト、新聞折り込みなど )積極的に展開しながら生徒数を増やし、賛助会員を募集する。

**◆活動を終えての感想・意見等**

日本は単一的で多様性に欠き、多文化社会に生きるための国際的感覚に乏しいように思う。設立後 4 年目となる今日、未だに試行錯誤の毎日だが、子どもたちが安心して過ごせる居場所で成長していくことを願う。多様化している世界で、そして日本でどんなリーダーシップが必要なのか、子供達に寄り添いながら一緒に探求していきたい。

| 活 動 名 | No.34 | 団 体 名 | 里山暮らしネット |
|---|---|---|---|
| **自然・学校・家庭を繋ぐ体験活動** | | 活動拠点 | 三次市 |
| | | 代 表 者 | 塚川　直美 |
| | | 支援金額 | 24 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成時期：2020 年 1 月

構成メンバー：成人男性１１人　成人女性１９人

結成の目的：里山の高齢者が持っている「暮らしの知恵・生活文化」を次世代にリレーすることを目的に結成
2019 年以降は酒河小学校や酒屋コミュニティーセンター（以降、酒屋ｺﾐｾﾝ）と連携して
体験活動を実施

活動方針：2020 年度までは、高齢者の持つ暮らしの知恵や生活文化を遊びを通じてこどもに伝えることをメインに活動してきたが、これらの文化を将来に生かしてほしいという思いから、2021 年度からは、学校・地域にも協力を頂き、知恵や文化を学ぶという方針に切り替え、活動を進めて来ました。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

主な活動内容

・2021 年 11 月 21 日（日）　山の達人に学ぶ『霧の海』自然観察（自然観察・宝探し）
参加人数　大人１１人　こども９人　活動場所　高谷山展望台
大自然に触れ、野鳥や食べられる野草など学習。道中はみんなで清掃活動実施！

・2021 年 12 月 19 日（日）　自然のものでクリスマスリース作り体験！（クリスマスリースとケーキ作り）
参加人数　大人２０人　こども３０人　活動場所　酒屋ｺﾐｾﾝ
身の回りの自然からとれる材料でクリスマスリース作り、昔ならではのパンケーキを使ったケーキ作り

・2022 年 6 月 12 日（日）　ゴミの分別できるかな？（清掃活動・分別クイズ）
参加人数　大人１１人　こども７人　活動場所　高谷山展望台
講師を招き、展望台までの道中で分別のお勉強。最後は皆で、分別にまつわるクイズ大会！

・2022 年 12 月 18 日（日）　サンタさんに英語で手紙を書いてみよう！（クリスマスリースとエアメール作り）
参加人数　大人８人　こども１３人　活動場所　酒屋ｺﾐｾﾝ
こどもたちの持つ英語の知識を使って、カナダポストのサンタさんに英語でエアメールを作成！
クリスマスリース作りも前年よりパワーアップし、高学年は材料の作成からチャレンジ！

・2022 年 12 月 29 日(木)　お餅ってお米からできるの？（餅つき体験）
参加人数　大人１０人　こども７人
今や忘れ去られた杵と臼。昔ならではの製法でこどもたちも餅つき体験

リースってこうやって作るんだ！

「よいしょー！」の掛け声は、神様とお話するためなんだって！

どんなゴミが再利用できるのかなぁ？

僕たちもお手伝い頑張ったよー！（2歳と1歳）

◆実施に伴う効果

・2021年度から方針転換を行い、3つの効果が出ました。

1.未来に繋がる活動ができたこと

以前の遊びだけでは、参加した人しか楽しさや苦労を体験できなかったが、学びという要素を活動に加えることで学びで得た知識を活動外でもこどもたちが自発的に学校・家庭に発信するようになった。

2.過疎化が進む田舎では、途切れかけている地域のつながりを取り戻せたこと

コロナ禍で一時は途切れかけた地域活動を学びという形で取り戻すことができた。

3.スタッフも増えて我々自身も新しいつながりが生まれたこと

学校関係者様や地域の皆様とのつながりが生まれ、我々自身にも大きな学びが生まれた

◆苦労した点

・コロナ禍で情報発信が制限されたこと

コロナによる行動制限のため、活動を企画しても参加者を募集する術は制限されたが、酒河小学校様や他団体様の感染対策に留意した活動のアドバイスや参加者募集の手伝いなどコロナ禍以前よりも強いつながりが生まれた。

・前年度の活動との差別化に向けた取り組み

活動が制限される中で、前年度の活動との差別化には、スタッフ一同多くの時間を要しました。そこで、内容の大筋は前年を踏襲する形で、一部を新しくするスタイルを取り、感染対策のとれた十分な活動ができました。

◆今後の課題・発展の方向性

課題１　体を大きく動かすアクティビティが制限されている

課題２　コロナ禍で連携が難しい高齢者とどのように文化を継承していくか

発展の方向性

・広大な自然を持つ三次地区では、近年キャンプブームもあり、多くのキャンプ場が設立された。当団体もこの流れに乗り、今後は、野外活動を取り入れた学びの体験を考えています。

◆活動を終えての感想・意見等

活動方針を変更した 2021 年度以降は、活動を行うたびにこどもたちに何かを学んでほしいという思いが強くなり、企画段階で多くの苦労がありました。しかし、我々が考えを重ねれば重ねるほどに多くの“学び・つながり・笑顔”が生まれ、充実感のある１年を送ることができました。

今後も、三次地区の他団体と協力しながら、里山の自然、歴史、民俗に触れ多くの活動を行いたいです。

最後になりましたが、１年間で計画した行事ができなかったことお詫び申し上げます。

ありがとうございました。

| 活 動 名 | No.35 | 団 体 名 | めんがめ倶楽部 |
|---|---|---|---|
| **ブッポウソウ保護ボランティアの育成** | | 活動拠点 | 三次市 |
| | | 代 表 者 | 岡田　修司 |
| | | 支援金額 | 24 万円 |

団体紹介

めんがめ倶楽部は，三次市作木町の自然環境資源を見直し地域の振興を図ることを目的に、2005（平成１７）年８月に結成した任意団体で、７名の会員で活動を行っている。主な活動は、環境省レッドデータブックで絶滅危惧ＩＢ類に選定されている夏鳥ブッポウソウの保護活動と都市住民との交流を目的とした市民農園を行っている。

特に、ブッポウソウの保護活動は 2006（平成 18）年から行っており、現在、作木町は国内有数の繁殖地となっている。

活動概要

新型コロナウィルス感染拡大により、2020 年度支援採択から計画を延期変更しての活動となった。

〇川の生き物観察会

ブッポウソウがエサとするトンボのヤゴなどを川の中で観察し，ブッポウソウの生態と営巣地の生き物調査を行った。

開催日時　2021 年７月２５日（日）　10:00～12:00
開催場所　三次市作木町伊賀和志　天神川　（ブッポウソウ観察小屋　前）
参加人数　17 名
講　師　　環境省環境カウンセラー（市民部門）　上　田　康　二　　氏
観察した生き物　コオニヤンマのヤゴなど 31 種

〇ブッポウソウ営巣用巣箱の製作

古くなった巣箱を交換するために新しく巣箱を製作するとともに作木小学校生徒による巣箱づくりを指導した。

開催日時　2023 年 2 月 4 日（土）、2 月 20 日（月）
開催場所　三次市作木町森山、 作木小学校
参加人数　16 名

〇ブッポウソウ保護活動記録誌の制作

作木町における 17 年のブッポウソウ保護活動記録誌を制作した。

川の生き物観察会

川に入って生き物を採取

採取した生き物の説明を受ける

巣箱の製作

出来上がった巣箱

小学生への巣箱の製作指導

◆実施に伴う効果

・川の中のトンボの幼虫ヤゴ等、ブッポウソウがエサとしている大型飛翔昆虫の生態学習をとおして地域の自然環境について学ぶことができた。

・三次市立作木小学校のふるさと学習として、ブッポウソウの生態を学び巣箱を製作することができ、将来の保護活動ボランティアの育成につながった。

・作木町のブッポウソウについて書いた作木小学校生徒の作文が、第74回鈴木三重吉賞の特選に選ばれ、2022（令和4）年1月18日付けの中國新聞紙上に全文掲載された。

◆苦労した点

新型コロナウィルス感染拡大により、子どもや大人を集めての講座開催を行うことに躊躇いがあり、十分な成果を得るまでには至らなかったが、感染者が減少した時期での野外での観察会などに変更した。

◆今後の課題・発展の方向性

・ブッポウソウは三次市の鳥に 2014 年追加指定されており、国内有数の繁殖地として、「ブッポウソウの里・三次市作木町」として、自然環境の整備、環境教育の充実等を図る。

・人工巣箱に頼らず自然木に営巣するような豊かな里山林・里山環境の整備を持続的に行っていく。

◆活動を終えての感想・意見等

（公財）マツダ財団の支援採択を受けながら、コロナ禍により活動延期をしていただいたことで、当団体の保護活動に対する意欲を持ち続けることができました。今後も地域の小学校や他地域と連携した保護活動を継続し、当面、保護活動 20 年を目指し、内容を更に充実させます。

| 活 動 名 | No.36 | 団 体 名 | ロボカップジュニアジャパン<br>広島ブロック運営委員会 |
|---|---|---|---|
| **モノづくりとプログラミングを軸とした、異種活動・競技間の結び付け活動** | | 活動拠点 | 広島市安佐北区 |
| | | 代 表 者 | 山野　真一 |
| | | 支援金額 | 20 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成時期：　2009 年　12 月

構成メンバー：　ブロック長、副ブロック長、技術委員 2 名、その他支援メンバー含め 15 名
この競技に携わった選手の元保護者と選手 OB により構成されます。

結成の目的：　この競技を広島に広められた方から運営を保護者が引き継ぎました。
よって、当初の目的は「選手たちの活動を継続するため」でした。
現在は活動の中で「自分で決めれる」「発言できる」「行動できる」ということを実践し身につけるきっかけの場の提供を目的としております。

活動方針：　自律型ロボットの競技活動を通じて、プログラミングやモノ造りだけでなく、コミュニケーション能力や自分で考えて決めるという自主性を育むべく活動しています。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

実施日：　2022 年 6 月 4 日~2023 年 1 月 22 日

場所：　CLiP HIROSHIMA、近畿大学附属中学校、福山大学、広島市西区民文化センターなど

内容：　当初は既に競技をしている子達に他競技を知る機会として競技会を開催する予定でした。
しかし、コロナ禍によって活動の機会が減り、競技者人口が減少して競技会開催が難しくなりました。
そこで、体験会・講習会の段階から「身につけた技術を使える競技に選択肢がある」という多様性を含ませました。

・体験会の内容：　今まで＝①赤外線を発するボールを追いかけるサッカー競技
②地面のラインに沿って進むレスキュー競技
→追加＝壁にぶつかる前に止まる（自動ブレーキ）や、ブレーキランプ点灯、さらに障害物回避

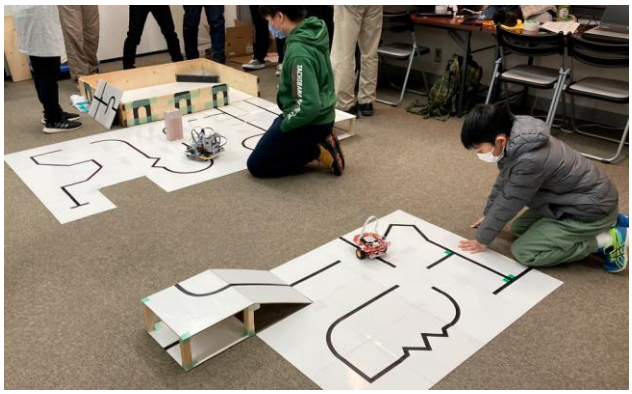
・講習会の内容：　今まで＝ロボカップの競技に絞ったコンテンツ
→追加＝ROBORAVE など、他の競技内容・ルールを紹介

参加人数：　のべ 307 人　（体験会＝278 人、講習会＝8 人、競技会（地区予選）＝21 人）
（※講習会：半導体不足でロボットが品薄となり、調達できた子が非常に少ない結果となりました）

体験会の様子（CLiP HIROSHIMA）

距離センサー使い、壁ギリギリで止まれるかの実験

講習会の様子（判らない事を整理して大人に相談できる練習）



広島ブロック大会の様子（小学 3 年生が中学生と互角に競技します）

◆実施に伴う効果

今年競技を始めた子達の成長は目覚ましいものがありました。「どうしても解らない事は大人でも構わず聞く」「どうしたいのかハッキリ説明する」という大切ですがなかなか出来ない事がキチンとできてすごい勢いで習得しました。
様子を観察すると、保護者さんが答えを教えるのではなく、一緒に考え、理解を促したり行動に繋げるよう上手にリードされている様子がうかがえました。

体験会、講習会で話している事の半分は保護者の方々に向けているのですが、これを理解・共感頂いて感動しました。また、副次効果として、設営や撤収も子供＆保護者が率先して行うようになってきました。

◆苦労した点

以下の「災難」によって内容の変更を余儀なくされました。

・コロナ禍で活動出来ない期間が続いたこと
・半導体不足によるロボットと部品の調達難（特に自動車にも使われるジャイロセンサーは調達難続きました）
・交流を予定していた団体の解散（Robo Mastersの広島での活動終了）

以下の施策によって活動をリカバリーしました。

・新たにROBORAVEを紹介いただき、ルール内容の展開と実践の機会を設けました
・体験会のコンテンツに様々な競技に応用できる内容を織り込み、選択肢を増やしました

◆今後の課題・発展の方向性

今後の課題： 活動場所の確保は常に深刻な課題です。
子どもたちの継続の意欲維持には月に 1 回は定例会としての場を確保し、家で取り組んだことを発揮する場を確保したいのですが、なかなか区民文化センターなどの場所確保は熾烈です。

発展の方向性：すでにボランティアでの限界点かと思っておりますが、学校の協力を得られそうな気配あり、
上手に協業して負担を軽減しながら継続できればと考えております。
一方で、ＯＢのスタッフ参加が増えてきており頼もしい限りです。

◆活動を終えての感想・意見等

コロナ禍によって、2 年も延期させて頂く中、変わらぬご支援頂き大変感謝しております。
財団の交流会で似た活動や同様の課題を持つ団体同士での情報交換をさせて頂き、勉強になっております。

小中学生は 10 年たてば社会人です。10 年後のエンジニア育成のために何某かの企画を考えて参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

| 活 動 名 | No.37 | 団 体 名 | 日立のぞみ会 |
|---|---|---|---|
| **地域社会と連携した子育て健全育成サポート** | | 活動拠点 | 下松市 |
| | | 代 表 者 | 永田 久則 |
| | | 支援金額 | 43 万円 |

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等を記述ください）

**1．親子プログラミング教室（ステージⅡ）：**以下「親子Ｐ教室」と記述

８月の夏休みに、計画いたしましたが、全国的なオミクロン株の流行で、下松市周辺でも２桁の感染者を記録し、親子Ｐ教室は電子機器やフォークロボット等に触る部分が多く開催場所も大きな部屋が借用できず、**前年に引き続き残念でしたが、開催を中止いたしました。支援金を有効活用し**フォークロボットの信頼性向上のための作業は下記写真のごとく、事前に実施完了いたしました。

左写真：改造作業

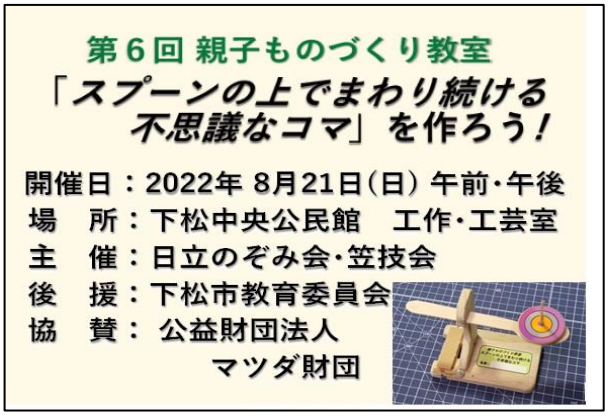
上写真：信頼性対策後のロボットⅡ

**2．第６回親子ものつくり教室**

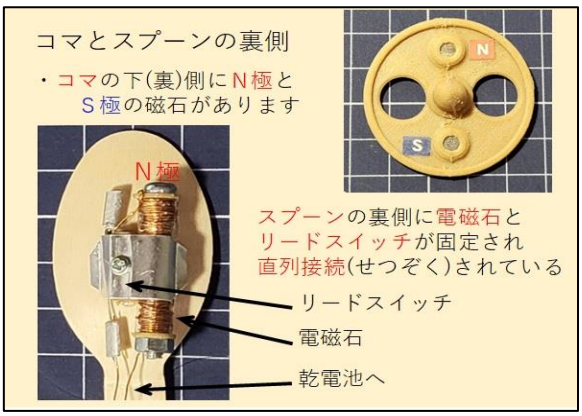
**親子Ｐ教室開催の代わりとして、夏休み期間中に、親子ものつくり教室を開催いたしました。**

① 日　時：2022/8/21 / 場　所：下松中央公民館

② 対 象：小学生４，５年生徒保護者　参加者：午前８組(１６名) 午後１４組(２８名) 合計４４名




「親子ものつくり教室」案内パンフレット




不思議なコマ部品を組立てた様子

午前中の部　作品を手に記念撮影

午後の部　教室は２か所でリモート講義も活用

◆実施に伴う効果

**１．親子P教室（ステージⅡ）は、COVID-19 の拡大で　残念ながら中止**

子供向けに開発されたプログラミング言語の「スクラッチ」で小型パソコン「ラズベリーパイ」と日立のぞみ会が独自に開発した「フォークリフト型ロボット」を用いて、「親子 P 教室」を計画しておりましたが、感染力の強いオミクロン株等感染が衰えることなく、休止いたしました。それでもこの期間を利用し、ロボットの信頼性向上を図ることができました。

**効果は間接的ですが、「次回開催時の親子 P 教室で、児童の理科好きになってもらう」ための基本ができました。**

**２．第６回　親子ものづくり教室**

上記　１．親子プログラミング教室を　断念いたしましたので、材料を購入し作成した作品を持ち帰れる「親子ものつくり教室」を夏休みに開催いたしました。
従来は、「親子ものつくり教室＋工場見学」としていましたが、コロナ禍に対応すべく
① 工場見学をやめ、密にならない程度の小人数にて実施し、
② 場所を隣接２か所に分け一方はリモートでの説明と工夫いたしました。

**効果としては、**毎年小学校４、５年生を対象にしていましたが、この２年間休止していましたので、開催を心待ちにされておられました。確認には回転数を測定する計測器を準備して、参加者全員が高速の回転ができ、大満足でした。保護者の方よりも、児童の方がしっかりして原理を理解し、工作に励んでいました。
生徒さんたちがこれを通じ「理科を好き」になってもらえるものと確信し、講師も達成感を味わえました。

◆苦労した点

① ロボットの信頼性向上

過去の教室では、ロボットの信頼性も未熟だったことで、四苦八苦しながら修理を継続し、講義を続けるといった状況で、児童が自由に触っても動作の不具合が出ないような、信頼性向上が課題でしが、頂いた資金で信頼性の実現できましたが、この過程で苦労したことは信頼性を損ねている原因が、配線の接続状況の不安定からくるもので、この点は会員のシニアー・ノーハウを生かし、コンパクトに、重量を抑え、電源を増加することで実現しました。回路を基盤化し、筐体をしっかりさせることで、いろいろな走行状態ができるようになりました。

② コロナ禍での開催可否判断で苦労致しました

感染状況を見ながら、開催の可否をみんなで相談しながら進めましたが利用できる大きな場所の確保ができず、開催したい気持ちと、感染の怖さの間で大変苦労致しました。

◆今後の課題・発展の方向性

日立のぞみ会の「親子Ｐ教室：ステージⅡ」は学校教育では揃えられない機材や設備で、ものつくり産業や情報産業等々のＩＣＴ,ＩｏＴ，ＡＩに繋がるような、障害物を避けながら走行する条件制御の「システム的思考」が体験でき、且つ、参加日数を減らした講座にする方針でしたが実現できませんでした。しかし、信頼性向上できましたので、次回の開催につなげれるものと考えています。

（１）ハード面：既存のロボットから脱却し、より高度な「システム的思考」のプログラミングによる制御を「親子Ｐ教室」の講座で実現し、我々の理念である「多くの児童に**理科好きに**」なってもらう。

（２）ソフト面：現在、自動車業界で進められている自動運転や安全運転機能を見習って、障害物を避けながら自動走行するプログラミングを目指して**「親子プログラミング教室（ステージⅡ）」**の講座では、**「プログラミング的思考」**の体験ができる内容としたい。

◆活動を終えての感想・意見

２０１９年度に初めて申請し、２０２０年度もマツダ財団市民活動支援(青少年健全育成関係)に２年度目の活動支援を申請しました。しかし２０２０年度からは、ＣＯＶＩＤ－１９の世界的蔓延で、当方の活動内容は、室内の作業となること、また講師は７５歳代と高齢であり、さらに感染力の強いオミクロン株が拡大し、残念ながらその都度休止を決定してきました、この２期間（２０１９～２０２２年度）マツダ財団様から多くの暖かいご支援をいただきましたおかげで、「親子Ｐ教室」や「親子ものつくり教室」が開催でき、保護者の方々の関心も高く、先生たちとプログラミング研修を通じ、２０２０年から始まった小学校で必修化されるプログラミング教育のスタートには、大きく貢献できたものと評価しております。日立のぞみ会の活動の、**基本コンセプトの「親子での共同作業」**と講師のシニアー・ノーハウを生かし**「生きがいを作り出す」**ことができたものと感謝申し上げます。学校では経験できない、親子でもの作りを行い、保護者が児童の興味や、環境を整える必要性に気づかれ、理科好きで、高度な勉強がしたいと思う有望な人材へと育つキッカケを作ることができたことも大きな成果と考えています。期間延長等、大変温かい支援いただきまして、改めて「マツダ財団」様ファンになりました。今後は新たなテーマで再びご支援いただける日を目指したいと考えております。

| 活 動 名 | No.38 | 団 体 名 | YAMATO くれびと |
|---|---|---|---|
| **YAMATO くれびと 令和 PROJECT**<br>～踊りの和を拡げてふるさとを元気に！～ | | 活動拠点 | 呉市 |
| | | 代 表 者 | 松林 剛史 |
| | | 支援金額 | 30 万円 |

団体紹介　（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

２０００年，阿賀中学校の体育大会で２年生がソーラン節に取り組んだことをきっかけに，翌年から全校生徒でソーラン節に取り組むようになった。その後，阿賀の伝統をテーマにした踊りづくりを進めていく中で，『青少年の地域での居場所づくり』を目的とする「とらいある」の事業指定を受けることができ，阿賀中の卒業生を中心に，阿賀だけでなく呉の青少年の活躍の場として，２００３年に「ＹＡＭＡＴＯくれびと」を結成した。その後は，阿賀中以外の中学生や高校生，そして社会人になっても参加できるソーラングループとして，老人福祉施設や地域のお祭り，イベントに参加している。

活動概要　（実施日、場所、内容、参加人数等）

毎週月曜日１９：００～２１：００阿賀中学校体育館にて定期練習

①２０２０年１０月１１日（日）　大阪府（オンライン参加）
　大阪メチャハピー祭り（オンライン開催）で動画投稿による踊り披露（２９名）
　ブロック優勝（メチャハピー賞　受賞）

②２０２１年１月１１日（月祝）　阿賀まちづくりセンター
　阿賀地区成人式で動画による踊り披露（２３名）

③２０２１年４月２９日（木祝）　呉中通商店街
　れんがストリートパフォーマンスに他チームと合同で参加して踊り披露（１７名）

④２０２１年５月４日（火祝）　呉ポートビアパーク
　呉こども祭りに他チームと合同で参加して踊り披露（１５名）

⑤２０２１年１１月３日（水祝）　呉中通商店街
　れんがストリートパフォーマンスで踊り披露（１７名）

⑥２０２２年３月１９日（土）　阿賀中学校
　東広島呉道路阿賀 IC 完成式典で踊り披露（１４名）

⑦２０２２年４月２９日（金・祝）　呉市役所
　呉みなと祭に他チームと合同で参加して踊り披露（１７名）

⑧２０２２年５月４日(水・祝)　呉ポートピアパーク
　呉こども祭りに他チームと合同で参加して踊り披露（１９名）

⑨２０２２年１０月１日（土）　片山中学校
　片山地区夏祭りで踊り披露（１９名）

④呉こども祭り
他チームと合同でソーラン節を披露しました。

⑤れんがストリートパフォーマンス
中学三年生は一度引退です。力強い踊りを披露してくれました。

⑦呉みなと祭
中学一年生の新メンバーがたくさん増えました。

⑨片山地区夏祭り
新たに追加購入した法被です。

◆実施に伴う効果

例年であれば，県外遠征も含め，老人福祉施設や地域の夏祭りなど，年間１０以上のイベントに参加してきたが，コロナによって踊りを披露する場が大幅に減ってしまった。その分この三年間は，ひとつひとつのイベントに対してしっかりと準備し，ひたむきに取り組むことができた。参加したイベントでは，人とのふれあいの大切さを改めて感じることができた。

また，長年使用してきた法被が痛んでいたので，新たに法被を追加購入することとした。長年使用してきたデザインと同じものを購入することができたので，子供たちも愛着があり，喜んで着用していた。これからも長く活用していきたい。

◆苦労した点

コロナによりフラワーフェスティバルなど様々なイベントが中止となり，支援を二年間延期させていただいた。２０２０年度の申請時には，呉みなと祭やフラワーフェスティバルにおいて，呉市でよさこいに取り組む人たちと合同でパレードに参加し，呉を盛り上げていこうと計画していたが，三年間パレードが実施されることはなかった。

大きなイベントには参加できなかったが，少しずつ開催されるようになってきた地元の行事に，呉市でよさこいに取り組むチームと合同で参加し，観客に元気を届けることができた。

大きなイベントの参加費に充てる予定だった支援金は，法被の費用に追加させていただき，全部で３０枚の法被を購入することができた。

◆今後の課題・発展の方向性

この二年間イベントでの達成感や感動体験が少なかったこともあり，中学校卒業後にチームに残る生徒はいなかった。コロナによる規制が緩和され，様々なイベントが開催の方向で検討されている。県内外を問わず，多くのイベントに参加し，表現活動の喜びや達成感，地域貢献することの意義をしっかりと学ばせていきたい。

また，新曲づくりや，呉のよさこいチームと合同でイベントを盛り上げていくことで，チームの魅力を発信し，メンバーが増えていくよう工夫していく。

◆活動を終えての感想・意見等

コロナの影響により，思い描いた活動とはいかなかったが，苦しい中だからこそ，絆を深めることもできたし，新たな発見もできた。これから元の生活に戻ってくると思われるので，人とのつながりを大切にし，様々な場所で感動を与える踊りが披露できるよう，しっかりと練習を続けていきたい。ご支援本当にありがとうございました。

## ２．贈呈式

市民活動支援の贈呈式は、コロナ禍で 2020 年度は中止、2021 年度に続き今年度もオンラインでの開催となりました。今年度採択の 30 団体の皆様にお集まりいただき、贈呈式の後の交流会では各団体の活動を紹介していただきました。

**第 38 回（２０２２年度）マツダ財団市民活動支援贈呈式式次第**

**日 時　　２０２２年4月 14 日(木)　13：00 ～ 15：30**
**場 所　　オンライン （Microsoft Teams 使用）**

13：00-13：50　　**贈呈式**

出席者 65 名 56 回線（受贈 30 団体、広島県、山口県、マツダ財団関係者）

(1) 開会
(2) 出席者紹介
(3) マツダ財団挨拶（理事長　菖蒲田　清孝）
(4) 来賓ご挨拶（広島県環境県民局長　新宅　郁子　様）
(5) 来賓ご挨拶（山口県健康福祉部こども・子育て応援局長　　森光　淳子　様）
(6) 贈呈書贈呈（30 団体）
(7) 代表団体ご挨拶（２団体）
・ 浦崎地区社会福祉協議会　ＵＭＥプロジェクト　髙橋　真理子 様（広島県）
・ 宇部市地球温暖化ネットワーク 殿河内　誠　様（山口県）
(8) 記念撮影
(9) 閉会

---

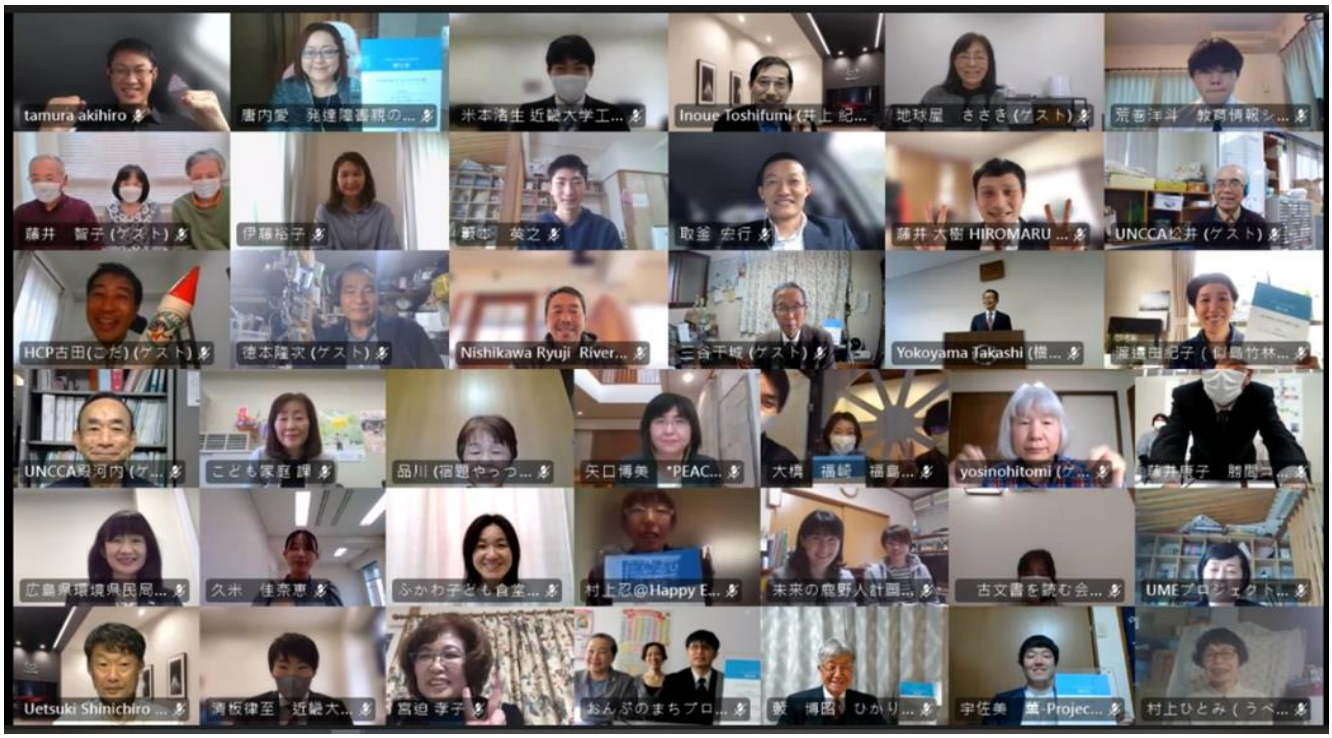
14：00-15：30　　**交流会**

出席者 59 名 50 回線（受贈 29 団体、マツダ財団関係者）

(1) 事務連絡
(2) 各団体の活動紹介・団体紹介（口頭で 2 分/団体）

15：30　　終了

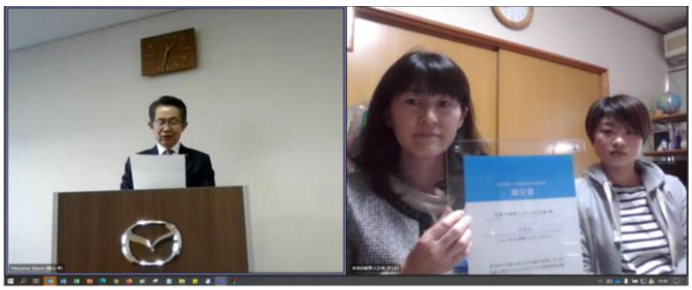
# オンライン贈呈式（2022/4/14）



広島県環境県民局
新宅局長

菖蒲田理事長

山口県健康福祉部こども・子育て応援局
森光局長



## ３．オンライン交流会（2022/6月～8月）

コロナで動けなくなった2020年から、毎年オンラインでの交流会を実施しています。現場でお会いするのとはまた違い、じっくりとお話が聞けるところが良い点です。コロナが収まっても、対面式とオンラインの両方で交流を深めていきたいと思っています。

今年度は、コロナ禍の影響で前年度及び前々年度から延期された12団体を含んだ42団体を対象に６回に分けて、オンラインでの交流会を実施しました。最終的に35団体52名の皆様にご参加いただきました。

# 4．オンラインサロン（2022/8月～12月）

コロナ禍で急速に普及したオンラインシステムを駆使して、2021年度よりマツダ財団サロンを開催することにしました。

似た活動あるいは同じ目的を持った団体を繋ぎ、より深くそのテーマについて議論することで、お互いに気づきが生まれ、より良い活動に進化するためのお手伝いをする。あるいは、孤独に陥りがちな市民活動団体を繋ぐことで、互いに励ましあい、切磋琢磨できる相手を紹介し、横の繋がりをもっていただく、そういう場にしたいと願っています。

オンライン交流会が、現在支援している団体を結ぶ横の繋がりであるのに対し、このサロンは、過去に支援した団体や研究者を結ぶ縦の繋がりにしたいと考えています。

昨年度4回、今年度も４回開催しました。

第５回「乳幼児の母親支援」
2022年8月22日（月）
●研究発表：
聖学院大学教授（2018年度採択）
大橋　良枝　様、
（共同研究者）　揖斐　衣海　様
●事例発表：
愛ねっとアカデミー（2021年度採択）
富田　雅子　様
府中町家庭教育支援チーム「くすのき」
（2017-2019年度採択）　米田　珠美　様

第6回「学習支援」
2022年9月23日（月）
●事例発表：
宿題やっつけ隊（2021-2022支援）　松岡　和貴　様
寺子屋ユウコチャングム（2021支援）　日高　優子　様
認定NPO法人 とりで（2019-2020支援）　高野　瞳　様

第7回「オンライン居場所」
2022年11月17日（木）
●研究発表：
愛媛大学教育学部　准教授　（2020年度採択）
富田　英司　様
和歌山大学教育学部　教授　（2020年度採択）
村瀬　浩二　様

第8回「在留外国人支援と異文化交流」
2022年12月3日（土）
●研究発表：
東北大学　特任講師（2019年度採択）　中野　遼子　様
（共同研究者）　菱田　伊駒　様、山森　祐毅　様
鹿児島大学　准教授（2019年度採択）　酒井　佑輔　様
●事例発表：
NPO法人ワン・フォー・オール　（2018-2020年度採択）
永井　勲　様

## ５．市民活動支援セミナー

オンラインを使った支援が何かできないかと検討し、今年度より開始したのが「市民活動支援セミナー」です。

市民活動団体は、青少年健全育成のために日々頑張って活動されていますが、小さな団体が多いため、十分な知識を持たず自己流で活動を推進されているところが多い印象です。そこで、専門家に講義をしてもらい、興味のある人に無料で聴講してもらうことで、今後の活動の基盤となる知識をえていただければと思っています。 今年度は２回実施しました。

第１回　「少年期の心理」

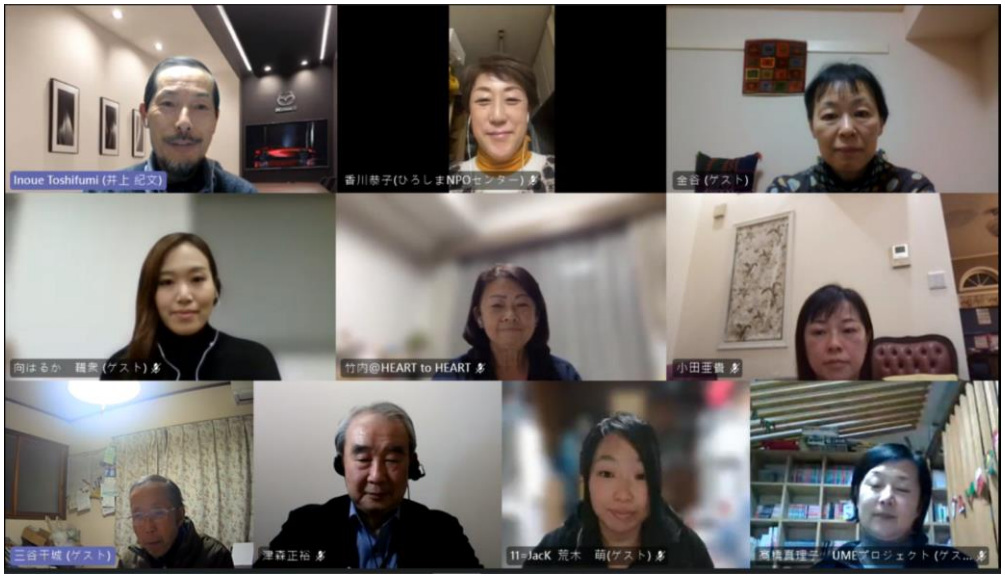
カウンセリングにおける基本的な関わり技法を学ぶ。相手の話を無視するケースと傾聴技法を用いて聞くケースを体験し、話す側、聞く側双方の感じ方を話し合う等のワークを行うことで、傾聴技法を身に着ける。

講師：比治山大学現代文化学部社会臨床心理学科　講師　木谷智子　様

第２回　「市民活動の意義　～ソーシャル・キャピタルの観点から～」

市民活動を俯瞰すると学問的にはどのように見えるのか、ソーシャル・キャピタル（社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを、資源としてとらえて評価する考え方）の観点から考える。

講師：　広島市立大学国際学部（非営利組織論）　教授　金谷　信子　様



## 6．支援団体News

今年度から、支援している団体のイベント情報や掲載記事、それに財団員が見学に行った際の訪問記をマツダ財団のHPに掲載しています。

従来は、「市民活動訪問記」としていましたが、コロナ禍で訪問できず、２年間更新されていませんでした。今年度支援した団体から自団体のイベント情報を掲載してほしいとの依頼を受け、関係情報を取り上げるコーナーに変更しました。

その後、HP掲載だけではほとんど見ていただけないので、もう少し積極的な情報発信として「支援団体News」をメールでお送りすることにしました。最初は今までに支援した市民団体だけにしていましたが、もっと多くの関係者に知ってもらいたいので、研究者、大学関係者、市役所、中間支援団体、その他マツダ財団の青少年健全育成でお世話いただいている約600名に配信しています。今年度は、現在第19号まで発信しています。

このメール配信を始めたことで、支援している団体からの情報提供、近況報告が増えてきました。また、過去に支援した団体からのお便りもあり大変嬉しく思っています。

【マツダ財団】支援団体News 13
（マツダ財団の活動をご支援いただいている皆様にBCCでお送りしています。）

各位

いつもお世話になります。

今回のNewsは、リマインドも含めて６件です。

１．11/27（日）安芸府中生涯学習センターくすのきで開催されるヒューマンフェスタで
「おんぷのまちプロジェクト」が人権紙芝居「おんぷのまちものがたり」を公演します。
今年度新たに作成されたキャラクターのらーぼうとやすみちゃんが活躍します。
https://mzaidan.mazda.co.jp/news/2022/img/SJ/no36.pdf

## ７．終了時交流会

コロナが少し収まり緩和政策が出される中、終了時交流会を３年ぶりに対面で開催しました。今年度は、これまでコロナ禍で延期をしていた団体・研究者も加え、終了予定は市民団体 38 団体と研究者 9 名となり昨年よりも大幅に増えました。まだまだコロナに注意が必要なため、研究者１名、市民団体２名までに人数制限した結果、交流会には研究者 8 名（全国）と市民団体 33 団体（広島県 24 団体、山口県 9 団体）総勢 67 名にご参加いただきました。

恒例となりました明石先生の基調講演では、「Well・Being(ウエルビーイング)の地域を目指して」と題して、お話をいただきました。学校は「未来」を目指しスキルアップさせる。地域は「今」を大切にして幸せを提示する。「今」を大切にするには、「行事」が欠かせない。市民団体の活動は、今を大切にするためになくてはならないものだと勇気づけられました。

今回は終了者が多いため、ポスターセッションを３つに分けて実施しました。A：研究者 8 名、B：市民団体 16 団体、C：市民団体 17 団体。最初にパワーポイント１枚で研究紹介・活動紹介をしていただき、興味をもった研究者・市民団体のブースで詳細説明を聞いていただきました。発表者と近い距離で話を聞くことができて大変参考になったという意見を多くいただきました。一方で、もっとゆっくり・多くの人から話を聞く時間が欲しかった、ギャラリーは狭かったとの意見もありました。３回に分けることで、隣り合わせにならないようにレイアウトに配慮しましたが、大型パネルで仕切るため部屋がかなり手狭になってしまいました。また、会議室とギャラリーが少し離れていたため、３度の往復に時間がかかりました。

パネルディスカッションでは、野田先生にファシリテーターをお願いし、大変すばらしい活動をされていた３名の方に発表いただきました。70 代男性の三谷さんから女子大生の佐藤さん、その間の世代の藤井さんと男女、地域の異なる皆さんに、同じ話題でしっかりと意見を交えていただきました。

お蔭様で、この会の目指す研究と実践の融合、地域・世代を超えた交わりが十分に果たせた有意義な場になりました。皆様のご協力に感謝いたします。

このような場をきっかけに、色々な方が緩やかに繋がり、研究や活動がより活発に発展していくことを願っています。１年間の活動ありがとうございました。コロナで延期されていた皆様が無事終了されてホッとしました。大変お疲れ様でした。

**2022 年度「青少年健全育成関係　研究＆市民活動　終了時交流会」式次第**

日時：2023 年 2 月 23 日（木）13:00-17:00

場所：広島市南区民文化センター　　大会議室 A,B、ギャラリー

〒732-0816 広島市南区比治山本町 16 番 27 号（広島産業文化センター3 階）

参加者：研究者 8 名、市民活動 33 団体 50 名、選考委員 3 名、マツダ財団 6 名、総勢 67 名

実施内容：

- 基調講演　（選考委員　千葉敬愛短期大学学長　明石要一　様）
  「Well・Being(ウエルビーイング)の地域を目指して」
- 研究者、市民活動団体共に、簡単な紹介後、ポスターセッション
- パネルディスカッション
  「地域における青少年健全育成取り組みの楽しさと悩み」

タイムスケジュール：

ギャラリーは準備のため 10:00 開場

| | |
|---|---|
| 12:00 | 受付開始 |
| 13:00 | 開会宣言（山内常務理事） |
| | 参加者紹介 |
| 13:15 | マツダ財団挨拶（菖蒲田理事長） |
| 13:20 | 明石先生基調講演 |
| 13:30 | 研究内容紹介（8 名）　2 分/人 ⇒　ポスターセッション A |
| 14:20 | 市民活動紹介（16 団体）1 分/団体　⇒　ポスターセッション B |
| 15:10 | 市民活動紹介（17 団体）1 分/団体　⇒　ポスターセッション C |
| 16:00 | パネルディスカッション（司会：近畿大学　野田満　様） |
| 17:00 | 閉会宣言（山内常務理事） |

パネリスト

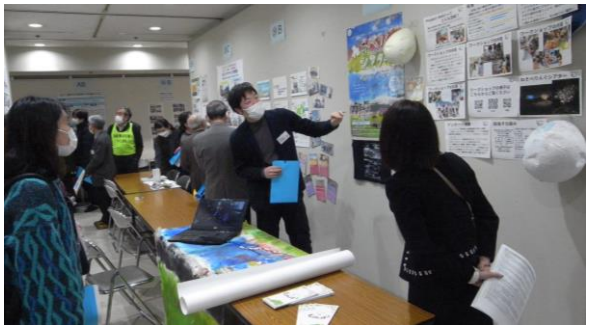
| | | |
|---|---|---|
| 広島市 | Hiroshima Young Peace Builders | 佐藤優　様 |
| 福山市 | 子どもが科学に親しむ場を創る会 | 三谷干城　様 |
| 周南市 | 勝間コミュニティ推進協議会 | 藤井康子　様 |

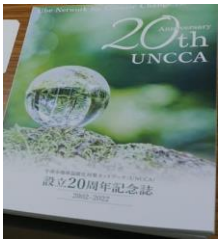
## ■菖蒲田理事長挨拶

## ■明石先生基調講演

## ■研究報告

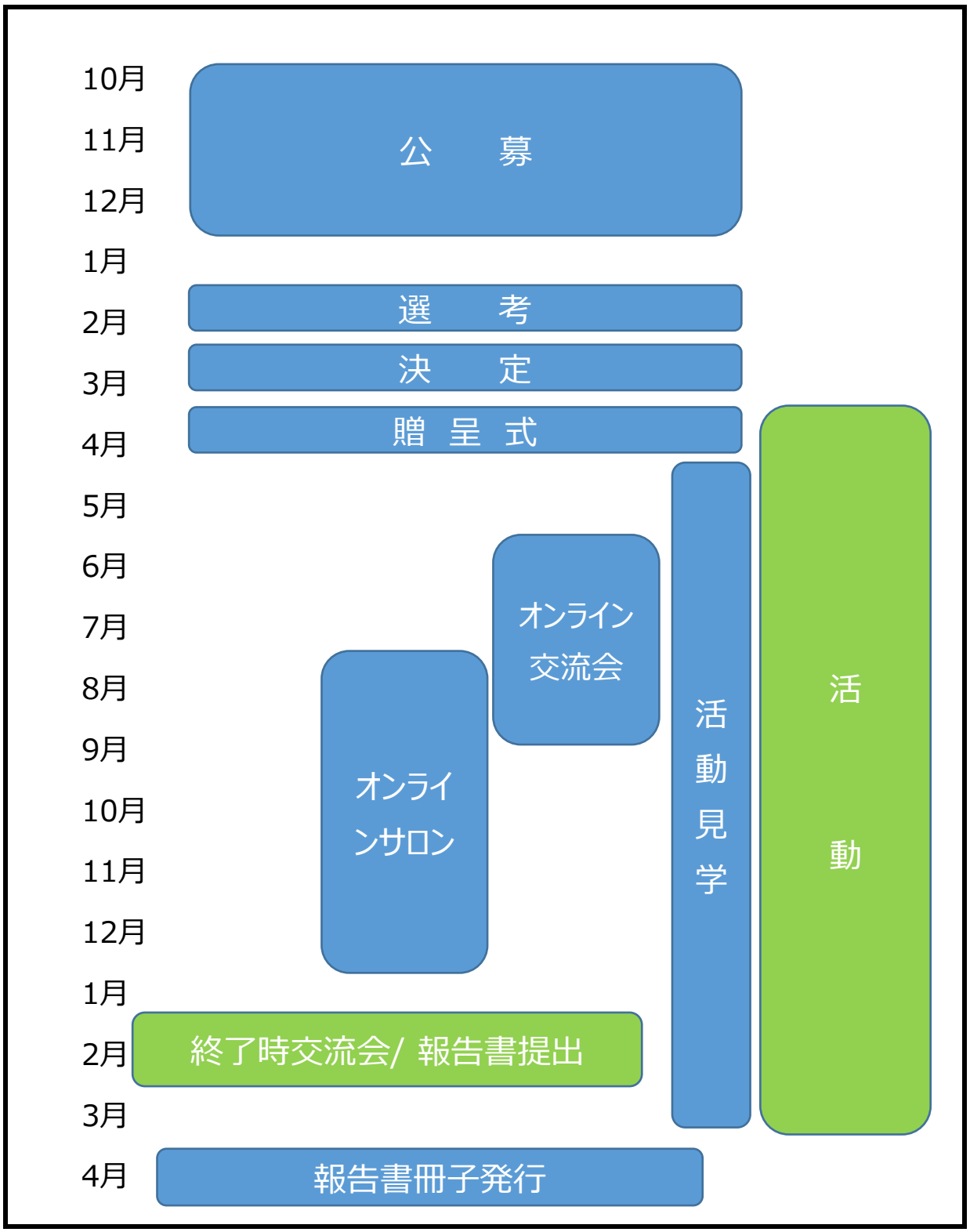
## ■市民活動報告



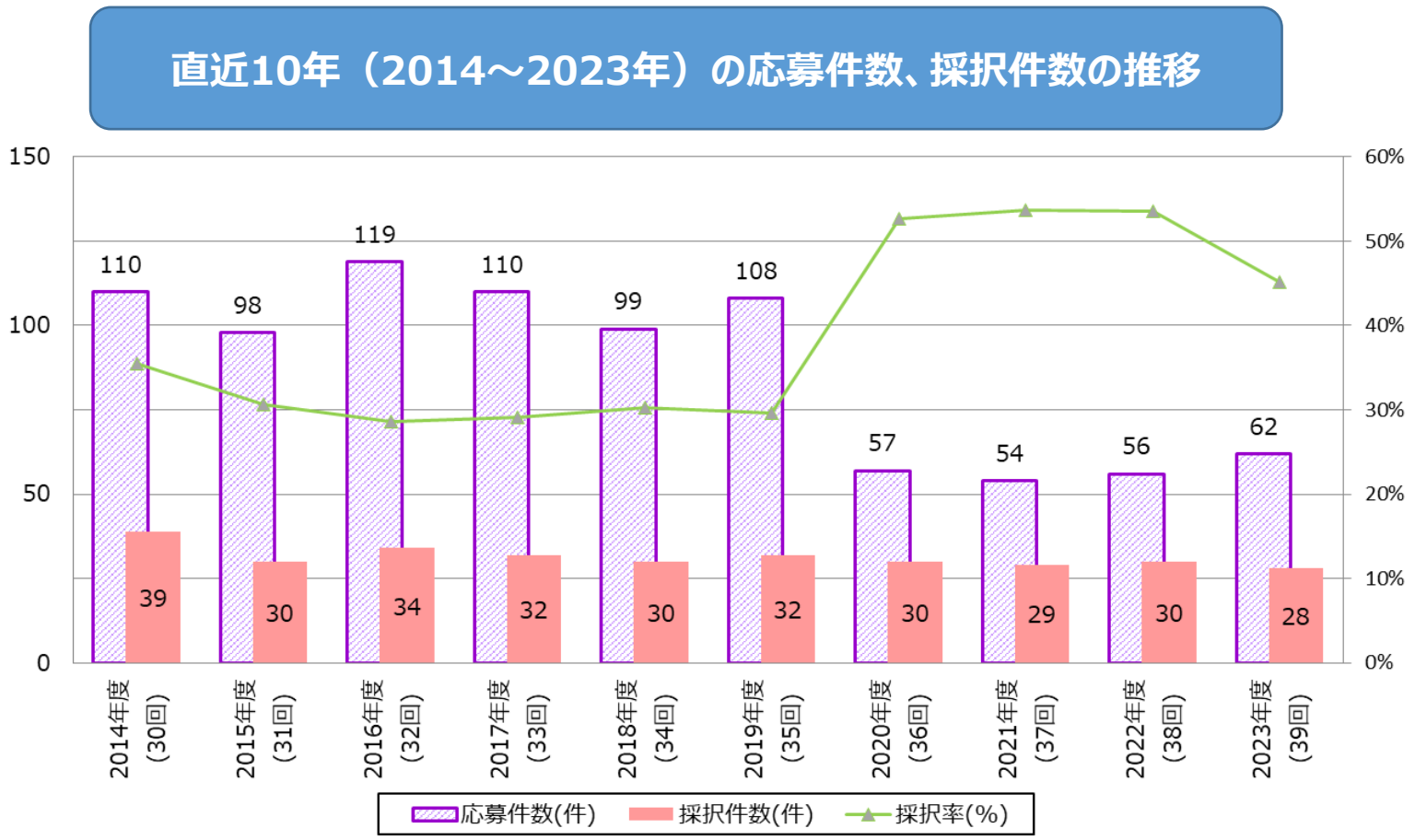


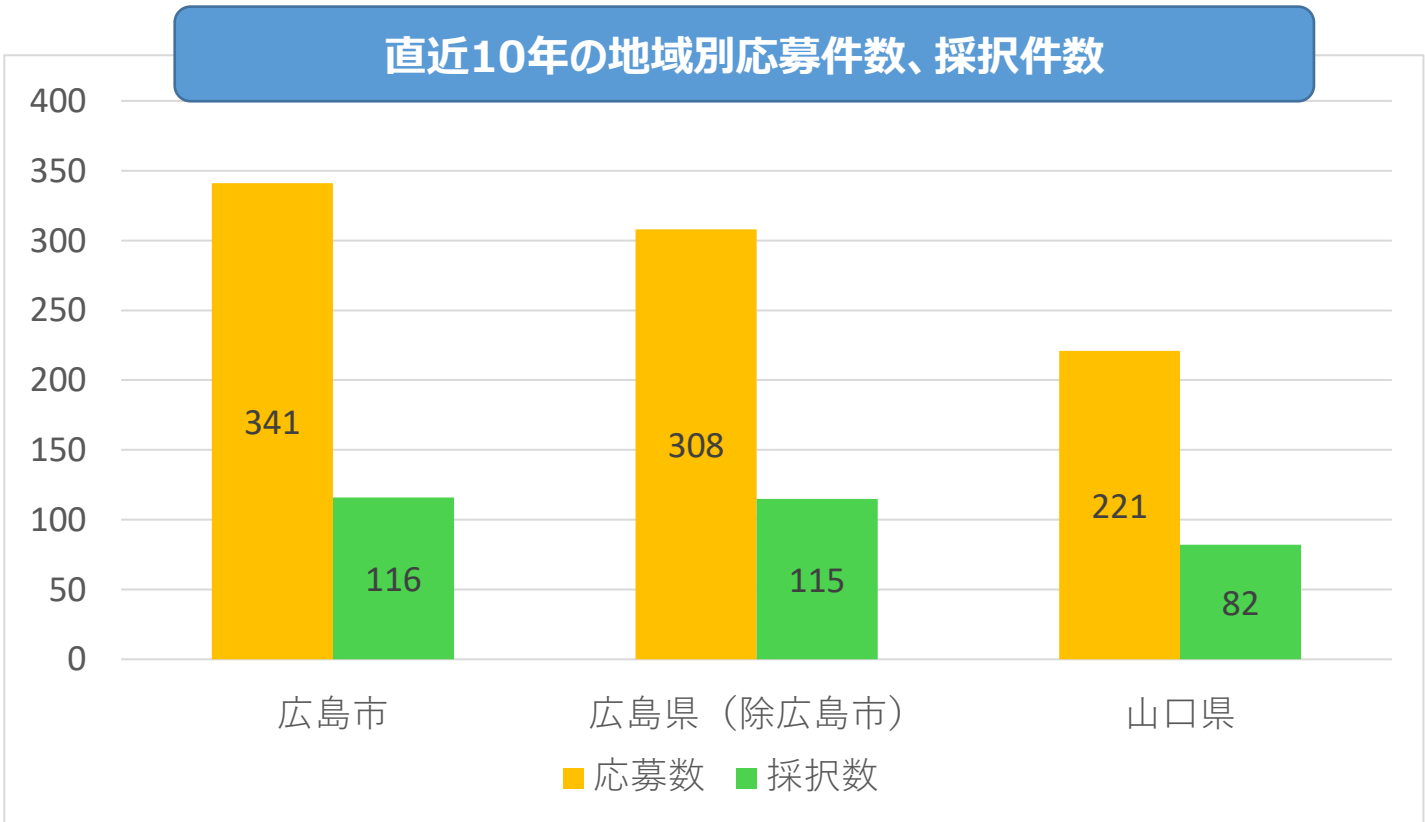
## ■パネルディスカッション

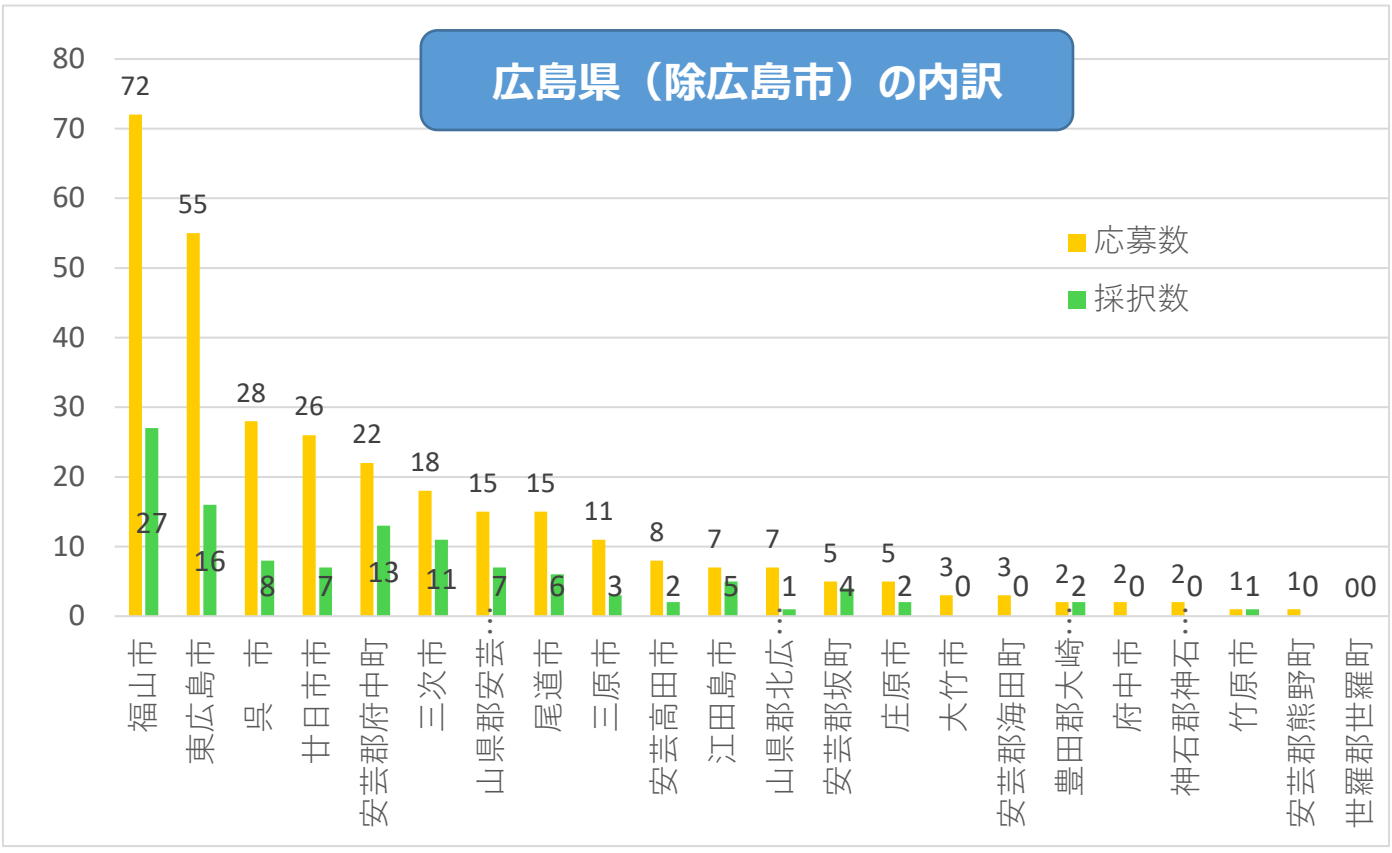
## ８．公募～報告書冊子発行までの流れ

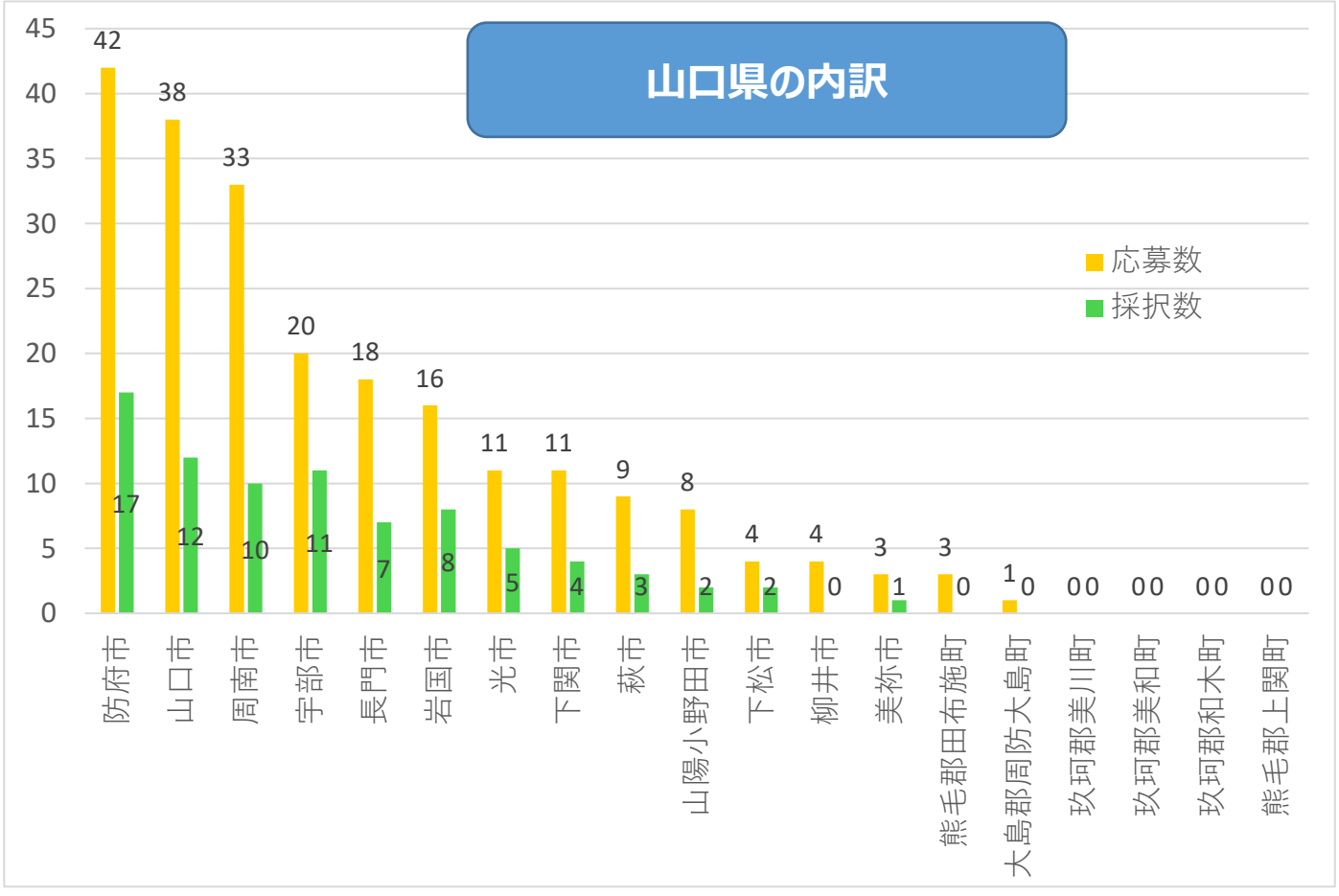


## ９．応募＆採択に関するデータ




広島県（除広島市）の内訳
応募数
採択数
80
70
60
50
40
30
20
10
0
福山市 72 27
東広島市 55 16
呉 市 28 8
廿日市市 26 7
安芸郡府中町 22 13
三次市 18 11
山県郡安芸… 15 7
尾道市 15 6
三原市 11 3
安芸高田市 8 2
江田島市 7 5
山県郡北広… 7 1
安芸郡坂町 5 4
庄原市 5 2
大竹市 3 0
安芸郡海田町 3 0
豊田郡大崎… 2 2
府中市 2 0
神石郡神石… 2 0
竹原市 1 1
安芸郡熊野町 1 0
世羅郡世羅町 0 0


山口県の内訳
応募数
採択数
45
40
35
30
25
20
15
10
5
0
防府市 42 17
山口市 38 12
周南市 33 10
宇部市 20 11
長門市 18 7
岩国市 16 8
光市 11 5
下関市 11 4
萩市 9 3
山陽小野田市 8 2
下松市 4 2
柳井市 4 0
美祢市 3 1
熊毛郡田布施町 3 0
大島郡周防大島町 1 0
玖珂郡美川町 0 0
玖珂郡美和町 0 0
玖珂郡和木町 0 0
熊毛郡上関町 0 0

編集後記

2020年から続いてきたコロナ禍での活動自粛が漸く緩和されてきました。活動が思うように進まず、計画しては中止を繰り返され終了時期を延期されていた団体のほとんどが今回終了されました。また、残念ながら実施の目途が立たずいくつかの団体は辞退されました。本当に長い間お疲れ様でした。

コロナ禍で、我々も動けず、2020年以降は贈呈式も終了時交流会もオンライン開催を余儀なくされてきました。反対に、コロナ禍で一気に普及したオンラインシステムを駆使して、交流会やサロンを開催してきました。これらは大変有効な手段だと思います。これからも対面式と併用して活用していきたいと考えています。

2021年度からテーマを絞っての交流の場「マツダ財団サロン」をオンラインで開催してきましたが、研究者と市民団体がお互いに発表し交流する良い場になっていると思います。少人数で開催していますので、より身近に感じられ、毎回気づきをいただいています。

ここにきて漸くコロナ禍は出口が見えてきましたが、ロシアによるウクライナ侵略戦争は１年が経った今も出口が見いだせていません。一刻も早くウクライナの人々に安寧な時が訪れることをを祈念します。これからの平和な世の中を作るのは子どもたちです。終了時交流会の基調講演で明石先生が言われたように、「市民団体の活動は、今を大切にするためになくてはならないもの」です。Well・Being(ウエルビーイング)な地域を作り、子供たちの豊かな感性を育てるためには市民団体の皆様の活動が不可欠です。これからもどうか良い活動を継続してください。マツダ財団も少しでもお役に立てるよう努力していきす。

マツダ財団の活動内容等詳細につきましては
当財団のホームページをご覧ください。
https://mzaidan.mazda.co.jp

# マツダ財団支援　第38回（2022年度）市民活動報告書

発行者　公益財団法人　マツダ財団
〒730-8670　広島県安芸郡府中町新地３－１
マツダ㈱内
電話　082-285-4611
FAX　082-285-4612
e-mail　mzaidan.sj@mazda.co.jp

発行日　2023年4月

印刷　マツダエース㈱

公益財団法人マツダ財団